

平成16年度（2004）

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

第10回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会

徳島大会報告書

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会



徳島県立小松島西高等学校

目 次

開催要項	1
来賓・主催者	3
日程	4
理事会・学科主任代表者会議	14
小松島西高等学校 福祉科公開授業	16
開会行事	28
基調講演	34
ブロック会議	37
校長会総会・研究協議会	59
分科会 1	64
分科会 2	78
全体報告会	91
講演	93
指導講評	99
閉会行事	103
平成15年度事業報告・決算報告	105
平成16年度事業計画・予算・組織図・加盟校・役員・学科主任等代表者	107
総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会 会場一覧・分科会分担一覧	113
欧州社会福祉研修報告	117
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 加盟校一覧	131
広告	139

平成 16 年度
 全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
 第 10 回総会・研究協議会 並びに学科主任等研究協議会

開 催 要 項

- 1 研究主題 「21 世紀の福祉社会を担う人材育成をめざして」
 ～地域と共に歩み 社会的実践力を育てる高校福祉教育～
- 2 期 日 平成 16 年 10 月 27 日（水）～ 29 日（金）
- 3 会 場 徳島県立小松島西高等学校
 徳島県教育会館
 徳島県郷土文化会館
 ホテルクレメント徳島
- 4 主催等 主催 全国高等学校長協会家庭部会
 全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会
- 共 催 徳島県教育委員会
- 後 援 香川県教育委員会
 愛媛県教育委員会
 高知県教育委員会
 徳島県教育会
 徳島県高等学校教育研究会家庭部会
 徳島県高等学校教育研究会福祉部会
- 主 管 徳島県立小松島西高等学校

5 基本日程

10 月 27 日（水）＜役員会＞ ホテルクレメント徳島

15:00 15:30 17:00

受 付	理 事 会
	学科主任代表者会議

10 月 28 日（木）＜第 1 日目＞ 小松島西高等学校, 徳島県教育会館, ホテルクレメント徳島

8:40 9:10 10:00 11:00 11:45 12:25 13:15 13:55 14:25 14:40 16:45 18:30 20:30

受 付	公 開 授 業	会 場 移 動	開 会 行 事	基 調 講 演	昼 食	ブ ロ ッ ク 別 会 議	シ ア ト ヨ ラ ン ク	休 憩	校 長 会 総 会 ・ 研 究 協 議 会	教 育 懇 談 会
小松島西高校		教 育 会 館							ホ テ ル ク レ メ ン ト	

10 月 29 日（金）＜第 2 日目＞ 徳島県郷土文化会館

9:20 10:20 11:30 11:40 12:20 12:40

全 体 報 告 会	講 演 会	休 憩	文 部 科 学 省 指 導 講 評	閉 会 行 事
-----------------------	-------------	--------	---	------------------

6 日 程

(1) 理事会・学科主任代表者会議 10月27日(水)

受	付	15:00～15:30
理	事	15:30～17:00
学	科	15:30～17:00
主	任	
代	表	
者	会	
議	議	

(2) 第1日目 10月28日(木)

受	付	8:40～9:10
公	開	9:10～10:00
授	業	
開	会	11:00～11:45
行	事	
基	調	11:45～12:25
講	演	
昼	食	12:25～13:15
ブ	ロ	13:15～13:55
ッ	ク	
別	会	
議	議	
ア	ト	13:55～14:25
ラ	ク	
シ	ョ	
ン		
休	憩	14:25～14:40
校	長	14:40～16:45
会	総	
会	・	
研	究	
協	議	
会	会	14:40～16:45
学	科	
主	任	
等	研	
究	協	
議	會	
教	育	18:30～20:30
懇	談	
會	會	

(3) 第2日目 10月29日(金)

全	体	報	告	會	9:20～10:20				
講		演		會	10:20～11:30				
休				憩	11:30～11:40				
文	部	科	学	省	指	導	講	評	11:40～12:20
閉	會	行	事		12:20～12:40				

来 賓 ・ 主 催 者

1 来 賓

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部

教育課程調査官

文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官

矢 幅 清 司

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室

マンパワー企画係長 資格・試験係長

曾 我 昌 樹

徳島県教育委員会教育長

松 村 通 治

徳島県立総合教育センター所長

井 上 正 信

徳島県高等学校長協会会長

大 岡 慶 久

徳島県立総合教育センター学校支援課課長

井 上 京 子

徳島県立総合教育センター学校支援課指導主事

川 村 桂 子

2 主 催 者

全国高等学校長協会家庭部会理事長

上 田 有 宏

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会長

木 村 行 幸

全国高等学校長協会家庭部会事務局長

小 島 和 雄

全国高等学校長協会家庭部会事務局次長

坂 井 紘 子

全国高等学校長協会家庭部会事務局参与

小 暮 通 夫

徳島県高等学校長協会家庭部会会長

小 倉 正 幹

日 程

10月27日(水)

15:30～17:00

理 事 会

ホテルクレメント徳島 薫風・清風の間

司会進行 三重県立上野商業高等学校 校長 辻 井 賢 隆

記 録 千葉県立松戸矢切高等学校 井 上 明 佳

10月27日(水)

15:30～17:00

学科主任等代表者会議

ホテルクレメント徳島 緑風の間

司会進行 千葉県立松戸矢切高等学校 教諭 鈴 木 恭 太

記 録 三重県立明野高等学校 教諭 西 嶋 秀 子

10月28日(木)

9:10~10:00

公開授業

徳島県立小松島西高等学校

- 「社会福祉基礎」

学	習	者	福祉科1年(16HR)
場		所	視聴覚教室(3号館3階)
指	導	者	徳島県立小松島西高等学校 教諭 阿部 美恵

- 「社会福祉実習」

学	習	者	福祉科2年(26HR)
場		所	介護実習室(福祉実習棟1階)
指	導	者	徳島県立小松島西高等学校 教諭 亀島 木綿子

- 「社会福祉援助技術」

学	習	者	福祉科2年,3年(26HR 36HR)
場		所	社会福祉実習室(福祉実習棟2階)
指	導	者	徳島県立小松島西高等学校 教諭 佐々 由美子

- 「課題研究(福祉情報処理)」

学	習	者	福祉科3年(36HR)
場		所	CG室(3号館3階)
指	導	者	徳島県立小松島西高等学校 教諭 伊丹 育代

10月28日(木)

11:00～11:45

開会行事

徳島県教育会館 大ホール

- | | | | | | |
|---|----------|-----------------------|-----|----|----|
| 1 | 開会のことば | 香川県尽誠学園高等学校 | 校長 | 田山 | 棟信 |
| 2 | 主催者あいさつ | 全国高等学校長協会家庭部会 | 理事長 | 上田 | 有宏 |
| | | 全国高等学校長協会家庭部会福祉科校長会 | 会長 | 木村 | 行幸 |
| 3 | 来賓祝辞 | 文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 | | 矢幅 | 清司 |
| | | 徳島県教育委員会教育長 | | 松村 | 通治 |
| 4 | 来賓紹介 | 徳島県立辻高等学校 | 校長 | 白石 | 基章 |
| 5 | 主管校挨拶 | 徳島県立小松島西高等学校 | 校長 | 小倉 | 正幹 |
| 6 | 10周年記念表彰 | 全国高等学校長協会家庭部会福祉科校長会 | 前会長 | 高橋 | 照夫 |
| 7 | 閉会のことば | 香川県立三木高等学校 | 校長 | 市原 | 唯夫 |

司会進行
記 録

徳島県立鳴門第一高等学校
香川県立三木高等学校
徳島県立城西高等学校

校長 篠原 道佳
教諭 竹内 泰枝
教諭 橋本佳代子

10月28日(木)

11:45～12:25

基調講演

徳島県教育会館 大ホール

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室
マンパワー企画係長 資格・試験係長

曾 我 昌 樹

司会進行
記 録

徳島県立阿波西高等学校
愛媛今治明德高等学校
徳島県立城西高等学校

校長 田淵 憲治
教諭 大西 浩一
教諭 岡本 裕子

10月28日(木)

12:25 ~ 13:15

昼 食

食事場所：徳島県教育会館 小ホール(5F)

10月28日(木)

13:15 ~ 13:55

ブロック別会議

徳島県教育会館 (9会場)

北海道	和室	(3階)
東北	研修室A	(4階)
関東	小ホール	(5階)
北信越	研修室B	(4階)
東海	小ホール	(5階)
近畿	小研修室B	(4階)
中国	小研修室A	(4階)
四国	小ホール	(5階)
九州・沖縄	研修室	(2階)

司会進行 各ブロック学科主任代表者
記 録 各ブロック学科主任代表者

10月28日(木)

13:55 ~ 14:25

アトラクション
(阿波踊り)

徳島県教育会館 大ホール

司会進行 徳島県立小松島西高等学校 教頭 笹倉 潤次

*休憩

14:25 ~ 14:40

10月28日(木)

14:40～16:45

校長会総会・研究協議会

徳島県教育会館

小ホール

[総会]

- | | | | | | |
|---|--------|--|----|-----|-----|
| 1 | 開会のことば | 岐阜県立坂下高等学校 | 校長 | 佐々木 | 信雄 |
| 2 | 会長あいさつ | 全国福祉科高等学校長会 | 会長 | 木村 | 行幸 |
| 3 | 議長選出 | | | | |
| 4 | 議事 | | | | |
| | ① | 平成15年度事業報告 | | | |
| | ② | 平成15年度会計決算報告 | | | |
| | ③ | 平成16年度事業計画(案) | | | |
| | ④ | 平成16年度会計予算(案)(予備費削減) | | | |
| | ⑤ | 平成16年度役員 | | | |
| | ⑥ | 表彰規定 | | | |
| | ⑦ | 会長の選出方法 | | | |
| | ⑧ | その他 | | | |
| 5 | 報告・連絡 | | | | |
| | ① | 加盟校数 | | | |
| | ② | 「介護福祉士」の待遇改善要望について | | | |
| | ③ | 「介護福祉士試験のあり方等介護福祉士の質の向上に関する検討会報告書」について | | | |
| | ④ | 「介護保険制度の見直しに関する意見」について | | | |
| | ⑤ | 「介護福祉士の資格を有する高等学校卒業生について」アンケート結果について | | | |
| | ⑥ | 「研修案内」 | | | |
| | ⑦ | その他 | | | |
| 6 | 閉会のことば | 奈良県立榛原高等学校 | 校長 | 鈴木 | 信隆 |
| | 司会進行 | 長野県立上田千曲高等学校 | 校長 | 飯島 | 彦太郎 |
| | 記録 | 愛媛県立新居浜南高等学校 | 教諭 | 藤田 | 優子 |
| | | 徳島県立阿波西高等学校 | 教諭 | 田上 | 佳美 |

[研究協議会]

研究協議題

- ① 第16回介護福祉士国家試験の結果について
- ② 介護福祉士試験について
- ③ 今後の高校教育の在り方について
- ④ その他

指導助言	文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官	矢幅	清司
司会進行	青森東奥学園高等学校	校長	高橋 福太郎
記録	愛媛県立新居浜南高等学校	教諭	藤田 優子
	徳島県立阿波西高等学校	教諭	田上 佳美

* 校長会総会・研究協議会に平行して学科主任等研究協議会（分科会(1)及び(2)）を開催

10月28日（木）

14：40～16：45

学科主任等研究協議会
分科会（1）

徳島県教育会館

大ホール

1 現場実習

発表 「現場実習の現状と課題」

群馬県立新田暁高等学校

教諭 大澤 瑞穂

教諭 摩庭 宏美

2 資格取得

発表 「心豊かな介護福祉士をめざして」

岐阜県立大垣桜高等学校

教諭 渡辺美智子

指導助言 徳島県立総合教育センター学校支援課指導主事 川村 桂子

司会進行 長野県立上田千曲高等学校 教諭 小林 逸元

大分県立野津高等学校 教諭 南 富美子

記 録 愛媛県立北条高等学校 教諭 矢野 礼子

愛媛松山城南高等学校 教諭 中田千栄子

10月28日(木)

14:40 ~ 16:45

学科主任等研究協議会
分科会 (2)

徳島県教育会館

研修室A

1 **進路指導**

発表 「長浜高校における進路指導」

滋賀県立長浜高等学校

教諭

村元 研二

2 **授業研究**

発表 「社会保険について」

香川県尽誠学園高等学校

教諭

長畑 満弘

指導助言

徳島県立阿波西高等学校

教頭

佐藤美知代

司会進行

島根県立松江農林高等学校

教諭

中倉恵美子

長崎県立大村城南高等学校

教諭

下田かおる

記 録

香川尽誠学園高等学校

教諭

楠見寿一郎

香川県立飯山高等学校

教諭

池内 美保

10月29日(金)

9:20~10:20

全体報告会

徳島県郷土文化会館

大会議室

1 校長部会報告 香川県立飯山高等学校 校長 斉藤賢一

2 主任等の部会報告

① 分科会(1) 長野県立上田千曲高等学校 教諭 小林逸元

② 分科会(2) 島根県立松江農林高等学校 教諭 中倉恵美子

3 報告

① 家庭部会事務局報告
全国高等学校長協会家庭部会事務局次長 坂井紘子

② 福祉科校長会事務局
全国福祉科高等学校長会事務局
千葉県立松戸矢切高等学校 教諭 鈴木恭太

司会進行 徳島県立城西高等学校 校長 多田実
記録 香川県立飯山高等学校 教諭 山本健二
徳島県立辻高等学校 教諭 石川佳子

10月29日(金)

10:20~11:30

講演

徳島県郷土文化会館

大会議室

演題 「高校福祉科に期待すること～ハードパワーからソフトパワーへ～」

講師 同志社大学 文学部教授 黒木保博(くろき やすひろ)氏

略歴 1948年 宮崎県日向市生まれ

1973年 同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻修士課程修了,京都市社会福祉協議会,京都市福祉の風土づくり推進協議会勤務を経て,同志社大学文学部助手,専任講師,助教授となり,現在文学部教授,大学院文学研究科教授。この間,アメリカ合衆国ジョージ・ウィリアムズ大学ソーシャルワーク大学院,テネシー大学ソーシャルワーク大学院客員研究員を務めた。

1998年 同志社大学企画部長

2000年 アメリカ研究所所長

2002年 文学部長・文学研究科長,同志社大学歴史資料館館長を務め,現在に至る。

各種団体委員等

社団法人日本社会福祉教育学校連盟副会長・常務理事

社団法人日本社会福祉士養成校協会理事

財団法人社会福祉振興・試験センター社会福祉士試験委員会副委員長

日本社会福祉学会理事(国際渉外担当),関西社会福祉学会理事,等

専門

ソーシャルワーク理論,グループワーク論,国際社会福祉

主な著書

単著『フロストバレーの子どもたち』(ミネルヴァ書房)1990年,

共著『社会福祉の新潮流-エコロジカル・システム・アプローチ』(ミネルヴァ書房)

1998年,『グループワークの専門技術』(中央法規出版)2001年,など

編著『社会福祉援助技術論』(ミネルヴァ書房)2002年,『ソーシャルワーク実践とシステム』(有斐閣)2002年,などほかに論文多数

司会進行	徳島県立那賀高等学校	校長	伊勢 正伸
講師紹介	徳島県立鳴門第一高等学校	校長	篠原 道佳
謝辞	徳島県立鳴門第一高等学校	校長	篠原 道佳
記録	高知県立城山高等学校	教諭	野中 昭良
	徳島県立那賀高等学校	教諭	亀代みつ子

10月29日(金)

11:40～12:20

指導講評

徳島県郷土文化会館

大会議室

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官

矢幅 清司

司会進行

徳島県立阿波西高等学校

校長 田淵 憲治

記 録

高知県立室戸高等学校

教諭 別役 千世

徳島県立鳴門第一高等学校

教諭 山本 尚子

10月29日(金)

12:20～12:40

閉会行事

徳島県郷土文化会館

大会議室

1 開会のことば

愛媛松山城南高等学校

校長 福地 勝哉

2 主催者あいさつ

全国高等学校長協会家庭部会福祉科校長会

会長 木村 行幸

3 次回主管校あいさつ

三重県立明野高等学校

校長 佐藤 良一

4 主管校あいさつ

徳島県立小松島西高等学校

校長 小倉 正幹

5 閉会のことば

愛媛県立北条高等学校

校長 友田 義一

司会進行

徳島県立辻高等学校

校長 白石 基章

記 録

愛媛県立川之石高等学校

教諭 渡部加代子

徳島県立鳴門第一高等学校

教諭 新見 明美

理事会 平成16年10月27日(水) 15:30～17:00 ホテルクレメント徳島
司会進行：辻井 賢隆(三重県立上野商業高等学校)
記 録：井上 明佳(千葉県立松戸矢切高等学校)

- 1 あいさつ 全国高等学校長協会家庭部会事務局長 小島 和雄
文部科学省初等中等教育局参事官付 教科調査官 矢幅 清司
全国福祉科高等学校長会会長 木村 行幸
徳島大会 主管校 小松島西高等学校長 小倉 正幹
- 2 報 告
 - 1 平成15年度事業報告・決算報告・監査報告
 - 2 平成16年度事業計画・予算案
 - 3 平成16年度役員
 - 4 平成16年度加盟校(加盟校が加わり、210校となる)
 - 5 介護福祉士試験の在り方等介護福祉士の質の向上に関する検討会報告書
 - 6 介護保険制度見直しに関する意見
 - 7 第14回全国産業教育フェア(広島県10月30・31日)
 - ・開催期間：10月29(金)～31日 広島県郵便貯金ホール、他
 - ・出場校：野津高校、久賀高校、倉敷中央高校
 - 8 第15回全国産業教育フェア
 - ・開催期間：11月26～27日 東京、お台場
 - ・参加校：千葉県松戸矢切高校・埼玉県不動岡誠和高校・栃木県田沼高校
 - 9 教員研修
 - ・夏休みのL-1(介護技術)L-2(社会福祉援助技術)は来年から有料になる
かもしれません。スウェーデン、デンマークの海外福祉研修報告
 - 10 平成17年度第1回理事会(5月27日予定)
 - 11 その他
 - ・NHKみんなの手話、等見本の配布
- 3 協議事項
 - 1 平成16年度全国大会(徳島大会)運営について
主管校校長 小倉正幹(徳島県立小松島西高等学校)
 - 2 平成17年度全国大会(三重大会)運営について
主管校教頭 野村良嗣(三重県立明野高等学校)
 - ・今年度との違いは、3日間だったところを2日間に。また多くの学校が
参加できるよう、開催時期を夏季休業中に移動させる。
 - 3 表彰規程について
 - 4 福祉科校長会会長の選出方法について
 - 5 今後の高等学校福祉教育の在り方について
 - 6 その他
- 4 講 話
講師 文部科学省初等中等教育局参事官付 教科調査官 矢幅清司
演題「福祉科高等学校長会に望むこと」

1 報告事項

- (1) 研修部(埼玉県立不動岡誠和高等学校 佐藤)
 - ① 指導書作成について
- (2) 調査統計部(香川県立飯山高等学校 北村)
 - ① 全国基礎調査について
- (3) 広報部(長野県立上田千曲高等学校 小林)
 - ① 関係官庁の情報や各学校の情報交換の場としての活動について
- (4) 事務局(千葉県立松戸矢切高等学校 鈴木)
 - ① 平成16年度加盟校について
 - ② 「介護福祉士試験のあり方等介護福祉士の質の向上に関する検討会報告書」について
 - ③ 社会福祉士及び介護福祉士法施行規則の一部を改正する省令案及び介護技術講習実施要領(案)に関するご意見募集について」に対して寄せられた意見について
 - ④ 官報「社会福祉士及び介護福祉士法施行規則の一部を改正する省令」について
 - ⑤ 第14回全国産業教育フェア(広島大会・10月29日~31日)について
 - ⑥ 第15回全国産業教育フェア(東京大会・11月26・27日)について
 - ⑦ 「平成16年度 産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修」について
 - ⑧ その他
 - ・福祉教員募集について
- (5) 北海道置戸高校(北海道立置戸高校学校 前田)
 - ① 「卒業生の実態調査」及び「福祉科卒業生の就業状況調査」について

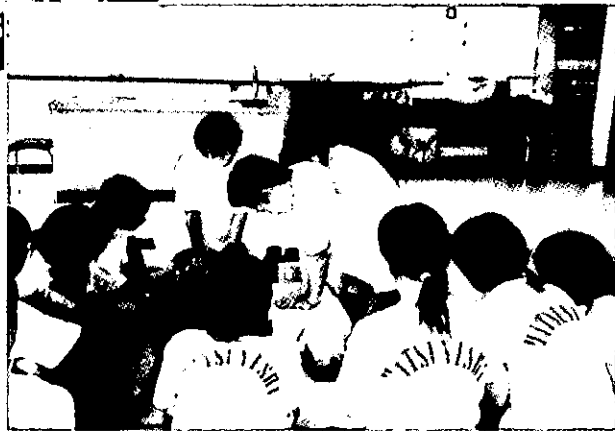
2 協議事項

- (1) 研修部(埼玉県立不動岡誠和高等学校 佐藤)
 - ① 演習ノートを作成する。各校の取り組み・実施事例の報告依頼。
- (2) 調査統計部(香川県立飯山高等学校 北村)
 - ① 全国基礎調査を実施する。
- (3) 広報部(長野県立上田千曲高等学校 小林)
 - ① 各県(ブロック)の活動内容をホームページに載せる。研修・活動内容、資料等の報告依頼。
- (4) 事務局(千葉県立松戸矢切高等学校 鈴木)
 - ① 平成17年度 第1回学科主任等代表者会議(5月27日予定)について
 - ・事務局の移動はあるが例年どおり東京都千代田区で実施する予定。
 - ② 今後の高等学校福祉教育の在り方について
 - ・福祉に関する質の向上を目指した生徒育成が必要である。

3 その他

- (1) 平成17年度全国大会について(主管校 三重県立明野高等学校)
- (2) みんなの手話、社会福祉セミナー雑誌販売について
- (3) 平成16年度全国大会諸連絡

福祉科公開授業学習指導案



日 時 平成16年10月28日(木)
9 : 10 ~ 10 : 00

徳島県立小松島西高等学校

学校の概要

本校は、昭和26年に創立され、現在、商業・食物・生活文化・福祉の4学科を有する県下唯一の総合的専門高校です。

商業科は各学年2クラス。さまざまな資格を持ったスペシャリストの育成をめざし、2年次より国際ビジネスコース、情報・会計コース等のコース制を取り入れています。各専門分野を発展的に学習させることにより、就職・進学への対応をめざしています。

食物科は各学年2クラス。厚生労働省から調理師養成施設として認可されており、卒業と同時に調理師の資格が取得できます。本校教職員に加え、県内で活躍しておられる一流の調理師の方々を特別講師として迎えての日本料理、中華料理、西洋料理の調理実習や、集団給食実習等を通して力をつけ、食産業に従事する人材を育成しています。

生活文化科は各学年1クラス。より快適な生活及び生活空間の創造をめざし、デザインを専門的に学ぶ学科で、アパレルデザインとインテリアデザインの他に、本県の伝統工芸である藍染めを取り入れ、伝統工芸の伝承にも努めています。

福祉科は平成11年に新設されて今年で6年目になります。本県は高齢化速度が全国平均に較べて早く、高校において介護や福祉の専門職を養成するために設置されました。本校は徳島市と県南を結ぶ交通の要所とも言える小松島市にあり、すぐ近くには大規模な医療施設、周辺には特別養護老人ホームや老人保健施設など福祉施設が数多くあって連携を図る上で好条件に恵まれています。現在、各学年1クラス、3学年で100名の生徒が在籍し、1年次では社会福祉の基礎、2年次では訪問介護員2級養成研修、3年次では介護福祉士国家試験合格をめざし、意欲的に学習に取り組んでいます。ボランティア活動や高齢者が好きであるといった漠然とした理由で入学してきた生徒たちが、日々の授業や実習、演習を通じて、福祉に関係する分野への就職や進学への決意を持つことができるように、学校全体で取り組みを進めています。校外における「社会福祉実習」は、近隣の8～10施設に御協力いただき、卒業までにそれぞれ3週間実施していますが、このインターンシップ経験は、進路決定において大きな要素を占めるとともに、学校で学習したことを実践する場として、生徒にとっても指導している教員にとっても重要な意味を持っています。

本校の部活動等については、体育系では硬式野球、陸上競技、バレーボール、弓道、卓球、バドミントン、テニス、柔道、剣道、空手道、文化系では吹奏楽、写真、茶道、放送、手芸、JRC、インターアクト、ヒューマンサークル、染色、ワープロ・情報処理、アートデザイン、食物研究、書道、演劇の各部及び同好会が活動しています。どの部・同好会も上位の成績を目標に、毎日練習に取り組んでいます。放課後や休日には、活動する生徒たちの熱心で元気な様子が校舎の内外で見られます。今年度は、陸上競技、弓道、空手道、水泳で四国大会に出場、また、空手道は、個人組手でインターハイにも出場しました。陸上競技部は、毎年、中・長距離、駅伝で活躍、硬式野球部は、過去、春に3回と夏に2回、甲子園に出場しています。部活動とは異なりますが、昨年度、生活文化科の生徒が「ファッション甲子園」に応募、千数百倍の倍率をくぐりぬけて予選通過、青森県での全国大会に出場しました。

平成14年度から、小松島市が「エイズ教育推進事業」の地域指定を受け、高等学校では本校が指定され、本年が最終となる3年目を迎えています。また、商業科では、県教育委員会の「起業家教育推進事業」の指定を平成15・16年度と受け、研究・活動を続けています。福祉科においては、平成14・15年度の2年間、文部科学省から「豊かな体験活動推進事業」の指定を受け、生活文化科とともに、体験活動を中心に据えた取り組みをしました。

「社会福祉基礎」 学 習 指 導 案

履 修 単 位 数	2	担当者 教諭 阿部 美恵
実 施 日 時	平成 16 年 10 月 28 日 (木) 第 1 時限	
学 級	16 H R (41 名)	
使 用 教 科 書	社会福祉基礎 (中央法規)	
単 元 名	社会福祉の担い手と福祉社会への展望	
単 元 の 目 標	<p>① さまざまな社会福祉従事者とその役割について知り、福祉社会を創造していくために必要とされるその専門性について理解する。</p> <p>② 基本的人権を尊重する豊かな福祉社会を創造するために、相互扶助の精神と国民一人一人の意識改革が重要であることを理解する。</p> <p>③ 人間の尊厳やノーマライゼーション、バリアフリーなどについて理解し、社会福祉に関する学習の心構えを身に付ける。</p>	
単 元 の 評 価 規 準	<p>① 具体的な社会福祉従事職とその仕事内容や必要な資格について、また、その職業倫理について理解できたか。 (知識・理解)</p> <p>② 相互扶助の必要性に気付き、自らがその促進力になることを意識し、ボランティア活動に積極的に取り組めたか。 (関心・意欲・態度、技能・表現)</p>	
指 導 計 画	<p>第 1 次 社会福祉サービスにかかわる専門職制度と資格 …………… 5 時間</p> <p>第 2 次 専門従事者に必要な資質と技術 …………… 4 時間</p> <p>第 3 次 ボランティアの考え方と歴史的展開 …………… 10 時間</p> <p>第 1 時～第 3 時 ボランティアの考え方</p> <p>第 4 時～第 6 時 ボランティア活動の歴史的展開</p> <p>第 7 時～第 10 時 ボランティア活動の振興 (本時10/10)</p> <p>第 4 次 <福祉国家>から<福祉社会>へ …………… 7 時間</p>	
本 時 の 指 導 目 標	<p>① ボランティア活動の体験レポートのまとめ、発表を行い、ボランティアの在り方や課題について考える。</p> <p>② ボランティア活動後の周囲や自分の変化に気付き、その必要性を認識する。</p>	

本 時 の 学 習 指 導 案

段 階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 (評 価 の 観 点)
導 入 (5 分)	1 本時の目標と内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 班単位でボランティア体験レポートを発表することを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の内容を理解し意欲的に取り組もうとしている。 (関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度)
展 開 (4 0 分)	2 ボランティア活動の体験発表をする。 (1) 班別発表 (2) 模造紙にまとめたものを活用 (3) プロジェクターの活用 3 発表を視聴し、評価する。 (1) 発問等 (2) カード評価 ① 観点 ア 良かった点 イ 工夫が必要な点 ② 方法 ア 各観点についてカードに記入 イ 観点別にカードを集める 4 自己評価を行う。 ● 班活動について ● 内容について ● 表現方法について ● 視聴態度等について	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設等の様子や活動内容等基礎的・基本的な学習を生かして取り組んだ体験活動を通して、気付いたことを発表させる。 ● 他の人の体験と気付きをとおして、自己の課題を発見させる。 ● 班でのレポート作成から発表までの活動過程を評価する。 ● 班別学習による成就感を味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表方法、態度が適切であるか。 (技 能 ・ 表 現) ● 体験後の自分自身の変化に気付き、ボランティアの在り方について考えられている。 (思 考 ・ 判 断) ● 他の人の発表を真剣な態度で聞くことができている。 (関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度) ● 他の人の発表を聞き、ボランティア活動の多様性を理解している。 (知 識 ・ 理 解) ● 的確に評価できている。 (思 考 ・ 判 断)
ま と め (5 分)	5 本時のまとめを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 相互扶助の視点に気付かせる。 ● 社会の一員としてボランティア活動に参加することの必要性を認識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉社会におけるボランティア活動の果たす役割が理解できている。 (思 考 ・ 判 断)

「社会福祉実習」 学習指導案

履修単位数	3	担当者 教諭 亀島木綿子
実施日時	平成16年10月28日(木) 第1時限	
学 級	26HR (14名)	
使用教科書	介護技術Ⅱ (中央法規)	
単 元 名	介護技術の基本と実際 清潔の援助	
単 元 の 目 標	高齢者や障害者など利用者の心身の安楽を図り、プライバシーに配慮した清潔の援助に関する基本的な知識と技術を習得する。	
単 元 の 評 価 規 準	<p>① 身体の清潔と健康との関連について関心を持ち、利用者の安楽のために、援助技術の習得に意欲的に取り組む実践的な態度を身に付けている。(関心・意欲・態度)</p> <p>② 清潔援助の基礎・基本を理解し、利用者の状況に合わせた援助について適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。(思考・判断)</p> <p>③ 基本的な清潔援助の方法について理解し、実践するとともに、清潔の援助時に起こりやすい事故について予測し、その予防方法を的確に表現できる。(技能・表現)</p> <p>④ 清潔援助の意義を理解し、基礎的・基本的な知識を身に付け、介護者の役割と対象の状態に応じた援助の必要性を理解している。(知識・理解)</p>	
指 導 計 画	<p>第1次 清潔の援助の目的と意義……………2時間</p> <p>第2次 清潔の援助の具体的方法……………5時間</p> <p>第1時 さまざまな清潔援助の方法</p> <p>第2・3時 一般浴</p> <p>第4・5時 機械浴 (本時 5/5)</p>	
本時の指導目標	<p>① 利用者の状態を観察し、プライバシーに配慮した適切な介助ができる。</p> <p>② 機械浴の目的を理解し、安全な介助方法を身につける。</p>	

本 時 の 学 習 指 導 案

段 階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 (評 価 の 観 点)
<p>導 入 (5分)</p>	<p>1 チェックリストを使って本時の内容と目標・留意点を把握する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 機械浴の目的・方法・留意点などを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師の言動に注目し、集中して聴くことができている。 (関心・意欲・態度)
<p>展 開 (40分)</p>	<p>2 機械浴の実習を行う。</p> <p>(1) 役割班に分かれる。 (4名/班)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者班 ● 直接介助者班 ● 間接介助者班 ● 評価者班 <p>(2) 4役が1グループとなって実習を行う。</p> <p>① 直接介助者</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の状態を観察した後、介助内容を説明し承諾を得る。 ● 移動・脱衣など機械浴介助の準備をする。 ● モデル人形を使って機械浴介助を実施する。(機械浴のみモデル人形利用) ● 利用者の着衣介助を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 前時の実習を参考に、各班で予め決められている役割に分かれさせる。 ● 班内での協力、班ごとの協力について適宜指示しながら、すすめる。 ● どのような介助においても、実施する前には必ず利用者の承諾と理解・協力が必要であることを再認識させる。 ● 利用者の羞恥心への配慮・プライバシーの保護について確認させる。 ● 熱傷・溺水などの危険行為の予防について知らせ注意を促す。 ● 冷感を感じさせないような配慮を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の役割について理解し、主体的に取り組むことができている。 (関心・意欲・態度) ● 適切な声かけ・観察ができている。 (技能・表現) ● 機械浴の目的を理解し、機械浴を行う準備ができている。 (技能・表現) ● 危険のない適切な方法で援助を行うことができている。 (技能・表現) ● 利用者に異常がないか観察し、清潔援助の目的が達成されたことを確認できている。 (思考・判断)

	<p>② 間接介助者</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 直接介助者に入浴用エプロンの装着を介助する。 ● 排水・床の環境整備をする。 <p>③ 評価者</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 直接介助者の評価をチェックリストに記入する。 <p>3 実習が終了したら、後片付けを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 直接介助者を援助しながら、協力的に作業を進めるよう指示する。 ● 室内の安全性について注意を促す。 <ul style="list-style-type: none"> ● 実習後に参考となるように具体的な内容についても書き込むように指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 自発的な活動を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 直接介助者が安全に介助できるよう適切に環境の調整を行うことができている。 (技能・表現) <ul style="list-style-type: none"> ● 直接介助者の評価を行うことで客観的に介助を観察することができている。 (思考・判断)
<p>まとめ (5分)</p>	<p>4 チェックリストに自己評価を記入する。</p> <p>(1) 評価者から評価の説明を受ける。</p> <p>(2) 利用者から感想・意見を聞く。</p> <p>5 本時のまとめを聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 介助者の観点から自己評価させる。 ● 相互評価することで思考を深めさせる。 ● 利用者にとって快適な援助であったか振り返らせる。 <ul style="list-style-type: none"> ● 自分が利用者の立場になった時にどのような介助が望まれるかさらには介助者として何が大切かを問いかけ考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門的な観点から自己評価ができている。 (思考・判断) <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の安全・安楽に配慮した適切な介助であったかどうか確認できている。 (思考・判断)

社会福祉実習チェックリスト

HRNo	Name		
実 習 項 目		実 習 日	評 価
機械浴・ストレッチャーでの移動		月 日 () 限	自 己 他 者 評 価 評 価
1 利用者に説明し承諾を得ることができる。			
2 安全にストレッチャーに移動できる。			
① ベッド・ストレッチャーのストッパーを確認する。			
② ベッド・ストレッチャーの柵をはずし高さを合わせる。			
③ タオルケットを利用者の下に敷き、3～4人で利用者を移動する。			
④ 転落を予防でき、進むときは足側から進むことができる。			
3 安全に安楽に機械浴介助ができる。			
① 機械浴槽の使用方法・留意点を理解している。			
② 入浴できるかどうかの判断をし、必要物品が準備できる。			
③ 室温・お湯の温度を確認し、適温で介助できる。			
④ 衣服の着脱ではプライバシーに配慮し、寒さを感じさせない。			
⑤ 全身状態を観察し、異常を早期に発見できる。			
⑥ 入浴後は水分摂取につとめ、脱水を予防できる。			
memo			

「社会福祉援助技術」 学 習 指 導 案

履 修 単 位 数	2	担当者 教諭 佐々由美子
実 施 日 時	平成 16 年 10 月 28 日 (木) 第 1 時限	
学 級	26 HR (15 名) 36 HR (15 名)	
使 用 教 科 書	社会福祉援助技術 (中央法規)	
単 元 名	レクリエーションの展開と実際	
単 元 の 目 標	<p>① 高齢者や障害者を対象にした芸術文化活動, 造形活動, スポーツ, 学習活動などの具体的なレクリエーションを取り上げ, レクリエーション計画の作成能力を身に付けさせる。</p> <p>② 実際の社会福祉実習におけるレクリエーションプログラムを作成し, 実践後の反省から再検討する。改善したプログラムを展開することにより, 実践援助能力を高める。</p>	
単 元 の 評 価 規 準	<p>① 実習施設にあわせたレクリエーション計画作成に積極的に取り組む態度を身に付けている。(関心・意欲・態度)</p> <p>② レクリエーション計画の作成方法を理解している。(知識・理解)</p> <p>③ 改善したレクリエーションプログラムを順序よく展開し, その内容について多角的に考察し, 図表化したり, 発表したりしている。(技能・表現, 思考・判断)</p>	
指 導 計 画	<p>第 1 次 レクリエーションの展開と実際…………… 3 時間</p> <p>第 2 次 レクリエーションの計画策定…………… 5 時間</p> <p>第 3 次 レクリエーションの実践援助…………… 5 時間</p> <p>第 1 時 各施設で実施したレクリエーション発表</p> <p>第 2 時 レクリエーション活動・利用者分析</p> <p>第 3 時 各施設の実態に合わせたアレンジ考察</p> <p>第 4 時 アレンジレクリエーションプログラム作成</p> <p>第 5 時 アレンジレクリエーションの発表 (本時)</p> <p>第 4 次 演 習…………… 2 時間</p>	
本 時 の 指 導 目 標	<p>① 3 年生は, 各施設でのレクリエーション活動状況や利用者分析を 2 年生に的確に伝える。</p> <p>② 2 年生は, アレンジしたレクリエーションを発表し, 3 年は, 利用者を演じることにより, その内容についての細かい評価を実施し, 利用者に応じた援助能力を高める。</p>	

本 時 の 学 習 指 導 案

段 階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 (評 価 の 観 点)
導 入 (5分)	1 前時までの学習の流れを確認し、本時の学習の目標を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 3年・2年と、各班(実習施設)毎に発表することを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習の流れを理解し意欲を持って学習に取り組んでいる。 (関心・意欲・態度)
展 開 (40分)	<p>2 3年生が前回の4施設の社会福祉実習でのレクリエーションにおいて、よかった点や改善すべき点を発表する。</p> <p>3 2年生が3年生とともに次回の実習施設にあわせてアレンジしたレクリエーションを発表する。</p> <p>4 自己評価及び他グループの評価を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の利用者の実態や設備面にあわせた改善を考えさせる。 ● 施設での利用者の実態に対応したアレンジも考えさせる。 ● 実習施設毎に、施設の利用者にあわせて改善したプログラムで実施させる。 ● 3年生を利用者役としてロールプレイさせる。 ● 評価票に、利用者・援助者の観点からレクリエーションの手順や実施方法について評価させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 前回のレクリエーションを考察した結果をまとめ、図表化したり、発表したりしている。 (技能・表現) ● 活動分析を多角的に考察している。 (思考・判断) ● 利用者の実態に対応でき、自立支援できるよう思考している。 (思考・判断) ● 利用者の気持ちを考察し、ロールプレイできる。 (技能・表現) ● 自分や他グループのレクリエーションの手順や実施方法等について思考を深め、適切に判断している。 (思考・判断)
ま と め (5分)	5 次回の施設の社会福祉実習でさらに改善し、実施することを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 今回の発表における他班の評価も参考にして準備物や手順等を再度見直しさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設でのレクリエーション準備物を細かく把握し、手順を確認している。 (思考・判断)

「課題研究（情報処理技術を用いた福祉課題研究）」学習指導案		
履修単位数	2	担当者 教諭 伊丹 育代
実施日時	平成16年10月28日（木）第1時限	
学級	36HR（15名）	
使用教科書	なし（必要に応じてプリント等を教材として用いる）	
単元名	プレゼンテーション技術を用いた課題研究	
単元の目標	<p>① 福祉課題についての情報を、情報機器を活用して収集・分析し、考察する力を育てる。</p> <p>② プレゼンテーションソフトを活用し、研究結果を適切な表現方法で効果的に伝える知識と技術を習得させる。</p>	
単元の評価規準	<p>① テーマに応じて情報の収集・分析を行い、課題解決に向けて意欲的に考察している。（思考・判断）</p> <p>② プレゼンテーションソフトの機能を理解し、伝えたい内容をわかりやすく表現する。（知識・理解、技能・表現）</p> <p>③ グループで協力して研究発表し、評価し合うことにより、主体的に課題を解決しようとする態度を身につけている。（関心・意欲・態度）</p>	
指導計画	<p>第1次 プレゼンテーションソフトの基本操作……………2時間</p> <p>第2次 福祉課題の設定と研究計画……………1時間</p> <p>第3次 情報の収集と整理……………2時間</p> <p>第4次 データ分析及び考察……………2時間</p> <p>第5次 プレゼンテーションソフトを用いた研究報告……………7時間</p> <p>第1時 パワーポイントソフトの活用について</p> <p>第2時 スライドの作成演習</p> <p>第3時 ラフスケッチづくり</p> <p>第4時 画面及び原稿作成</p> <p>第5時 効果的なスライドデザイン</p> <p>第6時 福祉研究課題によるプレゼンテーションの作成（本時）</p> <p>第7時 発表後の評価</p> <p>第6次 プレゼンテーションスライドを用いた冊子作成……………1時間</p>	
本時の指導目標	<p>① すでに作成しているスライドにアニメーションを挿入し、テーマのストーリーを考えた効果的な構成を行う。</p> <p>② パワーポイントソフトの機能を生かして、課題について意欲的にプレゼンテーションする。</p>	

本 時 の 学 習 指 導 案

段 階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 (評 価 の 観 点)
導 入 (5分)	1 プレゼンテーションソフトを用いて作成してきたスライドをまとめ発表することを知らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 各班における役割分担を確認させ、作業の進展を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● プレゼンテーションに関心を持ち、意欲的に取り組む態度を身に付けている。 (関心・意欲・態度)
展 開 (40分)	2 「福祉研究」フォルダから、前時の課題研究のスライドを呼び出す。 3 構成やスライドの配置を考える。 4 アニメーションを設定する。 (1) 方法の理解 (2) アニメーションの設定 5 発表の留意点を知り、リハーサル画面を見ながら各班で練習する。 6 プレゼンテーションを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自がデータを正しく取り出せるようにする。 ● プレゼンテーションのストーリーにそったスライドを構成させる。 ● 操作方法を画面を通じて理解させる。 ● スライドの内容にあったアニメーションを設定させる。 ● 時間制限を確認し、聞き手に研究内容を伝えることを意識させる。 ● コンピュータを活用し、班員と協力して積極的に発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的に応じて的確にデータを選択できる能力を身につけている。 (思考・判断) ● プレゼンテーションの目的に応じて構成を創意工夫している。 (思考・判断) ● アニメーションの表し方について、基本的な知識を身につけている。 (知識・理解) ● アニメーションを効果的に活用している。 (技能・表現) ● 聞き手の立場に立って考察している。 (思考・判断) ● 班員と協力し、意欲的に研究発表を行う態度が身に付いている。 (関心・意欲・態度)
ま と め (5分)	7 発表の感想及び評価を入力する。 8 本時のまとめを聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークシートに入力させる。 ● 福祉の各分野における効果的なコンピュータの活用 of 大切さに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表の自己評価及び相互評価を参考に、改善を目指して自らの思考を深め、創意工夫する能力を身に付けている。 (思考・判断)

開会行事

10月28日(木) 11:00～11:45

徳島県教育会館 大ホール

司会進行 徳島県鳴門第一高等学校長 篠原 道佳

記録 香川県立三木高等学校 竹内 泰枝

徳島県立城西高等学校 橋本 佳代子

(司会)ただ今から、開会行事を始めます。開会行事の司会を務めます徳島県の鳴門第一高等学校長 篠原 道佳です。よろしくお願いいたします。それでは、式次第に従いまして、進行させていただきます。

はじめに、香川県の尽誠学園高等学校長 田山 棟信が開会のことばを申し上げます。

1. 開会のことば

香川県尽誠学園高等学校長 田山 棟信

全国各地からご参加の皆様方、ようこそ、四国徳島県にお越しいただきました。心より感謝致します。ただ今より、平成16年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 第10回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会を開催いたします

(司会)次に、主催者であります全国高等学校長協会家庭部会理事長 上田 有宏がご挨拶申し上げます。

2. 主催者挨拶

全国高等学校長協会家庭部会理事長 上田 有宏

ただいま、ご紹介にあずかりました全国高等学校長協会家庭部会理事長の上田有宏です。この度の平成16年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 第10回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会の開催にあたりまして、感謝の気持ちをこめまして、一言ご挨拶申し上げます。ご臨席賜りました文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢幅 清司 様、厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 マンパワー企画係長 資格・試験係長 曾我 昌樹 様、徳島県教育委員会教育長 松村 通治 様、また全国各地からお集まりの校長先生方、そしてたくさんの先生方ありがとうございました。

さて、福祉科高等学校長協会の参加校が210校だということを木村先生から聞いております。平成6年に立ち上げたときは65校で10年間で3倍以上となったことをお聞きし、驚いております。

平成16年度の要介護認定者が約370万人数年前は約210万人ということを知っております。要介護認定者が今後も大幅に増加していくことを考えますと、このような時代の中で高校生が福祉の道を進むということは、人生を進んでいこうという道をもつこと、またキャリア養成の上からも喜ばしいことでもあります。多くの高校生が福祉の世界に飛び込んでくれていますが、資質が問われることにもなります。

小松島西高校の公開授業は大変参考になり、心強く感じました。レクリエーションの授業では

3年生が利用者となり、2年生が介護者としてタオル回しを指導していましたが机上の学習では得られないものだと感じました。

この2日間の会でも多くの成果があり、有意義な会となることを願い、家庭部会福祉科の発展を祈念し、挨拶といたします。

(司会) 次に、全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校会会長 木村 行幸 がご挨拶申し上げます。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校会会長 木村 行幸

おはようございます。全国各地から多数の先生方のご参加をいただき全国大会を盛大に開催できますことを大変うれしく思っております。ご臨席賜りました文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢幅 清司 様、厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 マンパワー企画係長 資格・試験係長 曾我昌樹 様、徳島県教育委員会教育長 松村 通治 様、家庭部会理事長 上田 有宏 様をはじめ、教育関係の先生方のご臨席賜りましたことを心より感謝申し上げます。

さて、ご存じのとおり、本年6月に介護福祉士試験の在り方等介護福祉士の質の向上に関する検討会の報告書に対し、校長会では各ブロックの理事の連名等により、文科省、厚労省等に、介護技術講習会の実施や高校生の介護福祉士国家試験受験資格取得の継続等の要望書を提出させていただきました。提出にあたり、多くの先生方のご協力に厚くお礼申し上げます。9月に入りまして社会保障審議会・介護保険部会は介護保険制度に関する意見をとりまとめ、介護職員について将来的に任用資格は介護福祉士を基本とする方向が示されました。この件について将来的に任用資格は介護福祉士を基本とする方向が示されました。この件についてある新聞社がホームヘルパー廃止の記事を掲載しました。私は厚労省担当官に直接電話し、誤報であるとの回答を得ましたので、理事を通じて厚労省の見解を加盟校に連絡致しました。9月下旬頃になりまして、現段階では国家試験受験者の見直しは考えていないことを厚労省よりお聞きしました。厚労省、文科省、緊急に連携して高校福祉教育を応援していただければと思っております。

さて、介護福祉士の受験資格の見直しやホームヘルパーの質の問題は将来的に再び、何らかの検討がなされるであろうことを考えますと、それまでに各校で努力しておくことが大切だと思われれます。

学内での一つめは、高校生の介護福祉士国家試験の合格率向上であります。高校生は大変努力もし頑張ってきました。過去3年間は平均50%ですので、それを70%程度となるよう努力していただくと、校長会としての発言力も増すのではないかと思っております。目標に高い合格率を掲げ、先生方にはこれからも指導の充実をお願いしたいと思います。

二つめは、生徒の心の育成であります。福祉は介護者と要介護者が共に心のありかを通い合わせるにより、成立すると考えられております。高校生に自分自身の心を知ることのむずかしさを理解させ、他人を知ることの難しさを理解させること、言いかえればコミュニケーション能力の育成、人間関係形成能力の育成です。それらは大変難しいですが、いろいろな指導方法を研究し、育成を図らせなければならないと思っております。

三つめは、各校長先生方をお願いですが、研修による教員の質の向上であります。昨年8月東北北海道ブロックで研修会が行われました。多くの先生方が参加していただき、大変充実したものであります。今年9月に千葉県において、大学の先生をお招きして、研修会を開催し、好評を得ております。

学外では2つの努力が必要です。1つは、卒業生の勤務実態把握と施設管理者、要介護者の信頼度把握です。施設管理者と継続的に面接し、卒業生の勤務状況を知り、高校教育に何が求めら

れているかという課題に積極的に取り組み、要介護者、施設管理者の信頼を今以上に得る努力が大切です。2つめは、高校で福祉教育をしていることを地域に向けて、発信していくことが必要だと考えます。日本の将来の65歳以上の人口が平成11年には総人口の20%、平成52年には33.2%、1/3以上の日本人が高齢者という予測をふまえ、介護教室開講、ボランティア活動、体験発表など、地域や世間に知らしめ、高校教育の社会の認知度を高めることが大切です。地域から国民から広く支援されることが重要だと考えます。会場にいる皆様方の努力をお願いします。本大会開催にあたり、小倉校長先生をはじめ大会役員の先生方にお礼と感謝を申し上げ挨拶いたします。



(司会) 続きまして来賓の方々のご祝辞をいただきます。まずはじめに文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢幅 清司 様 よりご祝辞をいただきます。

3. 来賓祝辞

文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢幅 清司

皆様おはようございます。この徳島の地で第10回の記念すべき大会が開かれますことは、大変うれしく思います。現在、高校で福祉教育を実施している学校が全国で約900校、そこで学ぶ生徒は約3万名となっています。文科省としては、その生徒たちに対する条件整備として、教員養成をしてきました。また施設設備充足として、高校教育施設設備の充足を図ってきました。今後は教育の内容の充実を図っていかなければならないと考えています。この大会がこの意味で教育内容の充実を図っていける大会になればと思っております。これからは大学との連携、福祉関連の学会との関係、そして教員研修を積み重ねていき、福祉教育の活性化に向けて皆様方と頑張っていきたいと思っております。

2日間、大会テーマのもと、大いに研究協議をして、高校福祉教育の在り方を皆様とともに考えていきたいと思っております。今大会が今後の福祉教育のひとつの礎となることをきたいし、挨拶いたします。

(司会) ありがとうございます。次に徳島県教育委員会教育長 松村 通治 様 よりご祝辞をいただきます。

皆様おはようございます。今回の台風23号、さる23日に起きました新潟県の中越地震によりお亡くなりになった方々に心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様にはお見舞い申し上げます。

それでは平成16年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 第10回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会徳島大会が全国各地より多数の関係の皆様方のご参加を心より御礼を申し上げます。また皆様方におかれましては、日頃高校福祉教育の充実・発展のために献身的なご努力をなされていますことに対しまして、深く御礼を申し上げます。

さて、高度情報社会、少子高齢社会の中で、人権と共生の世紀を合い言葉にすべての人が幸せにできる社会を担っていける人間性・社会性を育むとともに、生徒一人ひとりの人権を大切にできる教育が必要となってきます。

こうしたなか、福祉の面におきましては、健康への高まり、生活様式の変化等、国民の福祉に対するニーズは様々な形をとりながら、ますます高まっております。21世紀の福祉社会を担う人材の育成が求められています。

本県におけます福祉教育は、平成8年度に1校に福祉コースを設置しスタートし、現在学科数は6校となり、福祉教育の充実のために、努力しているところです。

こうした中で、21世紀の福祉社会を担う人材育成をめざし、地域と共に歩み社会的実践力を育てる福祉教育のために、2日間にわたり大会が開催されますことは、本県福祉教育のためにも意義あるところであります。徳島大会が実りある大会になることをお祈りします。

また皆様方に関しましては、折角の機会でございます。時間の合間に鳴門の渦潮、阿波の十郎兵屋敷、1番札所など、阿波の豊かな自然、文化にもぜひ触れていただきたいと思っております。

終わりにりましたが、今回の開催にあたりましてご尽力をご関係の方々に深く感謝を申し上げますとともに、ますますの福祉教育の発展と参会の皆様の一層のご健勝を祈念し、挨拶とさせていただきます。

(司会) ありがとうございます。ここで、本日ご出席をいただきました来賓の一人一人からお言葉を戴くべきところでございますが、時間の関係もありますので、ご紹介のみとさせていただきます。

徳島県立辻高等学校 白石 基章 より、ご紹介いたします。

4. 来賓紹介

徳島県立辻高等学校 白石 基章

それでは、御登壇いただいております御来賓の皆様、並びに主催者の紹介をさせていただきます。先ほどご挨拶をいただきました。

文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢幅 清司 様です。

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室

マンパワー企画係長 資格・試験係長 曾我昌樹 様です。

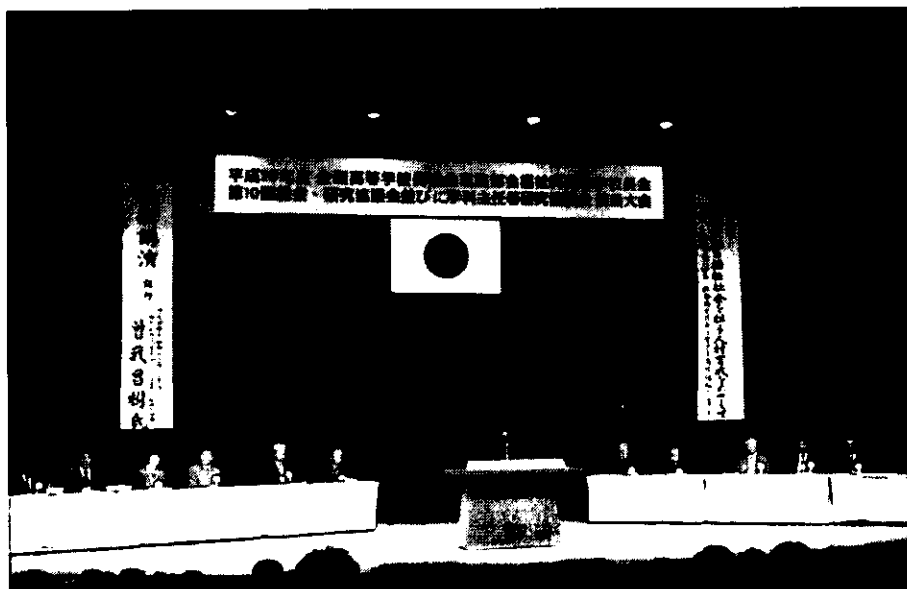
徳島県教育委員会教育長 松村 通治 様です。

徳島県総合教育センター所長 井上 正信 様です。

徳島県高等学校長協会会長 大岡 慶久 様です。

徳島県教育委員会学校支援課長 井上 京子 様です。

徳島県教育委員会学校支援課 指導主事 川村 桂子 様です。
次に、主催者側ですが、
全国高等学校長協会家庭部会理事長 上田 有宏 様です。
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会長 木村 行幸 様です。
全国高等学校長協会家庭部会事務局長 小島 和雄 様です。
同じく事務局次長 坂井 絃子 様です。
同じく事務局参与 小暮 通夫 様です。
以上、ご紹介を申し上げます。



(司会) 次に主管校である徳島県立小松島西高等学校長 小倉 正幹 がご挨拶を申し上げます。

5. 主幹校挨拶

徳島県立小松島西高等学校長 小倉 正幹

平成16年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 第10回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会 の開催にあたりまして、一言挨拶申し上げます。本日は文部科学省 矢幅 清司 様、厚生労働省 曾我 昌樹 様、徳島県教育委員会教育長 松村 通治 様、徳島県総合教育センター所長 井上 正信 様をはじめ多数の御来賓の方々にはご多忙の中、ご臨席賜りまことにありがとうございます。厚くお礼申し上げます。前回の開催地大分県野津高校からバトンを受けまして、第10回の節目の大会を本校が開催されたことをうれしく思います。ようこそ阿波踊りとすだちの里徳島へおいでくださいました。心から歓迎申し上げます。皆様方をお迎えするにあたり、準備に努めてまいりましたが、不十分な点が多くあるかと思えます。四国4県のお力をいただきながら、精一杯2日間つとめてまいりますのでよろしくお願いいたします。

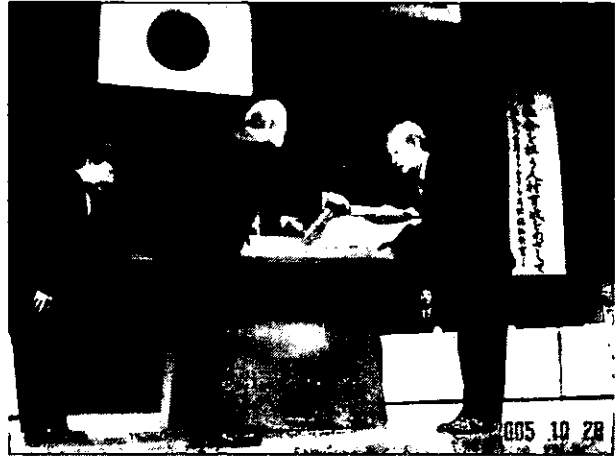
さて先ほどは本校での授業を見ていただきましたが、本校の紹介を簡単にいたしますと、本県は大多数が就職希望で努力すれば、手に届く国家試験など良い意味で緊張感のある充実した3年間となっています。少子化の進む中、本校を希望する中学生は多数ございまして、夢のもてる福祉教育を目指したいと心新たにしているところです。2日間の盛会を祈念し、挨拶といたします。

6. 10周年記念表彰

(司会) 全国福祉科校長会は、本年でちょうど10周年を迎えました。新しい教科である「福祉」について共に学ぶ本会が、こうして10回目を迎えられましたのも、これまでご尽力くださいました歴代の会長の皆様方のお力があればこそであります。全会員の感謝の気持ちをお伝えするとともに、本日、感謝状を贈呈させていただきたく存じます。

感謝状をお送りする方々は

山口 祐司 様
加藤 健 様
井上 輝之 様
本橋 恒雄 様
高橋 照夫 様 です。



本日お越しいただいた、高橋 照夫 様
ご登壇ください。
ありがとうございました。

(司会) 閉会のことばを、香川県立三木高等学校長 市原 唯夫 が申し上げます。

7. 閉会のことば

香川県立三木高等学校長 市原 唯夫

ただ今をもちまして平成16年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 第10回
総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会開会行事を終わります。

基調講演

28日(木) 11:45~12:25 徳島県郷土文化会館 大ホール
司会進行 : 田淵 憲治 (徳島県立阿波西高等学校長)
記 録 : 大西 浩一 (今治明德高等学校校教諭)
岡本 裕子 (徳島県立城西高等学校教諭)

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室
マンパワー企画係長 資格・試験係長

曾 我 昌 樹

I 介護福祉士養成の現状と課題

(1) 介護福祉士養成施設

介護福祉士指定養成施設は、量的には拡大を続けているが、指定養成施設の定員充足率は約8割で、定員を割り込む指定養成施設が約7割に達している。卒業生の質の低下や格差も生じており、資格取得当初は即戦力とならず、むしろ将来性に期待すべきとの指摘がなされている。

指定養成施設における修業年限を、2年課程から3年課程にして基礎的教育をおこない、専門領域に関する教育は、資格取得後の研修を通じておこなうべきとの指摘がなされている。

(2) 高等学校福祉科等

高校生の国家試験合格率は、約5割と平均より高くなっているが、高校生等の人生経験では、生活支援に対応できないのではないかと疑問視する側面もある。

(3) 介護福祉士国家試験

受験者は増大しているが、試験時間の制約のため、入浴、排泄及び食事の介助に関する試験ができないという課題がある。

また、課題漏洩防止の観点から、受験者の長時間にわたる拘束、受験者や試験要員等双方に相当の負担がかかっている。

II 介護福祉士の資格取得後の現状と課題

(1) 継続研修について

介護職員としての専門性を高めるため、資格取得後の継続研修が重要である。

また、痴呆・障害等の領域に対応した研修についても重要である。

(2) 医療との境界領域の整理

利用者主体といった視点に立ち、家族であれば認められるような行為は介護福祉士ができるようにすべきとの視点がある一方、利用者の状況に応じた総合的な判断が必要であり、医療関係の資格を有する者との効率的な連携を図るべきとの指摘もある。

さらには、個々の行為についての具体的な研究を積み重ねるとともに、医療の高度化、関係職種との連携強化の状況に応じ、利用者の生活の質の向上、安全性の確保等総合的な観点から検討がなされるべきとの指摘がある。

(3) 資格の活用

介護福祉士は、介護老人福祉施設や介護老人保健施設で平均的には介護職員の約4割を占めている。

アンケートの結果では、社会福祉法人において介護福祉士を介護職員の採用条件にしているのは17%にとどまるなど、介護福祉士の資格は必ずしも十分に活用されていない。

Ⅲ 今後の方向と具体的施策の提言

(1) 資格取得方法

介護福祉士の資格取得方法については、資格の取得方法の見直しに関する環境整備の状況を踏まえ、指定養成施設の卒業者が受験資格を取得する方法に統一することを検討する。

(2) 資格取得後のあり方

職能団体は、資格取得後の継続研修について、経験等に応じた研修体系の構築に取り組む。また、介護職員は介護福祉士であるという位置づけを明確化する。

Ⅳ 介護技術講習について

(1) パブリックコメントに寄せられた意見（適宜要約及び集約）に対する見解

① 介護技術講習の受講と、実技試験の併願を認めているのか不明確であるとの意見に対して

- ・ 講習が受けられなかった場合は、実技試験が受けられるようになっている。
- ・ 実技試験の免除申請は、受験申込みの際に所定の欄に記入する。
- ・ 講習が修了している者は介護技術講習修了証明書を、講習修了見込みの者は、介護技術講習受講決定通知書を添付する。
- ・ 実技試験の免除を受けるための講習会の修了期限は、試験実施の前年の12月までとする。
- ・ 修了見込みで実技試験の免除申請をおこなった者は、介護技術講習修了証明書を速やかに試験センターに提出する。提出期限を過ぎた場合は免除が認められないので留意。
- ・ 介護技術講習が修了しなかった場合は、実技試験免除申請の取り下げ手続きを経て、筆記試験に合格した者については実技試験の免除を認める。取り下げ最終期限は、試験実施の前年の12月31日までの消印のあるものに限る。

② 介護実技講習は、高等学校福祉科で行う講義及び実習と同じ内容のものもあることからそれについては、高等学校福祉科の講義等をもって代替できるなどの措置を講じてほしいとの意見に対して

実技講習は、介護福祉士試験の実技試験を免除される講習であって、受験資格を認める高校で行う講義等とは趣旨が異なるものである。

③ 介護技術講習の実施者に高等学校福祉科を含めてほしいの意見に対して

介護技術講習は、社会福祉士及び介護福祉士法に基づき厚生労働大臣が行う介護福祉士試験の一部である実技試験を免除するための講習である。このため、同法及び関係法令に基づき厚生労働大臣が指定し、指導監督を行っている指定養成施設の設置者が実施することとしている。

④ 介護技術講習の開催時期、回数について

個々の実施者において決定されるものであるが、土日など受験希望者が比較的受講しやすいと考えられる日程で実施されるものと考えている。

⑤ 高等学校福祉科教員が講師の用件に含まれるか否かについて

指導者については介護福祉士資格が取得できる指定養成施設等における介護系科目を担当する教員と同一の用件としている。

⑥ 介護技術講習制度の導入後も、実技試験が継続されるか否かについて

今回の改正は、実技試験そのものを廃止するものではない。実技試験の課題に対して介護実技講習制度を導入することにより、試験の適性実施を図るものである。

V 社会福祉士及び介護福祉士施行規則の一部改正について

介護福祉士試験の受験者の申請に応じ、介護福祉士指定養成施設等において行う介護などに関する専門技術についての講習を修了した者については、実技試験の免除する制度を導入することにより、介護福祉士試験の受験の資質の向上及び介護福祉士実技試験の適性実施に資するものである。

(1) 介護技術講習実施要項について

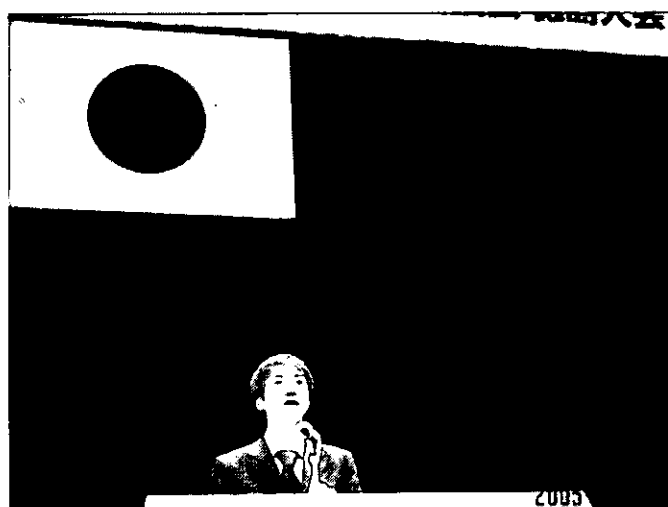
- ・平成17年度の介護技術講習に係る届出については、実施者の準備の期間を考慮し、提出期限を平成17年2月15日までとする。4月1日から施行する。
- ・介護技術講習は受講と修了認定が必要である。
- ・介護技術講習の受講資格は、介護福祉士試験を受ける予定であり、実技試験の免除を申請しようとする者であること。
- ・実施者は、介護技術講習を実施する年度の8月末までに、当該年度に実施する受講者を選定し、受講決定通知書を交付すること。
- ・修了した者については、その申請により、終了後引き続いて行われる次の3回の実技試験を免除される。

VI 社会保障審議会・介護保険部会報告（概要）

社会保障審議会・介護保険部会は、昨年5月以来16回の会議を開催し、本年7月30日に、「介護保険制度見直しに関する意見」をとりまとめた。

その中で、サービスの質の確保・向上のために、専門性を重視した人材育成と資質の確保があげられている。具体的には、介護に関わる職種について「専門性の確立」を重視する観点から資格要件や研修の見直しを行うことや、介護職員については、将来的には「介護福祉士」を基本とする方向での研修等の体系的な見直しを行うとの方向が示されている。

意見を求めながら、より質の高いサービスが提供できるための施策に取り組んでいきたい。



東北・北海道ブロック会議議事録

ブロック会議 平成16年10月28日(木) 13:10～13:50 徳島県教育会館

司会進行：小川義光 (東奥学園高等学校)

記 録：嶽内弘子 (迫桜高等学校)

野村久子 (函館大妻高等学校)

議題：ブロック別会議

1 自己紹介

議 長：議長をつとめさせていただきます，東奥学園高校の小川です。

それでは東北・北海道ブロック別会議を始めるにあたり自己紹介をお願いいたします。

なお，大会要項P 69の参加者名簿を参照して下さい。

では，合川高等学校校長先生よりお願い致します。

出席者… 23名 No.1 函館大妻高等学校校長外山茂樹先生は所用のため欠席

東北・北海道ブロック地区別会議は，本来であれば，北海道ブロック，東北ブロックと分かれておりますが，今回北海道ブロックは校長先生を含め全員で4名でしたので，今回は合同でブロック会議の方を開催させていただきますのでご了承ください。

2 東北・北海道ブロック研修会について

議 長：まず最初に今年8月9日～8月11日にわたり，北海道・東北ブロック研修会を開催しました，東奥学園高等学校校長であり，全国福祉科校長会の副会長である高橋校長先生よりご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

東奥学園高校校長：今年の夏は先生方のご協力を持ちまして，北海道・東北地区ブロック研修会を開催させていただきました。大変有難うございました。

今年も例年の気象と同じと考え，金銭的な事も考え本校を会場にして，研修会を行いました，異常気象により体育館は蒸し風呂のような状態となり，先生方には体調を崩されたのではないかと心配しておりました。

本当にご迷惑をおかけしてしまいました，お陰様で無事終了することもでき，少しは得るものも有ったのではないかと考えております。これも偏に先生方のご協力のお陰と深く感謝致しております。

また，出来ましたら今回で終わることのないように，次年度以降も続けていけるよう協議していただきたいと思っております。本当に有難うございました。

議 長：青森研修会に関しましては，この徳島大会の受付で青森大会紀要を配布しましたのでご覧になっていただきたいと思っております。

北海道・東北地区ブロック研修会は今年初めての試みで開催いたしましたが，ただいま校長先生よりお話がありましたように，今後も続けていければ良いのではないかと考えます。

東奥学園高校校長：研修会については，あまりお金をかけず無理のない範囲でやった方が良くと思います。来年度は東北の先生方いかがでしょうか。

合川高校校長：秋田県として、即答で引き受ければ良いのでしょうか、私の個人的な意見になりますが、今回東奥学園高校さんで行われました研修会に参加させていただきましたが、先生方にとって大切な研修の時間、とても参考になり評価も高かった研修だったと思っております。

そこで、もし可能であれば函館の大妻高校さんで研修会が開催できれば、私として有り難いなと考えています。

合川高校としましても、大妻高校さんを手本にしてやってきておりますので、今一度福祉の進んでいる所で勉強したいと考えておりますので、次年度の研修会は是非大妻高校さんでやっていただきたいと思えます。

東奥学園高校校長：地域の福祉教育学習センター的存在の所だと合川高校の校長先生もおっしゃっているのです、是非校長先生と相談していただき、来年度は大妻高校でささやかにやるのが決まりましたと言っただけでないでしょうか。

お互いに大げさに考えるのではなく、現場にいる先生方が、いろんな事で思い悩んでいることが実際にあると思えます。

福祉教育においては、大ベテランという先生は他の教科から比べるとそう多くはないと思うし、皆さんが日々悩みながら勉強していく中で、お互いに知識並びに技術を研修し合うということはとてもすばらしい事だと思っております。

そこで今年は青森でやりましたので、18年度は海を越えて北海道で、19年度は東北の合川高校でやっていただくというのはどうでしょうか。

海を渡るとなると、参加する人の気持ちもわくわくしますので、是非その方向で検討していただきたいと思えます。

置戸高校校長：先生方のお気持ちはよくわかりましたが、北海道ブロック研修もローテーションを組んでやっておりますし、それぞれ学校事情、地理的事情もありますので、帰りましたら改めて相談をし決めたいと思えます。

たしかに大妻高校さんの実践はすばらしいものがありますが、北海道としては、今年の東奥学園高校さんのように立派には出来ませんが、ささやかにということで検討させていただきます。

議長：では帰りましたら、前向きに検討していただきたいと思えます。

3. 理事会の報告

議長：昨日行われました理事会の報告を東奥学園高校の校長先生よりお願い致します。

東奥学園高校校長：理事会には、北海道代表として置戸高校の奥寺校長先生、東北地区代表として私が参加させていただいております。

理事会では大きな懸案が二つほど有るのではないかとおもいます。

一つは、平成17・18年度の福祉科校長会の会長を北海道・東北ブロックより出さなければならぬ。選出については、理事会で決定する。

これまでは、関東地区より会長を選出していたが、これではかたよって変ではないかという意見が出、話し合いの結果会長は全国持ち回りにし、関東地区から副会長を選出するということになりました。来年4月位までには、理事会において新会長が北海

道・東北ブロックから 選出されることとなります。

二つ目は、平成 17 年度第 11 回の全国大会は三重県と決まっていますが、平成 18 年度は北海道・東北ブロックの中で全国大会をやらなければならないが、具体的に場所をどこにするか決めなければならない時期に来ている。

置戸高校校長：会長の件につきましては、北海道といたしまして検討しましたが、現在副会長をやっている東奥学園高等学校の高橋先生が適任であると考えております。

高橋校長先生の負担は大きくなると思いますが、お願いできないかと北海道ブロックでは望んでいますので、お考え頂きたいと思います。なお、協力は惜しまないということも付け加えます。

東奥学園高校校長：北海道側のお気持ちはわかりましたが、この場合は議決決定機関ではないので、お話しだけ伺っておきます。

置戸高校校長：全国大会につきましても、そろそろ決めなければならないと思って話し合ってきましたが、北海道としては地理的条件、学校事情、学校数などさまざまな問題を抱えており、わがままで虫の良い話しと思われるでしょうが、全面的に協力をいたしますので、青森の東奥学園高校さんの方でお願い出来ないものかと考えております。

東奥学園高校校長：どこに決まっても、平成 18 年度の第 12 回全国大会は北海道・東北 6 県の全部の先生方の協力のもと、大成功に終わらせなければならないと考えておりました。

北海道ブロックの考え、要望もわかりましたので、校長として皆さんさえ意義がなければ 18 年度の主管校は東奥学園高校で引き受けてもよいと思います。

今いらっしゃる先生方全員に、ご協力を願って全国大会を成功させたいと思いますのでよろしく願いいたします。

あらためて、東奥学園高校が主管校を引き受けて平成 18 年度の全国大会を行うことを快諾いたします。

全 員：意義なし。よろしく願い致します。

議 長：徳島大会要項 P 21 に平成 16 年度役員（改訂版）名簿がのっていますが、北海道・東北ブロックから会長が選ばれることになれば、新たに理事としてこのブロックより、どこかの校長先生が加わることになるという事も覚えておいて頂きたいと思います。

さらに P 22 に学科主任等代表者組織分担当も、現在代表者として北海道地区は置戸高校の前田先生、東北地区は二つに別れており、南東北では迫桜高校の河野先生、北東北は東奥学園高校の小川が務めています。東奥学園高校の場合本年で 4 年やったので、次の高校に代表を引き継ぐ予定で、来年は秋田県より代表者を出すこととなっています。従って会長・理事・学科主任代表等平成 17 年度においては一部変わるということになりますのでよろしく願い致します。

議 長：質問がなければ、次に学科主任等代表者会議の報告を置戸高校前田先生よりお願いいたします。

置戸高校：学科主任等代表者組織には研修部・調査統計部・広報部があり、それぞれの組織から活動状況、要望などが出されました。

研修部は、授業・指導書研究を受け持っており、現在は社会福祉演習の指導書とまでいかないが、すぐ役立つノート作りということで取り組んでいる所です。8月下旬にアンケート調査を加盟している学校に依頼し、送付しました。戻って来た資料については、他のブロックと一緒に合わせ、その中で事例を組み合わせて作っていくという事になっていますが、まだまだ事例が足りないという状況にあります。

その中でも、一番苦勞しているのがケアプランの事例です。ケアプランの指導ということで、これからも要望がでできれば、再度お願いすることもあるかもしれませんので、この場を借りて連絡しておきます。

調査統計部は、全国基礎調査を受け持っており、今年度は福祉科又は福祉コースの卒業生の就業状況、進学状況について調査しているとの報告がありました。

現段階ではまだ最終的なデータは出ていないということであるが、データがまとまり次第各校に連絡送付するという報告がありました。

対象となっているのは、現在加盟している210校であり、それぞれの学校に調査を依頼するという話しがでていたので、もしその調査が回ってきたら、ご協力をよろしくお願い致します。

広報部は、各校の近況・福祉情報を担当しており、松戸矢切高校に事務局をおきホームページを開いているがなかなかアクセス出来なかったり等、うまく機能していない状況にある為、改善が必要であるという事で取り組んでいるという連絡がありました。

事務局からは、現在の加盟状況等について話がありました。また、今日の基調講演の中にもありましたが、「介護福祉士の有り方と質の向上に関係する検討委員会」の報告書について厚生労働省が出してきた回答について話がありました。

全国産業教育フェアについて、第14回の産業教育フェア全国大会は広島で、大分野津高校他2校が出品するという連絡がありました。

P27にのっている研修会の報告の2番目の新産業技術等指導者養成講習について説明がありました。これは毎年行っているものですが、今年から名称が変わるという連絡があり、新しい名称は産業技術・情報技術等に関する指導者の養成を目的とした研修となります。

昨年までですと、L1と称して介護技術、L2と称して社会福祉援助技術について、それぞれ指導者講習を行っており、参加者も以前は40名でやっていたが今年は各20名と少ない人数で実施しました。それでも最終アンケート調査の結果は、もう少しレベルを上げて実施したほうがよいのではないかという意見が多く、それに答える形で研修の名称を変えて、来年度から実施するという事で、案内が各校に行くと思うのよろしくお願ひします。

また、先日北海道・東北ブロックの各校に福祉科卒業生の就業状況調査のアンケートをお願いした所、22校より回答を得られました。あらためてこの場をお借りしてご協力のお礼を申し上げます。集約結果については、私の方でまとめましたので後ほど送付したいと考えております。

議 長：少し付け加えますが、調査統計部では、各校のメールアドレスが事務局より送られてきておりますので、メールを通して全国基礎調査を実施させていただきます。

11月初めには各校に送られていきますので、過去3年間の卒業生の実態調査をするものなので、是非ご協力をお願いいたします。

メールは東奥学園高校より送りますが、各校の回答は香川県の飯山高校で取りまとめをいたしますので、そちらの方へ送っていただきたいと思ひます。

昨日の代表者会議で最後に話題となりました、ヘルパーの質の向上と・介護福祉士の質の向上を目指してということから、今回ヘルパー2級資格がなくなるとか、介護福祉士の受験資格が養成校に一本化されるとか等、うわさが流れておりました。

このことについて、厚生労働省の係長からもお話しがありましたように、今は昨年同様高校福祉科は受験できるという回答をいただいたが、将来的なことを見すえて、以前の保育科のような形にならないためにも対策が必要なのではないかと思ひます。

今回8月に東奥学園高校から各校にFAXでお願いしました要望書については、ご協力ありがとうございました。今後もさまざまな対策が必要になるのではないかと思ひます。

その一つの方法として、ただ要望書のみでお願いするのではなく、調査をし、統計をしっかりと出し、継続したものを厚生労働省に提出するという形が必要であると考えられます。今後も調査、集計、統計を調査統計部で実施していきますので、その時はご協力をお願いいたします。

4. その他

議長：他に何か質問等ございませんか。

一戸高校校長：P 28の規約についての確認ですが、第3条の組織で福祉科（福祉科に準ずる）となっていますが、準ずるということは、総合学科の系列や福祉コースなども入っていると考えてよろしいのでしょうか。

議長：はいっております。

一戸高校校長：P 28の第5条の2行目に学科主任の連絡となっているが、学科主任というのは、専門学科にしかないわけで、総合学科には学科長はいないわけですし、コースにも学科主任はいないのではないかと思ひます。

東奥学園高校校長：準ずるということであるから、一般教諭でもどなたでも良いと考えるが、しかし学科長とうたってしまうと、学科長がいなくて出れないという規制がかかることもあるので、学科長でなくても、2人・3人と出席出来るようにするためには、この規約から学科長という言葉ははずした方が良いと考えるので、次会の理事会に学科長という言葉の扱いについて提案したいと思ひます。

一戸高校校長：第9条の役員の任期は2年となっているが、改選時期は平成17年度になるのでしょうか。

議長：はいそうです。

一戸高校校長：次は要望ですが、サンフェアの輪番についてですが、以前岩手で全国大会があった時に、福祉はどこの高校がやるのかわからず、最後の最後まで一ノ関高校が苦勞をしたという経緯がありました。これは地区の校長会に報告がいついていないためでな

いかと考えられますので、家庭部会の担当校への連絡もぜひお願いしたいと思います。
また、北海道の研修会は輪番で決まっているようですが、東北・北海道地区研修会の会場の輪番もどこかの時点で決めておいた方が良いのではないかと考えます
岩手は学科が無くなり、総合学科として残ることになりますが、研修は大切だともうので、是非輪番について検討していただきたいと思います。

東奥学園高校校長：青森県も福祉科の高校が少ないので、それぞれ連携をとるよう東北6県に私の方から働きかけたいと思います。

議長：では時間となりましたので、これで終了させていただきます。ありがとうございました。

北信越ブロック会議事録

ブロック会議 平成16年10月28日(木) 13:10～13:50 徳島県教育会館
司会進行：小林逸元 (長野県立上田千曲高校)
記 録：水元敏博 (福井・啓新高校)

議題：北信越ブロック

出席者	石川県立田鶴浜高校	高 一男	今井 和代
	福井県立大野東高校	浅野 清美	中挾 晴美
	富山県立志貴野高校	梶 晶子	
	富山県立となみ野高校	加賀谷 恵子	
	富山県立新川みどり野高校	稲場 恵子	
	富山県立有磯高校	長井 ひとみ	
	富山県立井波高校	奥田 順子	
	新潟県立八海高校	小杉 直美	
	長野県立上田千曲高校	飯島 彦太郎	小林 逸元
	福井・啓新高校	水元 敏博	

司 会；午前中の実技講習の時期、方法についての再確認を行う。

奥田氏；井波高校は、来年度福祉科開設予定。授業等のアドバイスをいただきたい。

飯島氏；上田千曲高校の北信越ブロック事務局担当の終了挨拶。

司 会；来年度に実施される介護技術講習会について学校としての対応はどうか。

先ほど説明したように8月までに生徒をある程度のレベルまで上げておかなければ間に合わない。

今井氏；当校では今回の回答がなかった時点は、様子をみながら保留していたが、今の思いとしては生徒にはチャンスがあり、学校として希望者がいれば保護者に連絡をとり受講させなければ。

司 会；当校はまだ決定まではしてないと思う。現在様子をみている。いろいろな学校の状況を見ると、講習会場までの交通の便により前泊などのお金の面、また力が備わっているかなど考えることが多々ある。しかし、実技合格のチャンスは2回になった。講習会の希望者がいた場合、補講により対応したい。

小杉氏；まだ話し合いはしてないが、お金の件(受講料)などがあり、受ける子受けない子が出た場合など、もう少し検討しなければならない。

司 会；講習会においては、今までの実技試験の制約(入浴や排泄など)が解消され、教える側の力量が問われる。

小杉氏；学校としてどのように判断すべきか。受ける生徒、受けない生徒については。

司 会；高校長先生は？

高 氏；学校としては受ける道を閉ざしてはいけないと思う。受けたいというなら、保護者と相談して。

司 会；しばらくすると文書での案内が来ると思います。

他の件で、何かありませんか。

- 高 氏；各県の就職状況はどうか。希望する生徒は福祉関係に就職できるか。
当校は就職と進学割合は1：1で、就職希望者は12月、1月早々には何とかできている。
- 中挾氏；当校は福井の奥越ある。生徒は地元志向だが地元は求人がなく生徒は下宿や遠距離通勤で他市に決まっている。就職希望者は20名近いが施設へ就職する。希望通りではないけれど、収まる。
就職開拓に関しての各校の取り組みは？
- 加賀谷氏；1期生は老健施設5～6名就職。県全体は専門学校生、短大生、大学生の求職者が上まわっている。求職者が多く、きびしい状況。
採用側はいい人が欲しいが、専門学校生、短大生、大学生でもいい子はなかなかいないとのこと。福祉人材の求人という催し会場にて、生徒ともども情報収集している。
- 稲場氏；はじめて卒業するが、進学が2名決まったが、後は不明。
- 長井氏；6割くらいの子が4大、短大、専門学校へと進学する。
- 奥田氏；福祉関係の就職希望者はない。進学希望者は10人ほど。
- 小杉氏；就職については、一昨年は動きがなかった。昨年と今年は求人があった（臨時職だけ）。就職に関して生徒も面接の練習をしている。100回同一施設でボランティアに行き、決まった子もいる。
- 司 会；施設希望をしたものは施設へ就職している。年により3～4人。この前の子も実技試験の練習をしていた。特別な活動は特にしてない。実習でお世話になり、就職が決まる。
- 梶 氏；先日のヘルパーの質の向上の件は、本心はどこにあるのか。
- 今井氏；ヘルパーの質の向上をさせたいとの考えでは。
- 司 会；そろそろ時間になりましたので、このあたりで終わりたいと思います。

関東ブロック会議事録

ブロック会議 平成16年10月28日(木) 13:10～13:50 徳島県教育会館
司会進行:鈴木 恭太(松戸矢切高等学校)
記 録:井上 明佳(松戸矢切高等学校)

議題:それぞれの学校が抱える課題について

関東ブロック会議

参加高校:吾妻(群馬)、御宿(千葉)、二俣川看護福祉(神奈川)、市立川崎(神奈川)
田沼(栃木)、日本女子体育大学体育学部付属二階堂(東京)、
真岡北陵(栃木)、不動岡誠和(埼玉)、塩谷(栃木)、八千代(茨城)、
古河第二(茨城)、松戸矢切(千葉)

・県下、唯一の福祉科がある高校であるため、厚みのある学校と思われがちだがそうではなく、まだ指導者のほうも、指導等について試行錯誤の段階である。教員の入れ替わりも多く、毎年半分以上が替わるため、継続的な生徒指導ができないという課題がある。今年度の国家試験の合格率も昨年度に比べて数値が下がった。訪問介護員2級の取得のため、講師に頼っているが、講師の持てる科目数が3科目までという県の決まりがあるため、多くの講師を頼まなくてはならない。看護の免許を持った教員がいないため、こちらもすべて外部講師を頼んでいるが、毎年、講師の確保が難しい状態である。昨年度と変わらない課題で、なかなか解消できていない。

・普通科の中にコースとして立ち上げたが、統廃合が決まった。統廃合してもそのまま引き継いでいく予定である。外部講師に頼る事になると思う。訪問介護員2級の取得の関係で、生徒の受入数は5～20人程度が施設設備数から受け入れられる限度ではないかと考えている。

・神奈川県は、古くから「ふれあい教育」となっている。県下、唯一の福祉科がある高校である。神奈川全体の福祉関係の科目を設置している学校は、公私合わせて30校ほどある。訪問介護員2級の取得ができるが、他校の福祉コース、単位制の高校でも、福祉の免許をもった教員を配置しているため、福祉教員の確保が難しい。学校によっては、表向き訪問介護士2員が取得できると言っているが、夏休みに専門学校等の講習を受講して単位を取得してくるという学校もある。大学から教育実習の依頼を受けるが、応えに限りがある。

・中学生の確保が大変である。今まで、福祉系、教養系と分けていたものをカリキュラムの変更により統合され、両方に国家試験を受験させなくてはならなくなり、合格率が低下。訪問介護員1級が取得できるが、高校生には、、、と県はなかなか首を縦に振ってくれない現状ため、申請時に苦労している。高校生への資格について苦悩している。どうにか福祉科をなくさないように中学校へのアピールをしているが、そのためには資格が取れることと、質の向上が維持できるよう、教員でアピールしていかななくてはならないと思っている。

・栃木県は県の配慮ものと訪問介護員1, 2級が教員の教えで取得可能である。実力が伴わないともいわれるが、資格を取って、経験を積んでいく中でできるのではないかと考えて指導してい

る。課題としては、入学してきた生徒に資格を取って進路を確保していくのが重要と考えている。一番は国家試験に合格することである。就職を希望する生徒がこのところ非常に多く、その生徒の希望に沿った出口の確保が課題である。

・栃木県では福祉科のある学校が3校ある。今年、家庭部会とは離れて、福祉部会校長会を立ち上げた。年2回の研究会を行っている。福祉関係、公私にわたり福祉の結束ができていないかと思う。

・実習先の確保の問題、国家試験対策をどのように立てたらよいか、教員間の勉強会を開きたいが、時間が無く実行できない。2級が取得できるが、やはり沢山の講師が必要で、講師の確保が難しい。国家試験に合格させるのもそうであるが、就職希望も多く、就職先の確保が難しい。

・コースといっても科と内容はかわらない。福祉コースだと専門科目が大変多いため、一般科目の確保が難しく、福祉コースから大学へ進学したい生徒のための放課後の授業、夏休みの講習を行っている。

・就職は卒業生を7回出している関係から、今のところは生徒希望に沿った就職ができています。教員側の授業展開の課題、とくに援助技術の授業展開、演習の事例研究調査・ケアプランなど。科内での研修をいれなくてはならないが、時間の確保が難しくできていない。生徒は、授業はやりやすい、素直な生徒が多い、心が弱い、自立していない、常識的なことがわからない生徒が多く、実習に出す場合、かなりの個別指導が必要となる。昼休み・放課後を使い、現在は6人の教員で対応しているが、基礎学力を伴っていない生徒が多いため、難しい。実習記録ではいいのを感じてきているが、それを記録に書き表せない生徒もいる。時間をかけて指導をするしかないのか、効率的に指導する方法はないものが課題。

・昨年度のブロック会議の課題でした、各地域で福祉教育研究会を立ち上げようという事でしたが、文科省の指導者養成講習より福祉の免許を持ってきた先生方と一緒に今年度発足させた。教育研究会の報告を情報交換したい。埼玉県では介護技術の見直しという事で、YWCAの先生をお呼びして、初歩的なことから教わったところである。課題は、統廃合の1校として、現在は普通科2クラス、福祉科2クラスの学校であるが、平成20年には単科でいくと県から言われた。将来構想は単科で3クラス、県は単科で4クラスと言ってきた。教員は現在8名、実習助手2名いるが、20年に向け、やりがいのある状態である。生徒の質がかわり、就職より進学が増えている。

・普通科2クラス、福祉科1クラスの小規模学校である。問題点の第一は進路、就職、進学が半々だったものが、近年は就職希望者が増えている。実習施設を中心に福祉系への就職であったが、生徒の質が変わり、福祉以外の方という生徒が増えている。生徒をいかに国家試験に向けるか、大変アクセスの悪い小規模校なので、入学しやすい、つまり基礎学力が大変低い、漢字が読めなく、授業は漢字から。一般教科にしても、中学までのものを消化していないという生徒達をいかに引っ張っていくか、しかもあの科目数の多い国家試験にどのように引っ張っていくかが一番の課題。また1つのことへの集中力がない。気持ちだけでは継続できない、気持ちは優しく福祉に向いていると思うが、しかし資格がなければ意味がない、就職しても資格がないと内定取り消しになってしまう場合もある。生徒の気持ちを継続させるのが難しい。また教員が3人しかいない中、往復100キロほど距離のある実習施設へ伺わなければならない。健康第一。

・総合学科で2年生から福祉系列に分かれ、資格は訪問介護員1級まで取れる。普通科でも福祉コースを設けて10年になるが、小松島西高校の公開授業を見せて頂き、施設の違いに驚いた。県の指導主事訪問にてどうにかならないかと話をしたが、予算がない、指導に工夫しろという事。しかし35人の生徒に対して5台のベットしかない現状。福祉系への就職希望生徒もいるが、施設側からの求人がなかなか無い。やはり高校生では、ということのようである。国家試験の合格率がなかなか上がらない。読み書きからしっかり指導していかないと合格率も上がっていかないのかなと考えている。

・訪問介護員2, 1級が取れる県内唯一の学校である。1級取得に関しては、やはり地域の事業所の方々にとっては18歳で1級が取れてしまうのはどうなのか、また親からみたくは資格を取らせたいという相反するニーズにどう対応していくかという所で、1級に関しては生徒によく説明することで多くても5, 6人の合格だよと納得させている状態。地域と親の希望とのバランスが難しい。教育実習の申し込みを2年連続で受け入れたが、3クラスに対して4人、受け入れ態勢がなく、申し訳なく思っている。施設実習の開始時間が7時半と早い中、片道1時間以上かかる生徒もおり、よくやっていると思う。

・茨城では統廃合で15校の減少を見込んでいる。その中で、総合科に変更する学校に福祉を取り入れるのが3校、家庭科関係が1校あがっている。研修会に関しては県に部会を新設したいと申し出たら、参加校が少ないということで見送りになった。研修会は各校で行わなければならないのと考えている。県境にあるためか、42, 3%が県外の生徒である。身体が丈夫で賢く、心のしっかりした生徒を強調して生徒募集をしている。

・研修会を1度行ったが、部までには発展できなかった。生徒の質が変わってきている、コミュニケーション能力に欠ける、資質に欠ける生徒が入学してきている。そのような生徒は就職でも、面接で落とされてしまう、進学は家庭の経済状況で出来ない事が多い。研修内容を福祉科校長会のHPに掲載したいので情報提供をよろしくお願いいたします。

東海地区ブロック会議事録

ブロック会議 平成16年10月28日(木) 13:10 ~ 13:50 徳島県教育会館
司会進行：冨井 恵子(三重県立上野商業高校)
記 録：渡辺美智子(岐阜県立大垣桜高校)

議題：理事、学科主任代表者について・全国大会について 全国会長校について・情報交換

- 1 東海地区理事、学科主任代表者について
 - ・三重県立上野商業高校校長より
順番県の確認(別紙)、年度末までに理事名、代表者名を上野商業高校へ連絡すること。
平成17・18年度の理事・・・岐阜、愛知(三重)
// 学科主任代表・・・岐阜、愛知
- 2 平成17年度全国大会について
 - ・授業研究発表について、静岡県で担当する。担当校名については主幹校の明野高校へ連絡する。(愛知県の福祉科のある高浜と古知野高校は発表済み、岐阜県は今年度発表したので静岡県でお願いしたい。)
 - ・公開授業を行わない代わりに参画型の展開とする。
- 3 全国会長校について
 - ・平成17年度から役割の公平化のために、2年ごとに全国5ブロックを順番に回したらどうか。
- 4 情報交換
 - ①理事会の報告(上野商業高校校長より)
 - ・介護福祉士試験の実技講習会について、試験会場を高校の施設使用も可能、学校を使うことを提案した方がよい。
 - ・介護福祉士の高校受験資格存続については質的な実績を残す必要がある。訪問介護員については現状維持。(資質の向上等の関係から実習中身の見直しが考えられている。)
 - ②質問疑問等(各校より)
 - ・介護福祉士実技講習会の受験の方向、費用についての情報がほしい。
 - チャンスが増えたと考え、受けさせたい。保護者会などで親に説明を行う。(上野商業)
 - 岐阜県にある中部学院大学に声をかけて本校で実技講習会を実施するよう働きかけている。実技講習会を利用したい。(坂下高校)
 - 高校が会場校になったときの先生方の負担が大きい。4月に打診を受けたまま何の連絡もない。生徒が講習会までに難しい内容をクリアできるかどうか疑問である。(静岡県)
 - 希望者のみ講習会を受けさせる。今までの2次試験を受けさせる方向である。実技試験に対応できる授業内容を組む必要がある。(明野高校)
 - ・訪問介護員研修について、実習の見直しや中身の検討を行い質の向上を図っていく方向であるが、各校の意見は?
 - コースの中でカリキュラムが組めるか疑問である。一時中断状態。講師料の問題もある。

近畿ブロック会議事録

ブロック会議 平成16年10月28日(木) 13:10～13:50 徳島県教育会館
司会進行: 松本 美幸 (榛原高等学校)
記 録: 山下 順弘 (天理高等学校第二部)

議題: 「介護技術講習会」導入について

近畿ブロック会議(小研修室B4階)

参加者 鈴木信隆、松本美幸(榛原) 飯降成彦、山下順弘(天理第二部)
北川貢造、村元研二(長浜) 中西順子(守山女子) 藤澤教悟、桑原元則(綾羽)
青木健至(淀商業) 山本真博、鶴谷健三(淀之水) 名原伸子(有田中央)
森 裕、西下耕平(熊野) 上田ゆかり(海南市) 長森順子(新宮)
伊藤睦美(日ノ本学園) 葛壁律子(久美浜) 鈴木基弘(福知山淑徳)

協議議題 「介護技術講習会」導入について

1. 鈴木信隆理事からの挨拶並びに各種報告

- ① 5月28日 第1回理事会で昨年度の会計報告、事業報告及び役員選出がなされた。
- ② 7月5日 第1回近畿ブロック会議を榛原高校で開催し、近畿から21名の参加者を得た。
以下のことが決まる。

1) 平成16年度近畿ブロック実践研究会輪番について

平成17年2月10(木), 11(金) 滋賀県長浜高等学校で開催(10周年記念大会)
尚、一応、24年度までの輪番表(当番県)を基に進めていくことになる。

【実践研究会】

担当府県

16年度滋賀(長浜)→17年度和歌山(有田中央)→18年度大阪→19年度京都→20年度奈良→
21年度滋賀→22年度兵庫→23年度和歌山→24年度大阪

【ブロック理事】

担当府県

15. 16年度奈良県(榛原)→17. 18年度京都府(福知山淑徳)→19. 20年度大阪府→
21. 22年度和歌山県→23. 24年度兵庫県

- 2) 第18回介護福祉士国家試験から「介護技術講習会」が導入されるにあたり、どのようにすべきか慎重に対処したい。

2. 参加校による「介護技術講習会」導入についての情報交換

- ・「介護技術講習会」に必要な経費が6万～8万程度と聞くが、生徒の置かれている現状から費用捻出は困難と考えられる。
- ・県や協力団体からの助成をお願いできないだろうか。
- ・「介護技術講習会」については導入の方向で考えているが、経済的な面で何らかの助成をお願いしたい。
- ・国家試験の第1次合格基準が年度により大きく差がある。また2次試験に置いても合格基準が曖昧である。厚生労働省に合格基準の明確化をお願いしてほしい。
- ・介護の世界は学歴による業務分担がない世界である。養成校を出た者も、実務経験からの者も、福祉科高校を出た者も同じ質を求められている。質の向上を考えると、学校教育

の重要性を痛感している。

- ・「介護技術講習会」を受講すれば必ず修了認定をいただけるのか、高額のコストを使って受講させるのであるからその点が心配である。
- ・将来は介護福祉士国家試験の受験資格が養成校卒の方向に向いている。養成校の教育内容に大きな問題があるように聞く。
- ・「介護技術講習会」に6万～8万の経費がかかることから軽々に生徒に受講を勧められない。
- ・今できることは、高校福祉科の質の向上に努めることである。国家試験の合格率を今以上に上げることにより、将来の方向性を変えていく努力が必要である。
- ・現行の第1次筆記試験、第2次実技試験の受験方法を踏襲していきたいと考えている。従って、当面は「介護技術講習会」の導入は考えていない。
- ・「介護技術講習会」の導入はレベルを上げることが理由ではなく、第2次試験がパンク状態になっていることの解消策でしかない。それだけに「介護技術講習会」の導入は慎重に対処すべきであると思う。
- ・養成校、短大、大学等の卒業生よりも福祉科高校の卒業生の方が良いと施設からしばしば聞いている。

3. 平成16年度近畿ブロック実践研究会要項

福祉科10年研究大会要項

1:日時

平成17年2月10日(木) PM(第1日目) 於:長浜高等学校

11日(金) AM(第2日目) 於:長浜ロイヤルホテル

2:内容

【1日目の午後】

- | | |
|----------------------------|---------------|
| ①受付 | 13:00 ~ 13:30 |
| 実習棟玄関 | |
| ②挨拶(家庭総合実習室) | 13:30 ~ 13:40 |
| 学校長 | |
| ③長浜高校福祉科10年の軌跡 | 13:40 ~ 14:05 |
| 休憩及び移動 | |
| ④公開授業(第6限) | 14:15 ~ 15:05 |
| 講義:1年生 「社会福祉基礎」(福祉総合実習室) | |
| 2年生 「社会福祉基礎」(2年5組HR) | |
| 実技:3年生 国家試験指導(看護実習室、介護実習室) | |
| ⑤研究協議(家庭総合実習室) | 15:15 ~ 17:00 |
| 助言者 文部科学省教科調査官 矢幅清司 先生 | |
| 公開授業「社会福祉基礎」(2年生)について | |
| 報告者 杉澤和雄 教諭 | |
| 公開授業「社会福祉基礎」(1年生)について | |
| 報告者 高山亨 教諭 | |
| 介護福祉士国家試験指導について | |
| 報告者 水口順子 教諭 | |
| 訪問介護員制度への対応について | |
| 報告者 村元研二 教諭 | |
| ⑥教育懇談会(長浜ロイヤルホテル) | 18:00 ~ 20:00 |

【2日目の午前】（「平成16年度近畿ブロック福祉教育実践研究会」）

- ①福祉科卒業生による発表 9:00 ～ 9:50
- (1)高校を卒業して「介護福祉士」を取得して福祉の現場で働く卒業生
……「福祉の現場で働いて」
 - (2)大学に進学し、他の資格を取得して現在、福祉の現場で働く卒業生
……「長浜高校福祉科から進学して」
 - (3)行政や社会福祉協議会で働く卒業生
……「行政や社会福祉協議会の立場から見た福祉の現状」
- ②関連機関・施設からの福祉科への提言 10:00 ～ 10:30
実習依頼施設もしくは就職先福祉施設からの高校福祉科への提言
- ③記念講演 10:40 ～ 11:50
文部科学省教科調査官（矢幅清司先生：60分）
……講演テーマ『高校福祉科を取り巻く現状と未来』
質疑応答（10分）
- ④閉会挨拶 11:50 ～ 12:00

中国ブロック会議事録

ブロック会議 平成16年10月28日(木) 13:10～13:50 徳島県教育会館
司会進行：中倉 恵美子(島根県立松江農林高校)
記 録：寺田 貴美(岡山市立岡山後楽館高校)

議題：理事会・学科主任代表者会の報告と来年度分科会について

1 理事会報告 島根県立松江農林高校長 山田 忠男

(1) 実態調査について

現場の状況を把握するために実施されたものであり、その一部を紹介する。

◇施設の受け止め方 介護職の質の向上(89施設)

心の育成

社会人としての資質や能力(19施設)

ごく当たり前の行事や家事全般を知らない

◇福祉科に望むこと 福祉職の心構え(36施設)

コミュニケーション能力・社会人マナー(29施設)

実習時間(23施設)

ケアプランの作成能力・キャリアアップ(12施設)

ボランティア活動の体験(7施設)

その他/介護専門課程の設置・調理技術 等(42施設)

◇介護福祉士国家試験受験に関しては、養成施設(校)のみに統一することは必要と
していない。

(2) 表彰規程を定めるかどうか検討されている。

(3) 全国の福祉科校長会会長においては、輪番制をとることになった。

全国を5ブロックとし、北から2年ごとに会長を選出することになった。

中・四国ブロックからも将来選出することになるのでご承知いただきたい。

2 学科主任代表者会報告 島根県立松江農林高校教諭 中倉 恵美子

(1) 研修部は、指導参考ノートの作成にあたり、協力をしてほしい。

(2) 調査統計部は、進路調査の協力を依頼された。

(3) 広報部は、今後活動をしていきたい。

(4) 新産業技術講習会の実施が今夏行われ、当初20名を予定していたが、介護技術6名、社会福祉援助技術28名の参加があった。しかし、実際のところ初心者に近いレベルの参加者が多く、参加者に関しては今後要検討。

また、これまでは参加費無料であったが、今後は資料代程度を徴収する予定。

(5) 北海道で実施され諸た調査について、高卒者の離職率は低いとの結果が出ている。厚生労働省に結果等を伝えていきたい。

(6) 職員の採用について、実習経験も全くない者が採用されており、指導が出来ない人材が多い。

3 検討事項

○来年、第11回の福祉全国大会（三重大会）において「現場実習」に関する発表が中国ブロック担当になっているため、代表者を決めたい。

- ・ 輪番の規程はこれまでなかったが、決めた方がよいのか？
- ・ H 17・18 年度のブロックの事務局は岡山に決定しているが、事務局県が発表も兼ねるのは、重荷過ぎる。
- ・ 今回は広島県が参加していないので、方向性を出しておく程度にしてはどうか。
- ・ 今後のこともあるので、ブロック内5県で輪番のようなものを決めておいても良いのではないか。ただし、状況に応じて応用できるものがよい。
- ・ 勉強になることなので、是非積極的に取り組んでほしい。
- ・ 担当している内容（発表内容項目）が、専門科かその他か、考慮すべきである。
- ・ 理事になる県と1つずつずらして担当していく方法もあり、繋ぎをよくしていく方が望ましい。

●この話の内容を踏まえて広島県にも連絡し、事務局にて輪番を決めて後日お知らせしたい。

4 その他

- ・ ブロック校長会の内容をどの程度報告すべきか、またいつ行うべきか迷っている。
今後、県の事務局校に情報を流してそれぞれの県内で連絡していただく方法でいきたい。

四国ブロック会議事録

ブロック会議 平成16年10月28日(木) 13:10～13:50 徳島県教育会館
司会進行：井上 直樹 (香川県立飯山高等学校)
記 録：北村 文恵 (香川県立飯山高等学校)

議題：四国各県の現状報告と今後の課題について

- 1 主管校校長より本大会協力御礼と挨拶
- 2 四国理事より昨日の理事会報告
- 3 大会参加者名簿(学校)順に自己紹介(42名)

高知県より

県立城山高等学校の取り組みを紹介。平成16年10月4日(月)高等学校教科「福祉」研修会～香南地域から「福祉の心」発信～を開催した。城山高校福祉教育の実践発表、公開授業と研究協議、矢幅調査官の講演会が行われた。また自主企画研修として、福祉科主任は平成17年1月8、9日に開催される「第6回福祉教育研修講座」に参加予定である。

愛媛県より

県立宇和島南高等学校の川上先生より報告。福祉免許の講習会を受けたが研修の場が少なすぎるということから、家庭部会の中に正式に福祉部門を立ち上げた。県内総合学科3校と私学3校など、全13校で6月に主任研究協議会、8月に実技講習会、10月に研究会を行った。12月には教研全国大会にて研究発表をする予定である。また免許名簿は福祉を独立させ、だれがどの科目を教えているかを明確にしている。

徳島県より

県立那賀高等学校の亀代教頭より報告。平成15年4月、高等学校教育研究会の承認を得て福祉学会が設立した。8月22日(金)に第一回研究会が開催され、2校の研究発表があった。

香川県より

三木高等学校校長より報告。教育研究会情報部会は立ち上がっているが、福祉部会はまだまだである。しかし平成15年8月には教育課程運営改善研究会で教科福祉の勉強会が行われた。

- 4 平成17、18年度四国ブロック理事校(高知県立室戸高等学校)より挨拶

九州・沖縄ブロック会議事録

ブロック会議 平成16年10月28日(木) 13:10～13:50 徳島県教育会館
司会進行：南 富美子(大分県立野津高等学校)
記 録：下田 かおる(長崎県立大村城南高等学校)

議題： 各県の現状と課題について

1：開会あいさつ 九州・沖縄ブロック理事 大分県立野津高校 安田校長

*高校福祉科の現状について：刻一刻と変化してきた

6月のブロック大会後、介護福祉士の国家試験のあり方について厚生労働省から答申が出されたのを受けて九州、沖縄ブロックはすべての県が8月に要望書を提出した。

*10月27日の校長会理事会より：介護福祉士の国家試験のあり方については現状維持だが、厚生労働省と文部科学省がすべてにおいて合意しているわけではないので、再燃する可能性がある。高校福祉科校長会は、互いに研鑽しあいながら方向性を見つけていく。厚生労働省から、問題点を指摘されることのないように取り組む。

(例)：注意点 ①1単位50分・35週を45分の35週で実施しているところは再検討する必要あり。

*介護福祉士実技講習会について：一部の高校には、施設や講師の依頼があっている。どのような施設が実施していこうとするのか、依頼されている方々に情報提供してもらう。

*福祉科校長会事務局・木村会長は今期2年目、ホームページを立ち上げた。目を通して欲しい

*事務局(現在 千葉県立松戸矢切高校)は関東地区が受け持ち、6月の九州・沖縄ブロック大会時には現状維持で報告したが、緊急理事会が東京で開催され安田校長出席。

*会長は北から輪番制とする。1番目は北海道・東北地区。九州地区は5番目と決定。

副会長は関東地区に置く。

II： 各県からの現状報告

①福岡県：(福智高校 荒瀬校長)報告

*福岡県高等学校福祉教育研究部会創設について。

H15 12月 久留米築水高校長より 部会創設について

H16 1月 教科「福祉」授業研究等について 福祉系各高校に文書通知

2月 久留米築水高校にて 高校教育課指導主事を迎え公開授業(船原先生)・研究協議会
部会設立・規約などについて協議

H16年度 6月 関係各高校に設立準備委員会の案内追付。

7月 久留米築水高校にて準備委員会開催。役員選出及び総会の期日決定

7月 文部科学省・厚生労働省へ杉森会長名で要望書提出。

9月23日 久留米築水高校にて指導主事を迎えて設立総会開催。

記念講演「社会福祉法人東合川福祉会 介護老人福祉施設 光寿苑施設長 木下 一弥 氏
「福祉施設が求める人材」優しさと甘さの違い

②佐賀県：(北陵高校 久原校長)報告

*加盟校は5校(県立4・私立1)、系列・コースである。

研究会の立ち上げ準備中で、県教委と検討中 12月に立ち上げ予定。

介護福祉士国家試験合格率70%へと言われるが、全員受験させている関係上50%程度である

③長崎県：（大村城南高校 下田）報告

- * 加盟校2校 介護福祉士養成校は私立1校のみ。福祉科目設置高校は総合学科が多い。研究部会はない。

県立学校の総合学科においては 福祉教科担当者会議が、年1回 開催される。

大学・高校教員・福祉関係者・学生などを対象に 自主的研究会が、10月に大学との連携で実施された。

- * 長崎県が H17・18年度の九州・沖縄ブロックの理事担当である。
九州・沖縄地区福祉科系高等学校長総会、研究協議会は、大村市において H17年・6月16日（木）・17日（金）に実施
予定。12月に参加の予備調査予定

④熊本県：（阿蘇 清峰高校 梅井先生）報告

- * 研究部会 H16・2月 協議会開催 進路・福祉実習について 課題検討
6月 総会開催 会則・規約検討 学科・コースに分け意見交換・協議会
講演など 今後課題を深める

⑤大分県：（野津高校 南先生）報告

- *研究部会あり。

H16は九州・沖縄大会（大分）の午前中に実施した。校長会・主任会と総会 年1回開催
H16年度から、研修会も計画。

- *介護福祉士の講習会実施について 養成校から高校の教員は指導者になるつもりはないか？との
連絡あり。高校の先生方も入ってもいいのではないか。他県はどうか？

⑥宮崎県：（日南農林高校 三宅先生）報告

- *研究部会について H14 部会設立に向けて準備委員会

H15 高等学校教育研究会福祉部会設立

H15 事業内容、研究協議会、加盟校の紹介 等会誌70冊を製作し部会員・関係機関に配布

H16 4月 加盟案内 学校負担金の案内発送 33名の加入 30万円程の予算でスタート
(会費：個人3000円、学校負担金一校1万円、産業教育振興会より5万円、県から1万円)

5月 第1回役員会： H16年事業案内 予算案 各校（県立4校、私学2校）現状報告
訪問介護1級について 実技講習2次について（要望書の素案）

7月 第2回役員会： 総会に向けて、産業フェアについて

8月 総会・研究協議会：（会員全員出席）

講演「施設長」、研究協議「社会福祉基礎」の効果的な授業についての検討会

9月 福祉系生徒学習会：5校 24名の生徒の参加

ワークショップ、壁新聞やプロジェクトの発表、講演「ボランティアについて」

<県ボランティア協会より> 新聞取材があり新聞記事となりPRになった

- *発足して2年目、高校間の連絡も密に出来ている。全ての行事に指導主事の参加、助言がある。

⑦鹿児島県：（宮乃城農業高校 有里先生）報告

- *加盟校11校、介護福祉士国家試験 合格率 <私学90%、県立75%>

*研究部会 県内県立高校での立ち上げ計画は 立ち消えになっている。

*県立は「衛生看護科 + 家庭」が主・福祉、しかし 採用試験あり新しい風があるだろう

高校生の就職の問題：夏にボランティア参加し 高校生の姿を施設側に見てもらい、いい点を認めてもらったので就職ややよい。

今後は、鹿児島県内で 横の連絡網を整えていきたい。

⑧沖縄：（中部農林高校 宮里校長）報告

*加盟校2校。教科「福祉」実施校へ加入の呼びかけをしている。

研究会発足に向け、お世話係りは中部農林で設立委員会開催予定。

11月に産業教育フェア

10月28日(木)

13:55 ~ 14:25

徳島県教育会館 大ホール

アトラクション

小松島西高等学校の生徒さんによる阿波踊り



校長会総会・研究協議会 28日(木) 14:50~16:45 徳島県教育会館 小ホール
[総会]

司会進行：長野県立上田千曲高等学校 校長 飯島彦太郎
記録：愛媛県立新居浜南高等学校 教諭 藤田優子
徳島県立阿波西高等学校 教諭 田上佳美

- 1 開会のことば 岐阜県立坂下高等学校 校長 佐々木 信 雄
- 2 会長あいさつ 全国福祉科高等学校長会 会長 木村 行 幸
- 3 議長選出
- 4 議 事

- ① 平成15年度事業報告
- ② 平成15年度会計決算報告
- ③ 平成16年度事業計画(案)
- ④ 平成16年度会計予算(案)(予備費削減)
- ⑤ 平成16年度役員
- ⑥ 表彰規定・・・次のように規定する
 - (1) 全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会に所属した者。
 - (2) 福祉科高等学校長会会長。
 - (3) 福祉教育の発展に功績顕著であった者であり、理事会で審議する。
- ⑦ 会長の選出方法
 - (1) 福祉科高等学校長会の発展を図り、福祉科高等学校長会会長及び事務局の仕事を公平に分担する。
 - (2) ブロックで持ち回りとする。
 - (3) 北海道・東北ブロックより、番号順で選出する。
 - (4) 副会長は関東地区より選出する。

—本規定は平成16年10月28日より施行—

	1	2	3	4	5
ブロック	北海道・東北	関東・北信越	東海・近畿	中国・四国	九州・沖縄

- ⑧ その他

5 報告・連絡

- ① 加盟校数・・・210校
- ② 「介護福祉士」の待遇改善要望について
「労働の内容に対して賃金が安いのでは」という意見に対して「要望は作成しているが、まだ未提出である。社会の現状を見ながら提出時期については考えていきたい。」
- ③ 「介護福祉士試験のあり方等介護福祉士の質の向上に関する検討会報告書」について
大切なのは、今後どのような教育をしていくかである。十分な実績を残していくためにも、各校ができる範囲で協力していく必要がある。
- ④ 「介護保険制度の見直しに関する意見」について
厚生労働省の考えがなるべく早く現場に伝わるようにする必要がある。
- ⑤ 「介護福祉士の資格を有する高等学校卒業者について」アンケート結果について

⑤ 「介護福祉士の資格を有する高等学校卒業生について」アンケート結果について
置戸高校 奥寺先生より報告

6月、厚生労働省から介護福祉士の養成の在り方について文書が送付され、全国9ブロック（3校/ブロック）それぞれ施設を選び次の項目についてアンケートを実施。

- (1) 在学中につけさせたい能力・技術にはどのようなものがあるか
- (2) 高等学校福祉科に何を求めるか

(1) についてはすべて記述式であり、次のような回答が得られた。

心の育成に関すること

- ・人間を尊敬する気持ち
- ・豊かな感性
- ・介護させていただいているという気持ち

介護職として

- ・介護の基礎的・基本的な知識・技術（60%の施設が回答）
- ・ケアプランの作成
- ・コミュニケーション能力
- ・観察力・豊かな感性
- ・守秘義務

社会人として

- ・礼儀作法
- ・言葉遣い
- ・遅刻をしない
- ・人間関係の構築を大切に（報告・連絡・相談）

その他

- ・調理・洗濯などの家事援助

(2) に関しては次の5点について意見が多かった。

- ・福祉職に必要な豊かな人間性・福祉に対する心構え
- ・社会人としての接遇マナー
- ・実習期間をもっと長くしてほしい
- ・キャリアアップに向けた教育
- ・ボランティア活動などの体験をしてほしい

⑥ 「研修案内」・・・松戸矢切高校のホームページ参照

⑦ その他

質) 青森県 高橋先生より福祉科の独立について

答) 独立については棚上げとは言ったが、当面さしあたっている問題について順次対応していきたい。家庭部会との関係について「福祉」「家庭」のすみ分けについて対立するのではなく、組織として話し合いをしていく必要がある。互いに協力しあいながら進めていく中で、「独立」を考えていくことができればよいのではないかと。対峙するようなことは避けたいし、普通科の校長先生にも入っていただきたい。

質) アンケート調査の結果の開示について

答) 諸事情により、口頭のみで願います。

6 閉会のことば 奈良県立榛原高等学校 校長 鈴木 信 隆

[研究協議会]

指導助言：文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢 幅 清 司

司会進行：青森東奥学園高等学校 校長 高 橋 福太郎

記 録：愛媛県立新居浜南高等学校 教諭 藤 田 優 子
徳島県立阿波西高等学校 教諭 田 上 佳 美

- ① 第16回介護福祉士国家試験の結果について
- ② 介護福祉士試験について
- ③ 今後の高校教育の在り方について
- ④ その他

研究協議会は、時間の関係もあり、矢幅調査官からの指導助言という形で進められた。

① 第16回介護福祉士国家試験の結果について

第16回介護福祉士国家試験の高校生の平均合格率は、全国平均より3%ほど高く、この状態はここ数年続いている。これからは、その中身が伴っているかどうかということが求められる。国家試験合格後、施設には就職したが実際にはできないという高校生では困る。合格率を維持する、あげるという努力に加え、国家試験に合格して働いた際に、本当に技術が身についているかということは今後は重視していかなければならない。厚生労働省の方から合格率だけよくても実際中身のない人間では困ると言われている。それは、合格率を下げてもいいと言っているのではない。合格率を維持しつつ、人間性のあるコミュニケーションのとれる人材育成をして欲しいということである。各学校での実践につなげていただければと思う。今回合格率100%を達成している学校が4校ある。愛媛県の北条高等学校、香川県の三木高等学校、神奈川県の子侯川看護福祉高校、宮城県の迫桜高校である。その他にも、90%代が5校、80%以上も10校ほどある。上位の学校はかなり頑張っている。逆に、0%の学校もある。手元にある資料では、0%の学校が4校ある。先程、合格率だけではないと言ったが、国家試験受験資格を看板に掲げている学校は、それなりに手当をしていかないと今後生徒を集めることはできないであろうし、教育内容等に問題ありと言われかねない。この0%の4校の中には3年間連続して受けて0%という学校がある。その点も含めてよろしくお願ひしたい。

昨年2月から3月にかけて受験状況の調査をしたが、校長会加盟校でありながら、協力をいただけない学校があった。これでは調査の信用性がなくなってしまう。申し訳ないが、調査への協力を願ひたい。

国家試験については、今後評価の観点が変わってくるはずである。今年は介護実技講習会がなく、通常の方法での実施となるが、来年度からは介護実技講習会を受けるグループ、受けずに実技試験をとるグループ、実技講習会をしつつ修了が認められなかったため実技試験を受けるグループといったようにいろいろなパターンが出てくる。そのため指導がしにくくなる。また、実際の実技試験を受ける受験者は半減、いやおそらく8割方が講習会の方へ流れるという計算をしている。残った2割の生徒が実技試験を受けた場合、評価は変えないと言いつつも、じっくり見られる可能性はある。そういう点で指導を徹底していかなければならない。

② 介護福祉士試験について

現在のところ国家試験の受験資格、高校福祉科としての問題に関しては、もとのさやに収まったというふうに押さえておいて欲しい。今後数年間、厚生労働省は高校福祉科を見ていく。データ収集をして本当に受験資格を付与していいのかどうかを検討していく。どこかの学校で手を抜いて時間数を減らしたり、実習をしないているなどということがあったとしたら、そこを突破口に高校福祉科受験資格は認めないということになってくる可能性がある。その時にはもうもとのさやには戻らない。今回はみなさん方のご協力によって要望書等がかなりの数出され、各教育委員会、そして各県議会を通して出そうという気運が高まっていたことと、いろいろな力をお願いしておさめていただいた形になっている。ただ、同じ事を繰り返すことはできない。今の数値を維持していくとともに、教育内容を充実させていかなければならない。後ろ指をさされるような福祉科であると困る。現在、制度上はおさまっているの、後は教育の充実あるのみということでお伝えいただきたい。

③ 今後の高校教育の在り方について

介護福祉士を受けられる学校は今後そんなに増えはしない。今、174校で、来年度開設という話も数校聞いている。2、3年後には200校近くにはなろうかと思う。ただ、専門学校がつぶれたり定員割れをしてきているという状況からして、高校福祉科を作ったから人が集まるという時代ではなくなってきている。きちんと進路達成をしていかない学校は、福祉という名前をつけたとしても人が集まらないという時代に入ってきている。校長先生方は学校をどうしていこうかという視点があるかと思うが、もう一つ広く考え、各県に適正な学校数はいくつかということを考えて上で進めていって欲しい。同じ通学圏内にせめて一校あれば十分ではないかと思う。介護員、ヘルパーをという場合に、この学校もこの学校もこの学校もとれるよというのであれば特徴でも何でもない。今後実施なさる場合には、近隣を考えた上で資格等を付与していかなければならない。訪問介護員1級を無理してとらせた、でもそれを持って就職はほとんどできない、ではなぜさせるのかということになってくる。このようなことをふまえた上で整理をお願いしたい。

今後の在り方の中で一番大切なのは教員の研修だと考えている。大学で福祉を学び、きちんとした福祉の免許を持って採用された人はまだごく少数である。今は、家庭の先生、看護の先生、公民の先生に福祉の免許をとっていただき一生懸命応援はしていただいているが、5年、10年たち、純粋な福祉の免許を持った方たちが中心になるまでは今の方々に今後とも応援していただかなければならない。新たな方々の研修を進めていく意味で、例えば今年度校長会のヨーロッパ研修があった。文部科学省としても研修等があるのでそういうものを活用していただければありがたい。

④ その他

先生方は自分の学校が福祉科なのか、家庭科なのか、もしくは看護科なのか知っておられるか。学校基本調査というものがあるが、昨年度から福祉に関する学科という項目が設けられた。今年度、福祉に関する学科ということで県がきちんと申請してきている学校は61校である。今一度、自分の学校が福祉に関する学科なのか、違うの学科なのかを見ていただければありがたい。それによっては、補助金は出づらくなっているが地方交付税の中に福祉に関する学科であればプラスアルファするという部分もあるので、県全体としては若干潤うのではないかと思う。それをきちんと配分していただき、施設・設備等の充実に使っていくことができればと思っている。

また、厚生労働省としては1単位時間50分の授業を35回(週)しなければならないという規定がある。今は60分授業や90分授業、また45分授業というところもある。45

分授業の学校では、50(分)×35(週)の1750分間を確保しなければならないので、45分の授業を実施する場合には39週しなければならないはずである。カリキュラム上、県に申請した段階でチェックされるはずだが、45分授業にしたにも関わらず35週で実施したとすれば、単位は足りるが時間数が足りないので受験資格はないと言われかねない。そういう点で、カリキュラムに関してはきちんとしていただきたい。50分であれば35週、45分であれば39週きちんと指導していると厚生労働省は認識している。一致団結していく部分と、だめなものを合わせるのではなく基準を満たさない学校があれば基準を満たすよう指導していく、そのための校長会ではないかと思っている。以上の点をよろしく願いたい。



分科会(1)

現場実習

「現場実習の現状と課題」

群馬県立新田暁高等学校 教諭 大澤 瑞 穂
教諭 摩 庭 宏 美

1 本校の概要

本校は、平成8年度に県内初の総合学科として校名を新田暁高校に改称し、スタートした。本校の総合学科は、旧新田高校時代の普通科、食品工業科、電子機械科、電子科を基にして、さらに商業分野、福祉分野を取り入れ、改編創設されたもので、人文科学、自然科学、情報サービス、福祉サービス、食文化、機械技術、電子技術の7つの系列を設けている。1学年5学級の男女共学の200名定員であるが、年々女子が増加し、現在はほぼ半々の男女比率である。また、総合学科の特色を発揮するための単位制と二学期制を採用している。

本校のある新田町は、面積38.22km²（東西6.6km、南北9.2km）、人口30,573人、9,722世帯、産業別就業人口は総数15,976人、第1次産業1,810人（11.3%）、第2次産業7,342人（46.0%）、第3次産業6,819人（42.7%）の町で、今年度の一般会計予算額は、（町税の割合）9,462,000千円（47.6%）となっている。町内には工業団地、住宅団地のほか、体育施設、文化施設もある。また、教育施設として幼稚園、保育所、小学校、中学校がそれぞれ3校ずつ存在するが、高等学校については本校が唯一となっている。このような条件を背景に学科改編以来、40校にもものぼる出身中学と20以上の市町村という地域から生徒は通学してきている。遠距離からの通学にもかかわらず、公共交通機関が不便なこともあり、ほとんどの生徒は自転車通学である。このような広範囲における通学地域からの生徒をかかえる状況は、地元志向の強い進路選択と、現場実習依頼に大変影響を与えている。

実際の進路については就職、進学がほぼ半々で、ともに群馬県内で特に自宅からの通勤、通学可能地域に集中している状況である。就職は県内においても他地域より比較的明るい状況であり、厳しい中でも安定していると考えられる。進学については、8割は専門学校、短大で、残り2割が大学となっている。系列で学んだことを中心に幅広い進路選択が行われている。

本校における「系列」とは進路や学習の方向性を示すとともに、学習の中核となる科目のブロックであり、いわゆる学科やコースとは異なる。系列による科目の履修は、1学年の後期から開始されるが、必修科目が設けられていないため、系列の基礎科目を中心とした幅広い自由選択から時間割を決定している。次年度の選択履修については前年度の夏期休業以前から取り組み、ガイダンスや講座の増減を繰り返し、生徒個々の時間割と教職員の時間割を決定している状況である。

2 福祉サービス系列の概要

福祉サービス系列は先に述べたように、平成8年度よりスタートした。社会福祉の理念と意義を理解し、積極的に社会福祉に貢献できる態度を養うことを目標に、社会福祉に関する制度やサービス、介護についての基本的知識や技術を身に付けられる科目を設けている。当初より、現場で活躍される社会福祉専門職の方やパラリンピック選手など多くの社会人講師による講義、実習を授業に取り入れ、地域の福祉の実際

を体得できるよう指導してきた。

訪問介護員養成研修については、平成9年度より実施しているが、現在は3年次に2級課程のみ受講できるシステムとなっている。福祉サービス系列を希望して入学してくる生徒は数多く、毎年30～50名程度が本系列で学習している。訪問介護員養成研修の受講についても希望者は多いが、研修に至るまでに諦めたり、研修を修了できない生徒もいる。これまでの実績は以下の通りである。

生徒の卒業後の進路は介護系短大・専門学校への進学が一番多く、保育系短大・専門学校、福祉系4大、看護学校への進学と続いている。福祉関係での就職を希望するものも毎年必ずいるが、実際求人少なく、数名しか希望が叶わない状況である。

○ 訪問介護員養成研修修了者数

	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15
3 級 課 程	17	27	24	31	34	19	27
2 級 課 程	—	—	20	11	16	25	13

○ 履修 ～介護福祉士養成学校への進学を希望するA子の例～

単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
1 年 次	国語総合		数学Ⅰ			体 育		保 健		英 語 Ⅰ			家 庭 総 合		情 報 B		産 業 社 会 と 人 間		系列基礎 科目		社会福 祉基礎		地歴選択 A		理科選択 理 科 合 計 B		芸術選択 音 楽 Ⅰ		L H R			
2 年 次	世 界 史 A		体 育		保 健		家 庭 総 合		理科選択 生 物 Ⅰ		国 語 現 代 Ⅰ		数 学 Ⅰ		総 合 英 語		家 庭 看 護 福 祉		栄 養		社会福 祉制度		社会福 祉援助 技術Ⅰ		社会福 祉実 習Ⅰ		選 択 科 目		綜 合 的 な 学 習		L H R	
3 年 次	現 代 社 会		体 育		小論文		国語表現Ⅱ		数学A		ライティング		フー ド デ ザ イン		発 達 と 保 育		基 礎 看 護		基 礎 介 護		社会福 祉実 習Ⅱ		課 題 研 究 総 合		福 祉		L H R					

○ 平成15年度卒業生の進路

進学	4 年 制 大 学	福祉系	2
	"	その他	0
	短 期 大 学	福祉系	7
	"	その他	1
	専 修 ・ 各 種 学 校	福祉系	7
	"	その他	8 (人)
就職	福 祉 関 係		2
	そ の 他	老人保健施設	5 (人)

3 現場実習の現状

(1) 3年間スケジュール

昨年度までは訪問介護員養成研修の現場実習として、2年次に3級課程でデイサービスセンター見学1日間、ヘルパー同行1日間、3年次に2級課程で介護実習2日間、ヘルパー同行2日間を行い、他に夏季休業中の福祉施設ボランティアを推奨してきた。しかし、平成15年度入学生より2級課程のみの実施となり、以下に示すような取り組みで現場実習の準備を行っている。なお、ボランティアについては、夏季休業中に2年生はデイサービスセンター、3年生は特別養護老人ホーム中心に4日間以上ということで、それぞれが自分の進路を考えて、デイサービスセンター、特別養護老人ホームをはじめ、老人保健施設、グループホーム、身体障害者療護施設、知的障害児キャンプ、学童保育などに出向き、中には泊まりがけで参加してきたものもいた。

	前	期	後	期								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	産業社会と人間											
	企業見学 系列体験 上級学校見学			施設見学			上級学校見学					
2年次	ボランティア準備						ボランティア			ボランティア報告		
	ボランティア保険加入						3年次時間割作成					
3年次	訪問介護員養成研修(2級課程)											
	ボランティア			実習日程決定			実習事務指導			実習		
	実習保険加入						実習事務指導					
												修了証交付

(2) 現場実習受入施設と人数

○ 平成16年度(2級課程)

特別養護老人ホーム

- A (新田町) 8名
- B (太田市) 4名
- C (太田市) 1名
- D (伊勢崎市) 3名
- E (伊勢崎市) 2名
- F (笠懸町) 2名
- G (東村) 2名

老人保健施設

- H (太田市) 2名

訪問介護事業所

- a (新田町) 7名
- b (新田町) 2名
- c (太田市) 4名
- d (太田市) 1名
- e (伊勢崎市) 3名
- f (笠懸町) 2名

伊勢崎市社会福祉協議会 2名

東村社会福祉協議会 2名

大泉町社会福祉協議会 1名



(3) 実習先からのコメントより

実習先からいただくコメントは大いに参考になり、指導内容や方法の貴重な資料として使わせていただいている。実習後に実習評価表や実習日誌のコメントから指導内容と方法の見直しをしているが、まだまだ足りず、毎年必ずはっとさせられる指摘に出くわす。次にこれまでの例をいくつかあげてみる。

- ヘルパー同行で利用者の部屋の中をじろじろ見て、利用者からクレームが付いた。
- 休憩時間に寮母の仮眠室で携帯電話を使用した。
- 職員の指示・説明に対し、“そんなことは知っています。”という態度をとった。
- 意欲が全く感じられず、自分から動くことがなかった。
- 着脱の際、他の実習生が困っている様子を見て笑った。
 - すぐに職員が実習先に出向き、お詫びをするとともに詳しい説明をいただいた。
 - 該当生徒に対しては個別指導を行った。

○欠席・遅刻・忘れ物があった

- 1年次の系列選択の際よりボランティアや実習の説明を詳しくする。
- ボランティア・実習に行く際には必ず自分で持ち物などの確認をさせる。

○服装・態度が適切でない

- 1年次より系列すべての授業で毎時間服装チェック、成績への反映
- 実習前テスト・実技
 - ・基本用語
 - ・服装・挨拶
- 実習先の訪問介護員の方を社会人講師として招き、実習前指導をしてもらう

前述のような対策をとり、欠席・遅刻・忘れ物や服装についてはかなり改善されたが、昨年度は、積極性や意欲に欠けるという指摘を多くいただいた。そういうコメントをもらった生徒はやはり評価が低く、反対に積極的に動き、利用者とのコミュニケーションの取れた生徒は評価が高い傾向があった。以下に昨年度のコメントから反省点と良かった点をいくつかあげておく。

反省点

- 自分から進んで話しをしてください。
- 積極的な声かけや行動が欲しかった。
- 目上の人と話すときの言葉遣いを覚えてください。
- 実習に対する意欲や積極性が感じられなかった。
- 一声かけてから介助を行うようにしてください。
- 言われたことはできるが質問がでない。

良かった点

- 朝の挨拶からさわやかで何と言っても笑顔が良かった
- 明るく素直に頑張る姿が見られた

- 見学に終わることなくすすんで援助に取り組んでいた
- 身体介護でよく観察をしていた
- 利用者とのコミュニケーションがしっかりとれていた
- 「頑張って資格を取ろうと思います」と意気込みが感じられた
- 「次に行く人はどんなひとですか」と質問があり一生懸命やろうという姿勢が感じられた
- 自分からわからないことを尋ねられた（意欲もあり理解しようという気持ちを感じられた）
- 髪をしっかりと束ねてあった

(4) 生徒の取り組み ～現場実習の感想より～

- 着脱の仕方を改めて教わってみて、学校でも実技指導を受けていたのですが、“利用者”の方が実際の前にいらっしやることで、「相手の立場に立って」と思うことができ、とても勉強になりました。（2年女子：デイサービス）
- 食事介助では、学校の実習とは全然違い、戸惑い・緊張もありました。何より声かけが大切だなと感じました。はじめは声かけを忘れてしまい、職員の方に言われて気づきました。声かけは何をするにも一番大切なことです。このことを忘れずこれからも頑張っていきたいと思います。（2年女子：デイサービス）
- 現場実習に行く前は、利用者の方は元気がなく、ほとんど何もできない状態だとばかり思っていました。実際に行ってみると自分のイメージとは全く違い、皆明るく元気な方でした。寝たきりの方でもヘルパーさんの言うとおりに動いてくれたり、できることは自分でやったり、すごいなと驚かされました。（2年女子：ヘルパー同行）
- おむつ交換を見学していて、1つ1つヘルパーさんが声かけをされていて、その声かけが一番大事だと思いました。買い物をしていくにも値段や種類を1つ1つ伝えていて利用者さんを困らせていなかった。調理では一軒一軒違うものを作っていた。話しかけでは、その中で健康状態を聞いていて無駄がないと思った。（2年男子：ヘルパー同行）
- 3級でできることは限られているので、2級を受講してもっといろいろなことをしたい。元気な挨拶、気分のいい笑顔で相手のことを考えて実習していきたいと思う。（2年女子：ヘルパー同行）

(5) 現在の問題点

- 実習受入先の確保が困難に

介護保険導入あたりから、特に訪問介護員同行訪問の実習先確保が困難になってきている。理由は、常勤ヘルパーが少ないこと、利用者からのクレームが多くなったこと、訪問介護員養成研修を行う事業所が増えたことなどであるが、実際、長年お願いして来た事業所からも断られるようになり、大変困っている。今年度は研修開始直前になって地元の社会福祉協議会から7名分の実習を断られ、一時は研修実施が危ぶまれる事態であったが、幸い快く引き受けて下さる事業所が見つかり、何とか研修開始に間に合った。今後も実習先の確保については同様の困難が予想され、これが現在の一番の問題である。

4 お わ り に

夏休み明け、グループホームに4日間ボランティアに行ってきた2年生の男子生徒が「先生、行ってきたよ。」と満面の笑みで話しかけてきた。渋々ボランティアを決めてきた夏休み前とはうって変わった様子でグループホームでのできごとを話してくる。「お腹や首の皮の下もよく洗うように言われたんだ。女の人で僕らを嫌がる人もいたよ。」授業中ほとんど発言のなかった大人しい生徒の口から次から次へと言葉が流れる。「行って良かった。」

現場実習先で生徒は必ず何かを得てくる。職員の方の技術や心配り、利用者の方とのふれあいや背負われている様々な事情、授業では到底学べないことを体得できるという点で現場での実習は大きな意義があると考えられる。

諸事情で訪問介護員養成研修は存続できないかもしれないが、研修が廃止されても何らかの形で生徒を現場に出したいと考えている。そして、現場での実習を少しでも有効にするために、生徒の知識・実技力向上と職員のスキルアップ、地域や実習施設との連携を怠らず、行っていきたいと考えている。

分科会(1)

資格取得

「心豊かな介護福祉士を目指して」

岐阜県立大垣桜高等学校 教諭 渡辺 美智子

1 学校の概要

本校は昭和22年に、岐阜県立大垣桜高等学校の前身である岐阜県立大垣女子高等学校として創設された。昭和38年に「家庭に関する学科」の単独校として家庭科4学級が設置された。その後昭和47年に服飾デザイン科、昭和52年に食物科、平成4年に生活文化科が設置された。平成6年に、我が国の急速な高齢社会の到来や地域の福祉ニーズの要望に応え、生活文化科の「看護福祉類型」を拡大し「福祉科」を設置し、平成7年に大垣桜高等学校と校名を変更し、男女共学とした。現在では、各学年が服飾デザイン科2クラス、食物科1クラス、生活文化科2クラス、福祉科1クラスからなり、全校生徒は707名（男子15名、女子692名）である。

福祉科は設置されて11年目を迎え、平成16年3月で卒業生が311名となった。卒業生は介護福祉士として、また、進学してさらに社会福祉士、精神保健福祉士などの資格を取得し、地域の社会福祉施設や社会福祉協議会などで大いに活躍している。

2 福祉科の目標

- (1) 社会福祉の理念を通して人間尊重と自立を理解させ、心豊かな人間教育を目指す。
- (2) 社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、少子・高齢社会の福祉ニーズを支える人材を育成する。
- (3) 将来の福祉マンパワーとして、自己実現と自己発見に努める主体的な態度を育成する。
- (4) 「介護福祉士」の資格取得と「訪問介護員養成研修1・2級課程」の修了を目指し、自ら学ぶ意欲を高める。

3 生徒の実態と資格取得に対する現状

(1) 生徒の実態

- ① 入学してくる生徒は、高齢者の介護や社会福祉に対する思いが強く、介護福祉士や社会福祉士など福祉専門職に就いて福祉社会に貢献し、これからの高齢社会を支えたいという意欲が非常に強い。
- ② 生徒は、異年齢の人と会話をする機会が少なく、介護において信頼関係を築く土台である「コミュニケーション」の力が減少している。
- ③ 日常生活におけるあいさつや礼儀、社会生活におけるマナーやルールなどが、人間関係の構築に非常に大切な意味をもつことを自覚していない。

(2) 資格取得に対する現状

- ① 介護福祉士に対して、より専門的な資質が求められている。それは、確かな知識や技術と心豊かな人間性であると思われる。
- ② 介護福祉士国家試験の合格率の中で、特に2次試験（実技）の合格率が不安定である。

4 生徒の実態と資格取得につなげる指導

(1) 教育課程（普通科目・専門科目）

生徒の進路希望と「社会福祉士及び介護福祉士法施行規則」の福祉規定科目履修を鑑みカリキュラムを編成している。

1年

国語総合，現代社会，数Ⅰ，理科総合A，体育，保健，オーラルコミュニケーション，家庭総合	社会福祉基礎，基礎介護，福祉情報処理，看護基礎医学
---	---------------------------

2年

現代文，日本史or地理，数Ⅰ，化学Ⅰor生物Ⅰ，体育，保健，音楽Ⅰ，英語Ⅰ	社会福祉基礎，社会福祉援助技術基礎介護，社会福祉実習，看護基礎医学
---------------------------------------	-----------------------------------

3年

現代文，世界史，数A，化学Ⅰor生物Ⅰ，体育，英Ⅰ，選択（音Ⅱ，美Ⅰ，ライティング）	社会福祉制度，社会福祉援助技術基礎介護，社会福祉実習，社会福祉演習
--	-----------------------------------

(2) 福祉社会から求められる，心豊かな人間性をもつ福祉マンパワー育成の指導について

① 生徒指導

- ア 基本的な生活習慣，授業規律，言葉遣いなどの徹底した指導体制
- イ 豊かな心と福祉観の育成を土台とした生徒指導と教育相談
- ウ お互いの個性を尊重し合うクラス経営の推進

② 学習内容の体系化

- ア 基礎・基本を踏まえ，1・2・3年と段階を追って学習できる指導内容
- イ 学校行事と学習内容の関連（手話ミュージカル・養護学校・聾学校・地域との連携）
- ウ 福祉の現場に必要な知識と技術を専門職から学ぶ機会の設定（学校長自主プラン）
- エ 作文，小論文コンクールなどへの挑戦

③ 進路指導

- ア 福祉に関する視野を広げ，自分の将来の具現化を目指した，社会福祉実習，ボランティア活動，ワークキャンプ，日本赤十字活動の推進
- イ 資格取得を生かし，一人ひとりの個性に合わせた進路指導の推進

④ 指導見解の統一

- ア 教員間の連携と情報の共有
- イ 「人づくり」を心がけた福祉教育の推進

⑤ 施設設備の充実

5 資格取得と進路状況

(1) 資格取得

① 福祉関係

- ア 介護福祉士国家試験受験資格……卒業次
- イ 訪問介護員1級課程修了………3年次
- ウ 訪問介護員2級課程修了………2年次

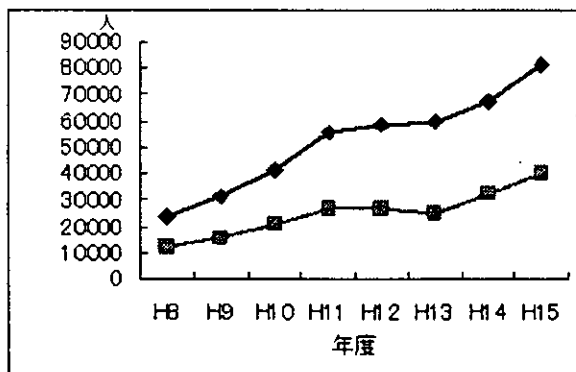
② その他の検定……ワープロ検定，漢字検定，英語検定（希望者1～3年次）

(2) 介護福祉士国家試験結果

◇ 1次試験に比べ2次試験の不合格者が多い。

年度	H 8	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15
受験者数(人)	36	39	37	40	39	38	41	39
1次合格者	32	35	36	34	38	37	40	38
2次合格者	29	28	35	28	31	36	37	33
合格率(%)	81	72	95	70	80	95	90	85
全国平均(%)	50.7	50.1	50.2	48.3	45.9	41.4	48.0	49.3

受験者数と
合格者数の推移
(全国)



(3) 訪問介護員養成研修の修了

2年次で2級課程を修了し、2級課程を修了した者を対象に1級課程の研修を実施している。また、岐阜県の訪問介護員実施要項に従った研修対応表に定める研修科目を履修し、単位を習得したものに対して研修の修了を認めている。それぞれの課程を履修した生徒については、全員修了できるように指導している。

(4) 就職・進学状況

最近の進学希望者の傾向は、介護福祉士を取得し、さらに理学療法士、作業療法士、看護師などの専門資格をとるために進学する生徒の割合が増えている。進学して福祉施設で働いている卒業生は、介護と医療の両方を学んで働くことに誇りをもっている。就職希望者は福祉施設希望が100%で、介護福祉士取得が求人条件である。

進路状況

年度		H 11	H 12	H 13	H 14	H 15
進 学	4 大	6	6	7	4	7
	短 大	5	4	6	6	4
	専門学校	10	9	6	9	14
就 職		17	20	18	22	14
家事手伝い		2	0	1	0	0
合計人数		40	39	38	41	39

本校求人倍率	H 13	H 14	H 15	H 16
福祉関係(8月末)	3.0	2.0	4.2	2.9

6 資格取得を目指した指導のまとめと今後の課題

本校の福祉科に入学してくる生徒は、介護福祉士になりたい、福祉社会に役立ちたいという希望を持っている。しかし、今の生徒に介護福祉士の資格を取得させるためには、知識・技術の習得だけにとどまらず、社会で通用する生活習慣や常識などを身に付け、それらを土台として心豊かな介護福祉士としての資質を磨く必要性を強く感じる。そのような資質のある生徒を育成するためには、福祉教育の目的やねらいを十分検討し、福祉を専門に学ぶ高校生に必要な福祉教育とは何かを研究する必要があると考える。福祉を担う心構えや態度を育てるためには、教員自らの資質の向上のために研修に努めると共に、今以上にきめ細かい指導を行い、一貫した指導体制の下、生徒の自己実現のために援助をしていかなければならない。「人づくり」こそが介護福祉士の資格取得につながると考える。

また、「介護福祉士」国家試験2次試験方法の変更について、生徒や親は、受験の機会が増えるという意識を持っている。講習会については不明な点が多い現状であり、8月に実施される講習会に向けて、高等学校の指導計画の見直しをしていかなければならない。さらに、心配する点は、生徒が福祉従事者として人間的に求められる水準まで到達できるかである。従来の実技試験日より7か月も早く実技講習会修了認定試験が実施されるため、修了認定の資質水準に到達しないまま実技講習会を受け不合格になり、もう一度従来の2次試験を受けなければならなくなることを危惧するところである。

夢と希望を抱き福祉科に入学してきた生徒の進路を実現するために、あらゆる教育の機会を捉えるとともに、教師の情熱とパワーで日本の高齢社会の福祉ニーズを支える人材、「心豊かな介護福祉士」を育成していきたい。



(福祉科の生徒たち)



(着脱の介助・声かけ)

10月28日（木）

14：40～16：45

徳島県教育会館

大ホール

学科主任等研究協議会 分科会 1

1 現場実習

「現場実習の現状と課題」



2 資格取得

「心豊かな介護福祉士をめざして」

司会進行	長野県立上田千曲高等学校	教諭	小林 逸元
	大分県立野津高等学校	教諭	南 富美子
記録	愛媛県立北条高等学校	教諭	矢野 礼子
	愛媛松山城南高等学校	教諭	中田千栄子

質疑応答

- 司会 : 実習先を見つけるのが難しいという発表があったが、何か工夫されていることとか、施設または社会福祉協議会からのアドバイスとか苦情があれば教えていただきたい。
- Q : 実習は、授業時間帯の中で実施しているか、どのような体制で行っているのか教えていただきたい。(紀南)
- A : 数人ずつ夏季休暇中に行っている。最近はお願ひする立場なので、施設から指定された日に行かせている。土曜日、日曜日、祭日、夏期休暇中とさまざまである。(新田暁)
- Q : 年によって授業中に行ったり、授業がとんだりできなかつたりするのか。(紀南)
- A : そうなる。補講することもあるが、抜けることもある。(新田暁)
- Q : 教員が大変になってくると思うが、何か対策はないか。(紀南)
- A : 1～6限までを福祉の授業に組んで行かせるという方法があるが、時間割を組むのが大変なのでそこまでやれていない。(新田暁)
- 司会 : 実習施設を使うこと、実習の時間割などこのようにしているという学校があれ

ば聞かせてほしい。

- Q : 実習期間内に発熱などで欠席した場合、現場実習はどうしているのか。
(中部農林)
- A : 別の日に行かせている。
(新田暁)
- Q : それでも行けないことがあったか。
(中部農林)
- A : なかった。
(新田暁)
- Q : 3年生の実習はいつもこの時期—12月になるのか。雪が降ったり、生徒もお年寄りもインフルエンザになったりすることがある。このことで不都合はないか。
(上田千曲)
- A : 訪問介護員養成研修は4月から5月からはじまり終了は1月になる。研修の最後に実習を入れるよう指導があった。
カゼのことについては、11月までには実習をしてほしいという施設がある。生徒には健康に気をつけるよう指導している。もし、健康状態が悪かったら実習日をずらして対応している。
(新田暁)
- 司会 : 都道府県によって研修のありかたに違いがあるようだ。

大垣桜高校の発表

質疑応答

- Q : 言葉遣いの徹底指導は、どのようにしているのか。発表の中で、「言いつ放しの言葉は使わない」と言われた。それは具体的にはどのようにしているのですか
(真岡北稜)
- A : たとえば、生徒が先生に対して「お仕事中よろしいですか。」の表現が使えるように日頃から指導している。出来るまで正しく言い直させる。また、会話中はかならず正面を向い話すように細かい指導を徹底的にするとよい。指導者も授業の展開で丁寧なことばを使い、生徒を呼び捨てにしないよう気をつけている。
(大垣桜)
- Q : 手話ミュージカルについて。指導にどのくらいかかったか。
(真岡北稜)
- A : 手話を習った教員が広めたのがきっかけである。講師を呼び、生徒自ら取り組んでいる。教員が手話ができなくても地域には指導できる人がたくさんいるのですべて教員が指導しなくても地域にお願いしている。その中でかかわれる部分はかかわっていくのでよいのではないか。
(大垣桜)
- Q : 資格取得について、発表にある以外に取得させたものはないか。例えば住環境コーディネーターなど。
(吾妻)
- A : 将来的には、福祉全般の資格を考えなければいけない。生活文化科で、住環境コーディネーターを取得させている。個人的にはこれだけでいきたい。将来のことは不明である。
(大垣桜)
- Q : 生活文化科のことについて。
(吾妻)
- A : 着物の着付けの資格もとれる。他の資格取得も取得できるようにしている。
(大垣桜)
- Q : 教育相談について、個々の生徒に接するときのカウンセリングマニュアルはあるのか。
(松戸矢切)
- A : カウンセリングマニュアルは特にないが、中学時代にいじめに合った生徒が自

- 分の気持ちを出すときがあるので、その時のタイミングを見逃さないようにしてかかわっている。そのためにも日頃からの教育相談が大切である。(大垣桜)
- Q : 今後の課題として、国家試験の実技試験の変更に伴い、大垣桜高校は講習を受けるか、従来の2次試験受験でいくか、その点についてはどうか。(松戸矢切)
- A : 保護者のアンケートでは、講習会の費用を出してもよいという回答がある。学校としての結論は出ていない。(大垣桜)
- Q : 3年生が就職目前で、福祉の道を断念した生徒がおり、指導に行き詰っているこのような場合の指導について聞きたい。(今治明德)
- A : 生徒同志の力が大きいかもしれない。生徒同志がかばいあい、引き上げている実習のグループを組むとき配慮している。担任によっても違うが、徹底的に指導している。意欲のない生徒はいるが、責めることはできない。(大垣桜)
- Q : 国家試験の合格率が良いが、正規の授業以外の取り組みはあるか。(久留米筑水)
- A : 放課後に補習をしている。養護学校の実習を1年次に行う。部活動にもよく取組み、ボランティア活動も行っている。(大垣桜)
- Q : 国家試験を受けたくない生徒への指導はどうしているか。(吾妻)
- A : 全員受験させているが、指導にもかかわらず最後までついてこれず、受験しない生徒もいた。(大垣桜)
- 司会 : 国家試験受験は希望者だけという学校はあるか。
- A : 訪問介護員2級養成は全員受講であるが、国家試験に関しては、科目選択で、選択した生徒だけ受験している。補習は夏期休暇中から行っている。受験するかどうかは願書提出時点で決めている。(二俣川看護福祉)
- Q : 国家試験の合格率が素晴らしいが、実技試験の指導はどうしているか。(塩谷)
- A : 生徒同志でやっている練習に教員が時々見に行っている。(大垣桜)
- Q : 2月で授業が終了した場合の時間設定などについて、具体的なことを知りたい。(塩谷)
- A : 1, 2年生が使っていないときは開放している。グループ分けして、ペアが組めるようにしている。(大垣桜)
- Q : 先生は人づくりとおっしゃった。学習内容のところで、「基礎・基本を踏まえ、1・2・3年と段階をおって」と書いてある。福祉教育に何を求めていくか先生の思いがあれば聞かせてほしい。(青森中央)
- A : 5年先、10年先を考えると不安で、こういう言葉がでてきた。バランスのとれる人になってもらいたい。コミュニケーション能力が育っていくためには、色々な方面からボールを投げている。大きな課題である。生徒がこうなりたいというものに近づくにはどうしたらよいか追及していきたい。
大枠があって個別の指導があると思う。1年で土台を固めたいが、無理はさせないようにしている。福祉といっても色々な立場がある。色々な意味で広く浅くしながら柱を1本ずつ立てていくという意味での体系化。(大垣桜)

徳島県立総合支援センター学校支援課指導主事の川村先生の指導助言

これから福祉施設でどのように実習をしていくか、先生方の悩みがわかった。施設側も生徒を受け入れ指導するためには余力がいる。その結果、実習の受け入れ先が少なくなり各県受け入れ先を探すのに苦労されているが、各県や指導主事の協力を得てやる方法もある。ま

た、就職先の開拓でも苦勞されているようであるが、北海道では、島で実習しているところに何度も先生方が足を運んで施設に行くことで、生徒の就職につながっている例もある。徳島県でも生徒の就職先に苦慮している。

学校側も施設側の要望を聞くだけでなく、こちらのやり方も工夫することでこつこつやっ
ていかなければならない。地道な取り組みをしていただきたい。

教育現場では生徒の発達段階に応じた各学年に対応した指導が必要である。指導者が計画的にたとえば1年生ではボランティア活動を通してどのようなことを生徒に味わわせたいか
というシミュレーションができていないといけない。

教員は生徒に対して一方通行のことが多いので、地域の方々、他の教員とのマネジメント
力が要求されていると思う。

実習の安全面では、費用がかかるが、年々予算の削減が各県予想されるので、実習にかか
わる予算を獲得出来るように日頃から福祉の活動を理解していただけるように協力して声
をだしていかなければいけない。

渡辺先生の福祉教育のねらいは、心豊かな人間教育である、人づくりであるということが
はっきりしているので発表においても先生の福祉教育のねらいが明確になっている。人づく
りという視点に立っていろいろな教育的実践が展開され成功されている。

福祉の教育において、資格を取らさなければいけない面と、教養としての福祉教育という
面があり、目的がちがうが、両方やらなければいけない。そうなると教員の負担が大きくな
るが、福祉教育の目標をもう一度しっかり考えていただきたい。そのためには、先生方の横
の連携、情報収集などが大切である。生徒が入学した時に福祉に関心をもっているというの
は、手みやげがあるようなものである。福祉に関心を持たない生徒を育成するのは大変なの
で、熱意を持ってやらないとなかなか生徒はついてこない。

徳島県では、高校生が資格を取ってがんばっているのに、なかなか支援が得られていない
今回公開授業をされた小松西高校の授業者に対してもたくさんのアドバイスをいただき情報
交換を共にしながらさらに向上できるようがんばってもらいたい。

ゴールドプラン21など、大きな流れの中で福祉教育が動いていると思う。いろいろな情
報を収集するアンテナになってもらいたい。

長浜高等学校における進路指導

滋賀県立長浜高等学校 教諭 村元研二

1 長浜高等学校福祉科の概要

(1) 県内初の福祉科の設置

平成5年11月：滋賀県より福祉科設置の通知。

平成6年4月：開設準備教員2名（社会科・家庭科各1名）配置。福祉科設置準備委員会の設置。
施設実習，教育課程，入試等開設に向けての準備。

平成7年4月：福祉科開設（定員40名；入学33名）

(2) 取得資格等

ア：介護福祉士国家試験

受験者 福祉科在籍生徒全員

合格率 1期生 約55% 5期生 約49%

2期生 約54% 6期生 約85%

3期生 約73% 7期生 約82%（平成16年3月卒業）

4期生 約67%

イ：訪問介護員2級 全員2年次に取得

(3) 教育課程

ア：全員に国家試験の受験資格を取らせる

イ：「社会福祉実習」6単位（2年次；3単位，3年次；3単位）のうち，各学年の2単位分を10日間の「施設実習」として行う。

* 2年生では11月，3年生では6月に実施。滋賀県内全域の特別養護老人ホーム等で行う。各施設1名～6名程度。

(4) 進路状況

ア：1期生～7期生までの概要（卒業生；254名）

進学：183名（68.8%）

4年制大学 51名（20.0%）

短期大学 63名（24.8%）

専門学校 61名（24.0%）

就職：71名（28.0%）

その他：8名（3.2%）……浪人等

↓

進学・就職共に，ほぼ90%が「福祉関係」に

イ：主な進路先

① 4年制大学

立命館大，龍谷大，島根大，滋賀県立大，京都産業大，関西福祉大，同朋大，中部学院大，日本福祉大，同志社女子大，聖泉大 等

② 短期大学

龍谷大短, 華頂短, 滋賀文化短, 滋賀女子短 等

③ 専門学校

滋賀医療技術専(P T・O T), サンピレッジ国際医療福祉専(O T・S T), 豊田学園医療福祉専(P T・O T), 箕面学園福祉保育専(O T), 滋賀県立看護専(看護), 堅田看護専(看護), 済生会滋賀県病院専(看護), 近江八幡市立看護専(看護), 京都栄養士専(栄養) 等

④ 就 職

老人福祉施設等

社会福祉法人育祥会, 市立長浜病院, 特別養護老人ホーム伊香の里, 社会福祉法人湖東会, 老人保健施設琵琶, 青樹会病院 等

訪問介護員

能登川町社会福祉協議会, 西浅井町社会福祉協議会, 田中ケアサービス 等

障害児者施設

第二びわこ学園, 蛍の里 等

2 職業学科としての「メリット」「デメリット」

(1) 職業学科としての福祉科の教育課程

ア：専門科目の時間数……25 単位以上必要

└─ 本校の場合 = 38 単位

34 単位 (「国家試験」の必修科目)

2 単位 (「福祉情報処理」)

2 単位 (「フードデザイン」)

イ：その他の科目等

「保健」1 単位 (2 単位が標準；1 単位は「看護基礎医学」で代替)

「総合」0 単位 (3 単位が標準；3 単位とも「社会福祉演習」で代替)

(2) メリット・デメリット

ア：メリット

専門科目「福祉」を中心とした専門教育が行える

① 専門職としての技量・知識の習得

② 直接的・間接的職業体験による勤労観・社会観の醸成

進路指導においては、「デメリット」を最小限に抑え、「メリット」を最大限に生かす必要がある。

福祉科の場合においては他の学科では得にくい「長期の施設実習」や「専門知識」「福祉観」などをアピールする！

イ：デメリット

国語や数学などの普通教科の単位数が少ない

→ 看護・医療系の進学には不利

3 関係機関との連携

(1) 福祉科と外部の関係機関

ア：実習関係

施設実習……特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型病床群、障害児者施設 等
訪問介護……滋賀県健康福祉部レイカディア推進課、市町村社会福祉協議会 等
体験実習……障害児施設、保育園 等

イ：進学関係

大学、短大、専門学校

ウ：就職関係

社会福祉施設、公共職業安定所、福祉人材センター（県社協） 等

エ：ボランティア関係

市町村社会福祉協議会、社会福祉施設、地域のNPO法人、市町村 等

オ：その他

社会福祉協議会（研究指定）、地域の自治体（福祉実習棟の使用） 等

(2) どのように連携するか

学校側と関係機関の両者の相互依存、共存関係＝give and take

→ どちらかがどちらに一方的に依存する関係だけでは長続きできない!

(例)

ア：「高校－福祉施設」の場合

高校……施設実習の受入・就職先・ボランティアの受入要請
施設……有能な福祉職員・行事等でのボランティア要請

イ：「高校－大学」の場合

高校……進学先・出前授業・職員の研修要請
大学……福祉に意欲的な受験生の確保・福祉の教育実習の受入要請

↓

福祉に関わる教員だけでは外部との折衝は不可能。学校長・教頭・進路課主任・教務課主任と「校内的な連携」の体制作りが必要。

4 進路保障のための校内体制

(1) 学校全体の進路指導体制の構築

ア：教務課・進路課との連携

学習指導、進路学習などの各課の協力

イ：全職員による進路計画の確認

年間計画・月間計画の全職員への周知

ウ：対外折衝への管理職の積極的参画

施設実習の巡回やお礼

エ：福祉科が関わる行事やLHRなどで各課の主任から生徒に直接、話をする機会を設ける。（進路のLHRの場合は進路課主任、学習指導については教務課主任など）

(2) 校務分掌

福祉の教員の校務分掌は、校内的な事情が許されるならば次の分掌への配置が望ましい。

ア：担任

特に3年生においては「施設実習」や進路指導の観点から福祉の教員が望ましい。長浜高校の場合、平成7年度の開設以来、すべて福祉科の教員が1年生～3年生まで担任した。

イ：進路課

福祉関係の就職は求人の時期・資格の有無・就職先の開拓など他の就職と異なる点が多々ある。又、施設側とは施設実習やボランティア活動などの日常的な教育活動の要素も無視できない。その為、「福祉の同じ教員が数年間」、進路課に配置されることが望ましい。

ウ：副担任

長浜高等学校の副担任の役割

- ・週に1～2回、曜日を指定して担任に代わりSHRを行う
- ・担任が出張や年休の時、SHRやLHRを行う
- ・学年行事への参加 等

特に、福祉科3年生の場合

- ・就職、進学共に担任を助け、進路課・教務課と連携を取り、情報提供や進路相談を行い、小論文や作文指導・面接指導にあたる。

↓

担任には通常のHR運営があり、時期的に集中する就職指導や進学指導が十分に行えるよう、各課や副担任がフォローアップすることが非常に重要である。その為にも担任との日常的な情報交換が不可欠となる。

5 進路保障のための具体的方策

(1) 日常的な教科学習の充実

ア：専門教科……国家試験および福祉の現場を踏まえた資質と能力を育てる教科指導の推進

イ：他の教科……一般教養としての基礎・基本の充実

(2) 体験的・実習学習の充実

施設見学（1年次）、施設実習（2年次・3年次）、大学訪問（1年次）等により、生徒の福祉意識の高揚・学習意欲の高揚・自己の進路の開拓を図る。

(3) 生徒主体の教育活動の推進

ア：中学生への福祉科紹介

1年次の夏季休業中に生徒自身が出身中学校を訪問し、福祉科の授業内容や近況報告を行う。

イ：マスコミの取材への積極的対応

- ① 2年生の長浜市内での車椅子実習の新聞社への取材
- ② 2年生、3年生のびわこ放送の取材（「教育ウィークリー」）

ウ：特別活動等

- ① 生徒会長候補に立候補
- ② ミシガン州との交換留学生に選出
- ③ 1年生の1学期、養護学校との交流

↓

将来の福祉専門職として、生徒会活動・部活動・ボランティア活動など、様々な経験をすることが大

切。これらの活動は福祉の進路のみならず、一人の人間として生きる「糧」となる。

(4) 進学先の情報収集等

ア：大学等の入試説明会に積極的に参加

→ 福祉系の大学短大はすべて自分で参加する。

……説明会終了後が勝負！個人的に福祉科の説明とお願い。

イ：学校訪問の福祉系大学等の来客の対応

→ 自分で直接、説明を受ける。

……専門高校特別受験枠などの情報

ウ：学校長や進路課主任の大学訪問

→ 福祉系の大学を中心に指定校枠の要望など。

(5) 就職先の情報収集等

ア：施設実習先の決定

→ 就職希望者には優先的に実習先を決定させる。実習は自己アピールの場。

イ：福祉人材センターとの連携

→ 求人先の情報収集。特に、「福祉の職場フェア」（年3回）の開催案内など。

ウ：生徒の希望を基に、施設への直接交渉

→ 「短大・専門学校以上」「20歳以上」の条件が多い。

……福祉科の概要を説明し、介護福祉士受験資格の取得見込み、訪問介護員2級の認定で受験させてもらえないかのお願い。

(6) 受験対策

ア：国家試験対策講座

① 一次対策

2年次夏季休業中、3年次夏季休業中・秋以降の放課後・冬季休業中などに実施

② 二次対策

3年次の実習を伴う授業、3年次の2月

イ：面接指導（進学、就職）

→ 3年担任、進路課、学年主任、3年副担任、福祉科主任などが行う。

ウ：小論文・作文指導（進学、就職）

→ 3年生担任、副担任、国語担当者など。

小論文対策の課題・問題点

☆表現力が不十分！

……思っていることや感じたことや経験したことが十分に表現できない。

☆しかし、中身は十分ある。

……施設実習やボランティアなどを通じての経験（現実の福祉現場、嬉しかったこと、悔しかったこと、気づいたことなど）は他学科には絶対負けない！

☆生徒の経験をどう引き出すか。

……生徒自身に意識化させ、それを文章化させて自分の考えをまとめる。

(7) 地域への福祉科教育のPR

ア：中学生の一日体験入学

平成14年度は11月下旬に、15年度は11月上旬に、本年度は10月初旬に実施。実施時期は中学生が進路を決定する前の、2学期のなるべく早い段階が望ましい。

イ：学科紹介

① 中学校訪問（保護者・生徒への説明）

例年、湖北（普通科の学区）の20中学校の9割前後、それ以外の地域の要請のあった中学校で実施。

② 学校案内・福祉科紹介ポスターの配布

湖北の中学3年生には全員、それ以外の地域の中学校には学校に数部ずつ配布。

ウ：地域の福祉関連事業への施設開放

地元の自治体の「訪問介護員研修事業」への実習棟の使用。

6 教職員の自己研鑽

(1) 新しい情報の確保

刻々と変化する社会福祉関連制度に対し、どのように情報収集を行うか。

→ 毎日の新聞やニュース、月刊誌などの購読。インターネットなどを通じての情報収集。

(2) 研修会の機会の確保

年1回の「全国大会」だけでなく、各ブロック毎・各府県毎での研修の機会をいかに確保するか。

→ その為の情報の収集を！

また、各府県内、近畿ブロック内での情報の共有化を！

(3) 「長浜高等学校福祉科10年研究大会」のお知らせ

日時：平成17年2月10日（木）pm ～ 11日（金）am

案内：詳細は「長浜高等学校のホームページ」に！

└ URL <http://www.za.ztv.ne.jp/nagako-h/>

社会保険について

尽誠学園高等学校 教諭 長 畑 満 弘

1 学 科 概 要

本校は香川県中西部に位置する、生徒数約950名の私立高等学校で、普通科・商業科・衛生看護科・福祉科を設置し、野球部・陸上部などの部活動も盛んである。

福祉科は98年度に香川県唯一の学科として設置され、現在に至る。当初女子のみの受け入れであったが、4期生からは男女共学となり、各学年の約3分の1が男子生徒である。1年次で訪問介護員2級、2年次で1級養成を行う。卒業時には、介護福祉士国家試験受験資格が取得できるが、合格者は毎年約3分の1である。

2 社会保険の概要

社会保険とは何か？ この内容をまず確認しておきたい。社会保障の2本柱は、広義に理解しても狭義に理解しても、公的扶助と社会保険であることはいうまでもない。しかし、社会全体が豊かになるにつれて、社会保障の役割は「最低生活の保障」から「従前生活に近い生活の保障」に移ってきて、日本の現行公的年金制度も、2階建ての所得比例保障となっている。2者を比較するなら、給付の権利性・普遍性、給付水準の高さにおいて、また財源確保の容易さにおいて、理論的な面でも現実的な面でも、社会保険の方が優れている、とされている。

そもそも、保険（民間保険を含む保険原理）の条件とは何か？ (ア)危険率の測定ができる（個々の危険の発生は全く偶然のものとしても、一定期間・地域に発生する確率が計算できる＝大数の法則に乗る）(イ)共同準備財産の形成 (ウ)収支均等の原則（危険率の測定が正確であれば、集めた金と支払った金は等しくなる）の3つである。民間保険はイギリスにおいて、資本主義発達過程のリスク回避方法として発展した。但し、特定のリスクに対応しているがため、リスクが低いと感じる者は保険料が高いと感じ、保険から脱退してゆく。その結果リスクの高い者ばかりが集まり、保険料が高騰し、保険市場が成立しなくなる（「市場の失敗」）可能性がある。また、民間保険は潰れることもある。

では、社会保険の条件とは何か？ (ア)生存権を保障する（あらゆる生活危険に対応する）(イ)国家が主体となる（民主主義国家は国民がオーナー。潰れようもない）(ウ)強制加入＝全国民が対象（「逆選択」を防ぐために、リスクの低い者も加入させて危険率を安定させる必要がある）の3つである。長期にわたる生活水準や物価の変動に応じて、給付額がスライドしていく点も、民間保険と異なる特徴である。さらに、社会保険において実現される社会保障が実を挙げるためには、関連して行われる諸政策が、ある程度成功していなければならない。「最低賃金制度（これを決めておかないと公的扶助を受ける人が多くなる）」、「完全雇用（これにより、失業対策が消極化される）」、「住宅問題」の他に、一定水準以上の「医療」や「教育」の存在、「公害」や「労働災害」を防ぐための施策、「災害」に際しての公的な救助の制度、「物価の安定」などが、社会保障と密接な関係をもっている。

3 テーマ設定について

2004年参議院選挙の争点にもなったように社会保険は、多くの国民の関心事でもあるが、制度の内容の認知度は低い。02年の社会保険庁の調査によれば、「受給に最低25年間の加入が必要である」「物価が上昇すれば受給額が増える」「国が給付の3分の1を賄っている」「障害基礎年金が受け取れる」ことを「知っていた」と回答した人の割合は、それぞれ、60%、48%、42%、49%である。高校生が卒業後加入し、受給権者となる社会保険の意義と重要性を理解させることは大切に違いない。しかし、社会人の認知度も低いこの教材を教えるのは、難しい。

かつて、「現代社会」で社会保険を扱った経験があるが、社会保険と民間保険の違いを区別して理解してくれなかったのでは……と反省している。教科「福祉」の科目「社会福祉制度」において扱う際には、両者をはっきり区別する生存権保障について、常に生徒が意識できるよう、指導することが求められる。今日の無年金障害者問題、将来の抛出と給付の問題などを考察する際にも、生存権保障の観点が必要でない。また、世代間扶養を教える前提としては、人口動態や個人のライフステージ理解、公的扶助を教える前提としては、税・保険方式の違いに触れざるを得ないだろう。さらに、最低生活とは何か？ 従前生活の維持はどの程度であるべきか？ といった根本的な問いも横たわっている。

平成12年3月文部省「高等学校指導要領解説 福祉編」によれば、2単位を想定した「社会福祉制度」の中で、社会福祉関連施策に10時間を割いて、(ア)社会保険制度、(イ)社会福祉関連サービス、(ウ)その他の公共サービスを教えることになっている。(ア)社会保険制度については「医療保険、公的年金制度、介護保険制度などを取り上げ、社会保険制度の具体的な内容とその意義について理解させる」とあるが、実際、社会保険に割ける時間は5～6時間であろう。短い時間に吟味した教材をどう組み立ててゆくか、手腕が問われる。

医療保険や公的年金の「具体的な内容の理解」の前提には、「意義」「原理」の十分な理解がなければならない。そこで私は、社会保険の原理的な理解に重心をおいた授業を、社会連帯の観点から、民間保険との比較の観点から、公的扶助との比較の観点から、下記の指導計画に構想した。計画中の(3)～(5)は凡庸であるが、保険の原理を教材化した(1)の後半の展開のさせ方、(2)で社会保険の条件を扱っている部分などは、先生方の参考となる点があるかもしれない。

国民的な議論のある社会保険を、高等学校福祉科において教師がどう教えるか？ について1つの素案(実践例)をたたき台にして、議論することは意味のあることである。日々どの先生方も、授業の進め方については苦心されているであろう。私自身、当初の指導計画では(6)自分で保険を作ってみる、というワークショップまでを想定していたのだが、生徒も私もしんどくなって(理解の壁にぶつかって)、(5)まででやめてしまったのが現実である。私の概略説明のあとは、先生方の経験・理想を踏まえた建設的、活発な議論を期待したい。

4 指導計画 全5時間

- (1) 社会保険の必要性
- (2) 社会保険と民間保険の違い
- (3) 社会保険と公的扶助との違い
- (4) 日本の社会保険の現状
- (5) 日本の社会保険の問題点

5 学習指導案（わが校は45分授業で行なわれている）

(1) 社会保険の必要性

段 階	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点
展開Ⅰ 10分	生存権について復習する。 憲法25条の内容を思い出す。 生存権を脅かすものを列挙する。 災害 疾病 事故 失業 高齢 育児 介護 親の死（遺族）	13条幸福追求権を補足して知らせる。 家族の協力・地域社会の助け合いでは十分な対応ができないことを、知らせる。	条文を正確に覚えているか？
展開Ⅱ 25分	たすけあいのしくみについて知る。 事 例 2年7組21人のうち、1人がけがにあう。治療費が420万円かかる。 対策のアイデアを発表する Ⅰ 20万円出したが、けがをしたので420万円もらえてよかった（400万円の得）。 Ⅱ けがをせずに、20万円損した Ⅲ 20万円出したが、自分はけがしなくてよかった。 Ⅳ けがをしても、420万円ほしかった。 4つのうち、自分の気持ちに合うアイデア2つに手を挙げる。	事例を示し、書き取らせる。 誰もが納得するリスク対策を考えさせる。 意見が出なければ、教師が補足し、4つの対策を揃える。 挙手の結果を知らせる。 ⅠとⅢのアイデアを組み合わせた、社会のしくみを何というか、考えさせる。	机間巡視 全員がちゃんと2度手を挙げているか、確認する。 授業の意図がよく分かっているか、ⅠとⅢに挙手が集まるはずである。 結果は Ⅰ 21（全員） Ⅱ 9 Ⅲ 12 Ⅳ 0だった。
まとめ 10分	たすけあいの合理的なしくみを、「社会保険」とよんでいることを知る。 高齢 障害 遺族年金 医療 雇用 介護 労働災害		ノートがきちんと取れているか、机間巡視をする。

(2) 社会保険と民間保険の違い

段階	学習内容	指導上の留意点	評価の観点
導入 5分	前回の復習 生存権を脅かす事態に対するたすけあいのしくみを「社会保険」ということを復習する。		前回のノート を参照している か。
展開Ⅰ 10分	保険の条件を知る ① ある割合で必ず誰かに危険が 起こることが確実 ② 共同準備財産の形成 ③ 収支均等 (集めたお金と支払ったお金に 過不足はない)	2年7組21人のうち1人は必ずけ が(前回の事例)の時、危険率は4.8% と補足する。 治療費420万円、21人から20万円 ずつ集めれば収支均等(前回の事例) と、気づかせる。	机間巡視 ノートをちゃ んと取っている か。
展開Ⅱ 10分	民間保険の特性を知る ① 病気になりやすい人も、なり にくい人も同じ保険料 ② 健康な加入者は保険料を高い と感じ、保険に加入しなくなる。 ③ 病気になりやすい人ばかりが 集まり保険料が高くなって、保 険市場が成立しなくなる。	がん保険を例にとって、タバコを 吸わない人にとって得な保険かどう か、考えさせる。 事実、潰れた民間保険があることを、 新聞記事を紹介して知らせる。	「市場の失敗」 を上手く教えら れているか、生 徒の顔をよく観 察する。
展開Ⅲ 15分	社会保険の条件を知る ① 生存権を保障する ② 国家が主体 ③ 全国民が対象(強制加入)	ホールインワン保険・自動車保険 などとの違いを知らせる。 日本では「国民皆保険」が実現し ていることを知らせる。	3つの条件を 一体のものとし てイメージして いるか? 生徒の様子を観 察する
まとめ 5分	社会保険の条件を復習する。	社会保険の他に、生存権を保障す るしくみはなかったか? 考えさせ る。	

(3) 社会保険と公的扶助との違い

段 階	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点
導 入 5分	前回の復習 社会保険の3条件を発表する。 社会保障を実現する他の方法を考える。		前回のノート を参照している か。
展開Ⅰ 10分	生活保護の基本原則を復習する。 ① 国家責任の原理 ② 無差別平等の原理 ③ 最低生活保障の原理 ④ 補足性の原理	社会福祉基礎の内容を思い出させる。 どのような生活が最低生活か考えさせる。 親族の扶養も相対的扶養義務に止まることを補足する。	公的扶助の原理を 列挙できるか。
展開Ⅱ 15分	社会保険と公的扶助の違いを知る。 社会保険 公的扶助 掛け金 財 源 *この部分は表となる 役 割 資産調査	両者の役割の違いに重点を置き、 社会保障が2段構えになっていることを、 イメージさせる。	ノートをちゃんと とっているか、 机間巡視をする
展開Ⅲ 10分	社会保障に関連した制度を知る ① 雇用の安定 ② 最低賃金の保障 ③ 住宅政策	社会保障が実を挙げるためには、 関連した諸政策が、ある程度成功していなければならぬことを、知らせる。	
まとめ 5分	社会保障は、社会保険+公的扶助 を基礎として、雇用・住宅など関連 制度によって成り立つことを、 復習する。		

以下省略（当日持参の資料を参照されたい）

10月28日(木)

14:40~16:45

徳島健教育会館 研修室 A

学科主任等協議会 分科会 2

1 進路指導

発表 「長浜高校における進路指導」

滋賀県立長浜高等学校

教諭 村元 研二

2 授業研究

発表 「社会保険について」

尽誠学園高等学校

教諭 長畑 満弘

指導助言者

徳島県立阿波西高等学校

教頭 佐藤美知代

司会進行

島根県立松江農林高等学校

教諭 中倉恵美子

長崎県立大村城南高等学校

教諭 下田かおる

記録

尽誠学園高等学校

教諭 楠見寿一郎

香川県立飯山高等学校

教諭 池内 美保

質疑応答

1 進路指導 について

Q:カリキュラム、推薦入試、就職について(大阪府 淀商業高等学校)

A:より専門性を強めることによって進学・就職とも良い方向に向かっている

推薦も福祉科の専門学科枠で、大学側も専門知識をもった入学生を求めている。また福祉科殻の受験生にはプラス10点くれている大学もある。福祉系以外の進路希望者には補習で対応するしかない。就職については近年、介護福祉士の有資格者という採用条件が増えてきた。事前に本人に採用条件その他のことを説明し理解させてから採用試験を受けさせる。

Q:介護福祉士合格率80パーセントはすばらしく参考になる。訪問介護員1級養成を止めたあとの生徒・保護者の反応やヘルパー1級・2級のメリット・デメリットは(三重県 明野高等学校)

A:1級は数年前に養成を止めたが、入学以前の説明の段階で事前に説明していたので大きな混乱はなかった。郊外の実習が非常に多くまた自分のことも十分できない生徒に1級を与えてよいものか、レベルを下げることになっているのではないかという理由があった。1級は働いてから取ってもいいのではないか、その労力を介護福祉士の国家試験にそそいで介護福祉士を目指す指導をする。

Q:福祉・医療・看護系列に進学してからの学習で、基礎学力がなくて困る生徒がいる。進学してからの生徒の悩みについて(静岡県 磐田北高等学校)

A:看護系列に毎年数名進んでいる。OT・PTについては物理など履修していない教科があつて困るが、福祉科で学習した専門教科が比較的理解できているので、不得意教科時間を費やすことでカバーしている。四年制大学では英語に不安を持っている生徒が多いが最近では能力別のクラス編成などにより単位は修得できている。

2 授業研究について

質問ではないが発表に対する感想の部分もある

Q:大いに参考になる点があつた。生徒と先生が考えコミュニケーションを取り教師が解答も事前に考えてそれを踏まえて展開している。(京都府 久美浜高等学校)

Q：この分野は教育実習生も難しく困っている。生徒に考えさせる発問は非常に大事で参考になった。授業中の挙手の取り方でⅡにあがったのは正直である。Ⅳが0人は驚きである。ⅡやⅣを選ぶ生徒から福祉の教育をしていく。ⅠやⅢを選んだ生徒がⅡやⅣを選ぶことをどう考えどう説得していくのか。発表の中で「社会保険はあらゆる生活危険に対応して生存権を保証する」という表現は適切なのか(社会福祉事業大学)

A：その辺のところは自分自身でもあまり考えてない部分である。先生の指摘は大切なこと。様々な授業の展開が考えられる。

Q：展開の中で「生存権」・・・人間らしい生活とは？健康とは、文化的とは、どういう状態を最低生活というのかを生徒に質問されましたか(京都府 久美浜高等学校)

A：していません。

三重あけぼの学園…生徒の実態は家計がが苦しい生徒、日々楽しく送る生徒と様々で実生活に基づき、自分等が今現在どういうふうに考えるのか、生活課題を考慮したうえで指導していくことが大切である。

指導助言 徳島県立阿波西高等学校 教頭 佐藤美知代先生

発表1について

進路指導が個性に応じて個性確立を大切にし、協力的な体制で計画的に行なわれている。面接指導を充実させている(週・月・テーマを決めて)学校が良い成績をあげている。一般的に進路が早く決まった生徒は成績が上昇し、未決定の生徒は下がる傾向にある。長浜高校では個人補習などを徹底して行い一人一人の指導を行い進路未決定者が少ないのはすばらしい。それが国家試験の実績にもつながっている。また施設への挨拶にも管理職が同行することは大切なことである。今、キャリア教育が重視されている。すばらしい発表であった。

発表2について

非常に「社会保険」は難しい分野で苦手としている先生方も多いと思われるがとても役に立つ内容であった。実践の部分と結果、考察が簡潔でそこがもっと知りたい。指導案の立て方のよし悪しが学習成果を左右する。学習活動には生徒の活動を書くべきである。新しい学習観は教師が一方的に教えるのではなく、生徒が自ら考えて解決する力をつけることを重視することである。本日の資料には評価の観点がないので今後気をつけてほしい。評価の観点は、関心・意欲・態度・思考力・表現力などを踏まえて学校独自に評価基準をつくる。独自ではできない場合は連携を取って(共同研究の組織を)作っていく。徳島県では研究組織として「福祉」と「情報」ができた。指導と評価の一体化が望まれる。

全体的にすばらしい発表をいただき、各先生方にお礼を言いたい。



全体報告会

日時：平成16年10月26日（金）9：20～10：20

場所：徳島県郷土文化会館 大会議室

司会進行：徳島県立城西高等学校 校長 多田 実

記録：香川県立飯山高等学校 教諭 山本 健二

徳島県立辻高等学校 教諭 石川 佳子

1 校長部会報告 香川県立飯山高等学校 井上 直樹 先生

2 主任等の部会報告

①分科会（1） 長野県立上田千曲高等学校 小林 逸元 先生

②分科会（2） 島根県立松江農林高等学校 中倉恵美子 先生

各先生方のご発表された上記の報告については、校長部会報告書・主任等の部会の報告書をご覧ください。

3 報告

①家庭部会事務局報告 全国高等学校長協会家庭部会事務局次長 坂井 絃子 先生
全国高等学校長協会家庭部会本部報告の資料をご覧ください、ご理解いただきたい。

1) 加盟校数は2, 497校である。

2) 活動は調査研究委員会を設けており、5部門ある。大学・短大への要望書の提出も行っている。専門学科の校長会の開催や年1回の総会及び研究協議会の開催、年2回の本部常務理事会、全国常務理事会、全国理事会の開催も行っている。

3) 平成16年度全国高等学校長協会家庭部会・第92回研究協議会は10月14日から15日まで長野県で開催された。

4) 平成15年度技術検定の申し込みは、247, 600名で33, 000名の減になっている。平成18年度末には「文部科学省認定」という名義が廃止されるが、「文部科学省後援」に名義がいただけるようお願いしている。

以上で不明な点があれば、事務局へ連絡を下さい。

②福祉科校長会事務局報告 全国福祉科高等学校長会事務局

千葉県松戸矢切高等学校

鈴木 恭太 先生

1) 加盟校は現在210校（10月現在）であるが、今後1～2校増えるかもしれない。

2) 研究部では、昨年度は「社会福祉実習ノート」を製作した。今年度は「社会福祉演習指導資料」を製作しているので、実践例の依頼の際には協力をお願いしたい。

3) 調査統計部では、昨年度は「教育実習に関するアンケート」を実施した。今年度は「過去3年間の卒業生の追跡調査」を実施する予定であるので、Eメールでの協力をお願いしたい。11月中に集めて3月頃に発表予定である。また、介護福祉士の国家試験についてもアンケートを出し、必要があれば厚生労働省へ要望書を提出するので、受験校には協力をお願いしたい。

- 4) 広報部ではホームページを開設しているので、県内・地区・ブロック別での研修の予定があれば連絡をしてほしい。
- 5) 産業技術・情報技術等に関する指導者養成講習(名称変更)を今年度は7月の下旬に、日本福祉教育専門学校で「介護技術に関する講習」と「社会福祉援助技術に関する講習」の2コースを定員20名で実施した。参加者はそれぞれ16人と26人で有意義な講習であった。来年度は2本立てでできるかどうかは未知数であるが、より多くの先生に参加してもらえるよう打ち合わせをしているところである。本年度は参加料は無料であったが、来年度は自己負担があるかもしれない。
- 6) 第6回福祉教育研修講座(ソーシャルワーク実践教育研修講座)が日本女子大学で実施されるので参加をしてほしい。
- 7) 第14回全国産業教育フェアが広島県であり、3校が展示参加している。来年度は東京で開かれる予定である。
- 8) 高大の連携については、福祉の教員の採用や研修会・勉強会の講師等についての要望があれば、日本社会福祉教育学校連盟へ繋げたいので、連絡をしてほしい。

講演 10月29日(金) 10:20~11:30 徳島県郷土文化会館 大会議室
司会進行：伊勢 正伸(徳島県立那賀高等学校長)
謝辞：篠原 道佳(徳島県立鳴門第一校等学校長)
記録：野中 昭良(高知県立城山高等学校)
亀代みつ子(徳島県立那賀高等学校)

演題 高校福祉科に期待すること ～ハードパワーからソフトパワーへ～

講師 同志社大学 文学部教授 黒木 保博(くろき やすひろ)氏
略歴

京都市社会福祉協議会、京都市福祉の風土づくり推進協議会勤務を経て、同志社大学文学部助手、専任講師、助教授となり現在文学部長・文学研究科長、大学院文学研究科教授。アメリカ合衆国ジョージ・ウィリアムズ大学ソーシャルワーク大学院、テネシー大学ソーシャルワーク大学院客員研究員、アメリカ研究所所長、同志社大学歴史資料館館長を務めた。(社)日本社会福祉教育学校連盟副会長・常任理事、(社)日本社会福祉士養成校協会理事、(財)社会福祉振興・試験センター社会福祉士試験委員、日本社会福祉学会理事(国際渉外担当)、関西社会福祉学会理事等歴任。

専門領域はソーシャルワーク理論、グループワーク理論、国際社会福祉。

今回の講演者として選ばれた理由を推測すると、1つ目は平成12年から14年にかけて開催された「新教科『福祉』現職教員等講習会」の講師を務めたこと。2つ目は東京で開催されました「ソーシャルワーク実践教育研修講座」の1回目、2回目を担当させていただいたこと。とともに、現在(社)日本社会福祉教育学校連盟(以下、学校連盟)副会長・常任理事をしているというようなことからだと考えています。

その他「(社)日本社会福祉士養成校協会(以下、社会福祉士養成校協会)」理事、社会福祉士国家試験の試験委員という立場があります。実際に大学の一人の教師として、かつ全国的な視野から「学校連盟」、「社会福祉士養成校協会」、試験問題にかかわるお話をしたいと思います。

1 高校福祉科に期待すること

(1) バランスのとれた感性豊かな人材の育成

高校福祉科にお願いしたいことの1つは、バランスのとれた感性豊かな、人の痛みが理解できる人材を養成していただきたい。福祉の学問・実践を考えてみると正解をいつも出しながら、この人にとって何が必要なのか、サービスとして何を優先しなければならないのかを考えられなければなりません。その時一番必要なのは感性、その場を読みとり、感じ取る力であると感じています。今日のサブタイトルであるハードパワーとソフトパワーということと関係しますが、我が国の社会福祉は細かな法体系で、法律に基づいて制度・施策が作られてきました。これまでの社会福祉は制度、施策を極めて杓子定規的に機械的に感性もなく目の前にいる利用者に当てはめていたようなところがありました。目の前にいる利用者に適応していくときにその人の置かれた状況を理解し、柔軟性があり多様な視点から適切な対人サービスのできる人材が必要なのではないかと考えています。ハードパワーとソフトパワーとは何か。福祉においては制度・政策・施設とか法律に掲げられているものがハードであり、ハードを強くすることは当然ですが、法律・制度・施策・施設を使いこなせるようなソフトパワーが今こそ求められています。そのソフトパワーが充実し、利用者が人間としての生活を維持していくための、貴重な人材を養成していかなければ

ばならないというのが1つの結論です。

今後日本の福祉は地域を中心に広められていきますが、地域に根ざした福祉サービスの在り方が問われています。高校福祉科で養成された人材が地元にとりだけ貢献できるかが問われています。

(2) 大学・職能団体との連携強化

2点目に高校・大学を初めとする教育機関、大学等が集まって横の組織としてつながりを作っている「学校連盟」、「社会福祉士養成校協会」等の養成教育団体、さらに職能団体・専門職団体というもののつながりを一層強化していかなければ高校の福祉科・先生方だけが一生懸命頑張ってもなかなか切り開いていけない課題・問題もあります。その意味では我が国の社会福祉学教育研究を推進していくために、それぞれがそれぞれの持ち場を担当しながらお互いに連携を深め、協同歩調していく重要性を認識していただきたい。その際、高校福祉科も重要な役割・位置を占めているということを全体的な視野から理解していただきたい。大学、職能団体を含め、お互いに情報交換する場、協議する場が今後益々必要になり、今後は地方レベルで高校・大学・職能団体が連携を取っていただきたい。

(3) 研修講座、学会への参加と入会

3点目にそれぞれの専門をより一層深めていただきたい。いろいろな連携の中で最新の情報・動向を素早くキャッチして高校生に教え、伝えていただきたい。そのため「学校連盟」はいろいろなセミナーの開催や仕掛け等をさせていただいています。大いに専門性を深めていただくため大学教員側も最新の考え方をお教えし、互いに交換するという姿勢で取り組んでいきたいと思っています。

お手元に、「第6回 福祉教育研修講座」の開催要項を配布させていただいています。「社会福祉教育における高大連携の方向と課題」というテーマを掲げ、「学校連盟」主催で開催します。大学・短大・専門学校が「学校連盟」を組織しており、その中に「社会福祉専門教育委員会」があります。この委員会は「小・中・高部会」を専門委員会のなかにつくり、連携を図ってレベルアップをしたいと思い、研修講座を組ませていただきました。来年の1月8日、9日に高校の先生方に参加していただきたく紹介いたしました。昨年「学校連盟」が社団法人化した際、交渉の中で文部科学省から、大学・短大・専門学校の組織が社会へどれだけ貢献できるか考えてほしいと御指摘がありました。「学校連盟」は小・中・高等学校の福祉教育への貢献というものを1つの事業内容として考えさせていただきました。文部科学省も是非やってほしいということで、その一環として講座に力を入れて頑張っていきたいと考えています。

最後に「日本社会福祉学会」会長の高橋重宏先生（日本社会事業大学）から先生方に「日本社会福祉学会」への入会について伝言を承ってきました。先生方が専門性を磨いていくため学会に入会し、高校福祉科の教育問題、養成問題などを学会に教え、発表していただきたい。また、学会の活動内容、学会への入会申込に関しては「日本社会福祉学会」でホームページをつくっていますので、ダウンロードして入会していただきたい。

2 高等教育機関における社会福祉学教育の動向から

(1) 高等教育機関における全入時代と福祉人気

これまで学校と学会、職能団体がバラバラに要求とかカリキュラム内容等を考えていましたが「ソーシャルケアサービス従事者研究協議会」を立ち上げ、学校側も専門職団体もそしてそれぞれの加盟している学会も連携して、福祉の問題を考えていこうということにしました。この協議会は2～3か月に1回、東京で会議を開いており、情報交換、各団体が取り組んでいることに関する連絡・調整、そしてプロジェクトをつくって議論を深めていくことを行っています。

今話題になっていることはマーケットの開発です。福祉の大学はいまだに右肩上りで増えています。その理由は大学で資格取得ができ、専門職として仕事に就けるということで非常に注目を

集めているからです。ところがだんだん福祉大学に行っても就職できないということが伝わってきています。そうすると高校生が受験をしなくなるという現状が生まれています。我々としては職能団体とかそれぞれの学校や学会を含めて、どういふシステムで打破、改革をしていくのかということについても検討しています。先生方も社会福祉教育の一郭を高等学校の福祉教育が占めているというつながりの中での、もの見方・考え方をお願いしたいと思います。

「中央教育審議会」から今年の7月に「高校教育の将来構想についての報告書」が出されました。高等教育機関における全入時代について、最初は2009年に来ると言われていましたが、報告書では、2007年になると全入時代がくることを明確に数字で表しています。

短期大学はご存じのように生き残っていけないため、次々に4年制大学に変更しています。一説では、4年制大学700校のうち私立の3割が赤字経営であることが指摘され、厳しい状況におかれています。しかし、福祉系の4年制大学は、いまだに右肩上がりです。1998年の学校連盟加盟校は104校、現在は176校となっています。1998年から2004年の間に短大の加盟校は全くなり、すべて4年制大学で推移しています。加盟校700校の中で福祉の大学は約130校。この10年間で大学が3、4倍増えています。福祉を学ぶ大学院も前期課程で3.2倍、後期課程で3倍に増えています。文部科学省の統計では福祉系学部・学科の卒業生は年間、総計2万5千人、その数字に4を掛けると約10万人以上の学生が福祉のことを学んでいます。その背景には、福祉を開設すれば受験生が増えきちんと入学してくれる等、私立大学の経営者からすると、未来のある学部・学科となっているのです。

(2) 課題

しかしながら、急激に学校が増えたため教員が足りないという現状があります。どんどん教員養成をしてきたわけではなかったため、社会福祉学を学んだ教員が足りず、心理学や経済学、医学、看護学等の他分野の方々や実践されていたベテランクラスを次々に大学教員に登用しています。こうした現状の中で考えるべきことは教員の質の向上・充実が重要な課題になっているということです。

もう1つは、極めて短絡的に社会福祉士の課程をつくれ学生が来るので、とにかく科目をおけ、という形の福祉学のコースが次々できていった現状があります。

ここで「学校連盟」が実際に何か取り組みをしないと、繁栄しながら破局の道をたどることになってしまいます。つまり、本当に社会に対して信頼される教育になっているのかを考えなくてはならないのです。

もちろん大学は経営のために、将来の人材養成のための改革を行っています。如何に高校生の受験者を増やすために改革をするかということが、大学にとって生き延びていく方策であるということになっているのです。同じ社会福祉士養成の大学が全国に沢山あるということは特徴や個性を出していかなければならないということです。

そうした現状の中で、「中央教育審議会」が言っていることは、大学を世界最高水準のものにしていくということです。高等教育の質の保証をしなければならないということを盛んに言っています。

3 社団法人日本社会福祉教育学校連盟の基本的方向

「学校連盟」の使命は社団法人化する際に、社会福祉教育のナショナルセンターとしての働きをしていくことであるといっています。そこを訪ねれば情報はすべて素早く得られ、将来の社会福祉教育が何を目標しているのかということが、すべて分かるようにシステムを作っていくことでやってきました。

現在取り組んでいるのは、質の保証です。どの大学で学んでも一定の水準が保たれるような福祉教育の在り方を検討しようではないかということで、本当にそうした教育が行われているのかどうかという保証をしたいのです。現実にはなかなか難しくなっていますが、徐々にコアカリキュ

ラム、この科目だったら最低限ここは教えようというものを確立していかなければなりません。福祉教育とするならば、最低限この科目は教えて、それから先は各大学が独自性で教えていたでもいいが、全国社会福祉系大学に行けば必ずこれは教えられているというものを早急につくっていかなくてはならないという考え方で、そのカリキュラムとか科目の設置などを入会審査基準を通じて検討しています。

「社会福祉・社会保障研究連絡委員会」では一昨年「ソーシャルワークが展開できる社会システムづくりへの提案」という報告書を「ソーシャルケアサービス従事者研究協議会」との兼ね合いで出しています。ここにおいてもいろいろな要望を文部科学省を始めとして送っています。そこには社会福祉士及び介護福祉士、精神保健福祉士の教育内容、教育方法、教育条件及び教員組織を厳格に審査し、その教育水準を向上させるよう助言・指導すべきであること。介護福祉士資格者が社会福祉士の国家資格受験資格を取得できることを検討する必要がある等の要望をしています。

また、日本のソーシャルワーカーが国際的に通用する資格になるようにソーシャルワーカーのグローバルスタンダードづくりをして欲しい。そして、個々の職能団体が領域別に行う研修会だけでなく、組織を越えて横断的に生涯研修会を組織するよう要求を学術会議に出し、文部科学省や厚生労働省に働きかけるということを全国レベルで行っています。

4 社会福祉学教育におけるソフトパワー形成へ

(1) ハードパワーとソフトパワーの連動

振り返ると日本の社会福祉教育は戦後、法律・制度を中心にして動いてきました。社会福祉問題を解決するという事は制度や施設をつくることであつたのです。これはハードをつくっていくということで、その制度や施設と福祉マンパワーを連動させて考えてこなかったところに、日本の社会福祉の実践が大きな遅れを取つた理由があります。

措置行政というか、福祉は法律に適應してやればよいという形で行われ、施設でどんなよいサービスをするのかなどは後回しになってきたのです。この問題点に注目し始めたのが1990年代になってからの社会福祉関係の八法改正です。在宅福祉サービスの整備を行つて、いわゆる対人援助サービス、ケアマネジメントが非常に重要だということにも気づき始めたのです。とりわけ高齢者分野の在宅介護支援センターでの業務や障害者のケアマネジメントが市町村で展開されるということになると人が足りません。今まで法律や制度、設備などハードのパワーをつくつてきたわけですが、やっとここにいたつてソフト面に気がついたので。そして介護福祉士と社会福祉士の養成を盛んに行つているのです。

(2) 高校生の価値観と福祉教育

ベネッセコーポレーションの高等学校の進路指導に関する意識調査のなかに興味ある調査結果の要約が出ていました。高校生の進路指導に当たつて、生徒の価値観としては「実用志向」、役に立つことを学びたい、あるいは「私的自己実現志向」というか自分の個性、自分らしさ、個人的価値の優先というものを伸ばしていきたいという生徒が増加している。いわゆる役に立つことを求めるとか、自分らしさを追求する生徒が増加しているという結果が出ており、1997年のデータから比べるとその傾向は強まっています。仕事を通じて自分自身を成長させる、仕事を通して人の役に立ったり、社会に貢献したいというような「社会的自己実現志向」の生徒は減つてきていることを指摘しています。しかし、このベネッセが指摘していることは、「実用志向」というものをこれからの高校教育の中で重視していかなければならないということです。その「実用志向」を何を持って高校生に伝えていったらいいのでしょうか。「実用志向」という役に立つことを学びたいということを言い換えると、専門的な知識・技術を身につける、資格・免許・検定を取りたいという要望になります。福祉科の高校生は「実用志向」をきちんと持っています。それをどう活用し教育の中に活かしていけるのか。「私的自己実現志向」と「実用志向」という

ものをいかにして「社会的自己実現志向」に転用できるかが課題になっています。

(3) ソーシャルワーク理論の見直し

そのためにはどうすればよいか、「日本社会福祉学会」では3年前から韓国社会福祉学会と学術交流をはじめ、いろいろな情報交換を行っており、1つの共通点を見いだして取り上げています。

今まで日本も韓国も中央省庁の力が強く、法制度、施設がこのパワーでつくられてきました。ところがソフトのところの専門に当たるソーシャルワーク等はアメリカやヨーロッパで発達したものを取り入れてきました。日本の土壌の中には対人援助サービスを考えるものの考え方が非常に手薄だったため、先駆者達はアメリカのソーシャルワーク理論や援助法をどんどん取り入れ紹介していったのです。例えば今回の介護保険によって福祉のサービスもずいぶん変わり、自らが契約をする、主体的に選ぶということになった時に改めて考えたわけです。本当に日本の国民は契約できるのか、主体的に自己決定をもってサービスを選べるのか疑問です。韓国の大学教員は、欧米で学位を取得された方が大勢います。ところが高齢者問題を考えた際に、アメリカの対人援助サービスは合わないということに気づいてきたのです。いわば、アジアはアジアの考え方、日本や韓国もそれぞれの考え方があり、果たしてソーシャルワークで言ってきた個人主義とか契約とか主体性とかは当てはまるのかということと同じテーブルにつけることが分かってきました。

(4) 地域の文化、国民性に根ざしたソーシャルワーク理論

多くの研究者たちが本当に契約時代になって、自分で主体的にサービスが選べるのだろうか。ソーシャルワーク理論の中には契約とか主体性とか個人主義を原則としては尊重しなければならないのですが、本当にそれでいいのだろうかという問題があります。

韓国社会福祉学会とは今年も10月にシンポジウムとして行ったのですが、やはりアジア型モデルというかマイナス面も含めて本当にその地域の中で今まで育ててきた文化を尊重しながら、ソーシャルワーク理論をもう一度見直す必要があるのではないかと考えています。

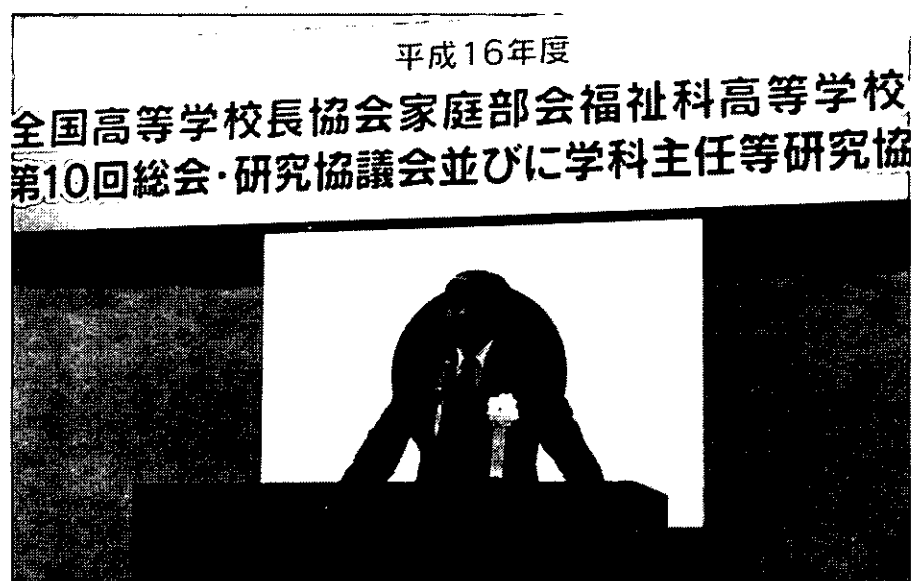
こういう国際化、グローバル時代になってくると、地域の文化や国民性に根ざしたものが必要になってくると感じています。先生方も教科書はありますが、それぞれの地域において、家族というものをどう考えているのか、地域社会にどうか関わっていったらいいのかを問う教育実践をしていただきたいと思います。どこかに日本の文化的な特徴とソーシャルワーク理論の実践の課題が見いだせるのではないのでしょうか。何か日本の恥の文化等はマイナスイメージで捉えがちですが、そうではなく地域の文化というものをもっとプラスに考えたソーシャルワーク理論について論じてもらいたいと思います。なおこのことについては、論文などにまとめてご紹介したいと思っています。

5 高校福祉教育の在り方

高等学校の生徒諸君が地域の福祉介護サービスの人材として育っていくには、地域の文化、ものの考え方、家族とのつながりも含めて教えていかないとなかなか役に立つソーシャルサービス理論・実践にはならないと考えています。最初に結論を申したとおり、感性豊かとは、いわば地域の文化というものを高校生にも理解させていくことなのです。そして、人との付き合い方や関わり方が福祉の根幹にはあることをもう一度見直していただき、日本で長い間積み重ねてきた地域の文化というものを、プラス面・マイナス面を含め、ぜひともプラス面を伸ばしていけるような、それを体験できるような福祉教育の在り方を考えていただきたい。それを「学校連盟」では、コアカリキュラムの中にきちんと日本の文化とソーシャルワークの関係という形で入れていかざるを得ないと考えています。

高校の福祉科の動き、先生方が考えていること、実態、それと大学との関係、大学を卒業して福祉サービスに従事するときの職能団体との関係は一直線で結ばれていかなくってはなりません。情報交換しながら、調整しながら進めていくことで、よりよい社会福祉を背負って立つ人材が養

成できるのではないのでしょうか。また、今後とも高校・大学・職能団体が一直線になってお互いにパワーを共有し、かつそれぞれがパワーを出していけるようなシステムにしたいと思っています。



開催期日：平成16年10月29日(金)

項目：指導講評

場所：徳島県郷土文化会館 大会議室

時間：11:40～12:20

司会進行：徳島県立阿波西高等学校 校長 田淵 憲治

記録：高知県立室戸高等学校 教諭 別役 千世

徳島県立鳴門第一高等学校 教諭 山本 尚子

指導講評

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢幅 清司 先生

1. はじめに

徳島県立小松島西高等学校のみなさんには、貴重な授業を見せていただきましたことを感謝申し上げます。昨日の公開授業では、とてもすばらしい授業、生徒が素直に生き生きと頑張っている姿、そしてそれをきちんと支えている教員の姿を見ることができました。それぞれが各地に持ち帰って、さらにまた、すばらしい実践につなげていって欲しいと思います。

2. 福祉関係従事者について

老人福祉施設、老人保健施設、療養型施設、すべて合わせて平成12年度には123,703名であったものが、平成15年度では154,454名と、3年間で3万人余り増えています。これらのことを考慮すると、社会福祉等での従事者というのは、まだまだ必要であると思われれます。また、在宅サービスの訪問介護、通所介護の職員数は、平成12年度では109,451名であったものが、平成15年度には212,762名と、たった3年間で10万人増えています。このようなことから大学、専門学校、そして高校福祉科での福祉の人材養成というものは、まだまだ地域から要求、需要等があると考えられます。今後の課題は、質の高い人材を供給できるか、ということになります。ただし、高校福祉科の卒業生の割合、専門学校の卒業生の割合などは、わかっていないので、これから校長会等を通じて、福祉従事者の高校卒の割合を算定するとともに、その人たちのバックアップ、養成をどうしていくのかなどの体制作りをしていって欲しいと思います。

先の数字を視点を変えて見たいと思います。施設福祉サービス従事者と在宅福祉サービス従事者を比較すると、在宅福祉サービス従事者の方が数は多いが、半数以上が非常勤となっています。それに対し、施設福祉サービス従事者のほとんどが常勤職員として採用されています。このことから生徒を就職させるには、施設福祉サービスの方が生徒の生活保障にもつながるものと考えられます。単に就職先を探すという視点だけではなく、待遇面等も合わせて考えて欲しいと思います。

3. 介護福祉士国家試験合格率

昨年度の高校生の合格率は、全体の合格率を上回る52.7%でありましたが、その内容を見てみると、喜んでばかりはられない高校福祉科の両極化があります。100%の合格率を出している学校が全国で4校、90%以上あげている学校が4校、80%以上合格者を出している学校が12校、70%以上の学校が11校、つまり70%以上の合格率をだしている学校が31校あり、全体の約1/4になります。逆に合格率が0の学校が4校、10%以下が2校、20%以下が11校、30%以下が10校、合計で27校とこれも全体の約1/4となります。数字だけを求めるわけではありませんが、受験資格を与えるという看板を掲げている以上、それに見合った手当てをし、指導をしなければならないのではないかと考えます。生徒の努力はもちろんのこと、教員、そして学校としてのバック

アップもなければならぬと考えます。学校によって教員の配置、施設・設備の充実度、施設実習への取り組み方等、いろいろな条件があると思いますが、数年間にわたって合格率0という学校を見て「高校福祉科は…」と判断された場合は、かなり厳しい対応を迫られるのではないかと思います。そういう点で、ここにお集まりの先生方には、危機感を持って対応をお願いしたいと思います。

4. 介護福祉士国家試験の変化について

介護福祉士国家試験について、いろいろ議論されてきているところでありますが、現時点での結論としては現状を維持する方向です。唯一の変更点は介護技術講習の設置です。

「介護福祉士試験の在り方等介護福祉士の質の向上に関する検討会報告書」に“介護福祉士の資格取得方法については、指定養成施設の卒業者が受験資格を取得する方法に統一することを検討する”という文言があることから、何年かすれば、高校福祉科等の卒業者を受験させないという問題が再燃すると思われる。今、必要な対策を行うとともに、再燃したときに高校福祉科の頑張っている姿・実績を示すことができるよう準備をして欲しいと思います。こういう点においても気を引き締めて頑張っていたいただきたいと思います。

5. 介護技術講習について

(受講料について)

生徒に負担のかからない方法で受講できるようにするためには、高校側だけの努力では解決できないので、主催団体（近隣の養成施設：専門学校）との連携・調整を密に図り、実施して欲しいと思います。

(実施時期について)

3年生の早めの時期や夏休み等に実施しようとする場合、その時期までにすべての実技の指導が終わっているかを考えることが必要となってきます。現在、実技試験が3月にあることから、3月に向けて3年間かけて基礎的な介護技術を身に付けさせ試験に臨んでいるものと思います。介護技術講習が夏休みに行われた場合には、学ぶべきすべての技術を半年程さかのぼって終わらなければなりません。介護技術講習の意図は、校内で学んだことを講習で確認し、評価するのであって、講習を受けるから校内での実技をやらなくてもいいということでは全くありません。したがって、あまりに早い時期で受講させると不十分なままの受講となり、修了認定にも影響が出るなど問題が出てくると思われます。見通しをもって、きちんと技術を身に付けさせ、そしてその評価のために受講するというパターンをきちんと作り上げていただきたいと思います。

(会場について)

同じ市内に主催団体（近隣の養成施設：専門学校）があれば通うことも可能となりますが、生徒が遠隔地に住んでいる場合には交通費がかかったり、宿泊が必要になる可能性も出てきます。そのような場合には、金銭的な負担とともに、学校から離れることによる精神的な負担も生徒にかかることとなります。これらを解決するためには、例えば、実施主催団体と協議したうえで学校の実習棟を会場に使うなどの検討をお願いすることも可能だと思いますし、実現すれば、日頃通い慣れている学校ということで精神的な安心感と、通うという意味での負担が減ることになります。

(学校での指導について)

介護技術講習が導入されるにあたって、学校での指導が難しくなるということを考えて欲しいと思います。例えば、40人のクラスがあった場合、普通はこの40人のクラスを一斉に指導するわけですが、介護技術講習を受講する者としらない者が出てきた場合には学校教育（一斉指導）というシステムでは、やりにくくなると思われます。そのことから、出来るだけ40人で受講しようという方向か、または、40人で実技試験を受けようかという二者選択的に考える必要があるかもし

れません。そして全員で介護実技講習を受けることにした場合でも、40人中1人でも2人でも不認定が出てしまうと、その生徒に対する指導などの配慮が必要となってくると同時に、全体での指導もしなければならず、学科全体での指導がとてもしにくくなることが考えられます。これらのことを想定して、今からシミュレーションしていくことが必要と思われれます。

6. 介護福祉士国家試験受験資格について

(必要単位数について)

総合学科等で90分授業、60分授業など、通常の50分授業ではない形態で実施している学校があると思いますが、その場合においては必要時間数をきちんと確保していなければなりません。一単位時間(50分)につき35時間で1,750分が一単位となりますが、45分間の授業では、35時間では1,575分となり、1,750分の必要時間数を満たさないこととなります。不足しないためには、45分授業を実施している学校においては最低39週(1,755分)というカリキュラムを実施しなければなりません。私学の場合は、教育委員会ではない場所にカリキュラムを提出するので、指導なしに受理されているかもしれませんが、受験資格があるかどうか審査された場合、10分とか15分足りない場合でも、必要単位数を満たしていないこととなります。その場合、受験資格が無効になってしまうこととなります。このような点に注意してカリキュラムの見直しを行っていただきたいと考えます。

(科目名について)

従来は、正式な教科として福祉が成立していなかったもので、例えば「ボランティア基礎論」であるとか「社会福祉概論」という名称を使って実施しても、「社会福祉基礎」に読み替えは可能でした。しかし、平成15年度からは正式な教科として福祉が発足していますので、法令に則って科目名を統一するようお願いします。そうでなければ受験資格確認ということで、すべての教科書と教科内容等を提示する等の説明責任が問われることとなります。

7. 教員の確保、研修について

(教員採用)

今年度、福祉の教員採用試験を実施している県は12県です。昨年度は8県でしたので着実に少しずつではありますが増えつつあります。校長先生におかれましては、福祉の免許を有する教員の配置・採用について県教育委員会へ要望をするようお願いいたします。そうしなければ、採用試験も行われず、新しい福祉の教員が入ってこないということになりかねません。現場からの呼びかけ、要望を積極的に出していただきたいと思ひます。

(教員研修)

各都道府県ごとに福祉教育研究会の設置がほぼ終わった時期かと思ひます。今後はその教育内容、研修内容の充実にかかってくるものと考えます。福祉系の大学、団体、地域との連携を深め、研修を広めていっていただきたい。そのことで高校福祉科の存在意義、社会的認知が高まっていくことにもなります。また、先生方の研修にもなりますので、そこで得たものを生徒に還元できるということにもなります。積極的に学会や研修会等へ参加をしていただきたい。また、校長先生方は公的派遣のシステムの構築についても考えていただきたいと思ひます。

今大会では、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本福祉教育・ボランティア学習学会等の申込書も用意されていますので、詳しくはそちらを見ていただければと思ひますし、第6回福祉教育研修講座のしおりも準備されていますので、積極的に参加されるようお願いします。

8. 福祉教育について

福祉教育は、他の教科にない特別な教科であると考えます。その時々福祉課題を教材として、体験的な学習活動を多く取り入れるという特徴があります。座学だけではなく、講義、実技、体

験などを交えて、自分の持っている経験を体系化して知的に高め、身につけていく教科であります。福祉を知り、考え、自分の態度を養成し、実践していく教科であります。これは普通教科には、ない特徴であり、生きる力を率先して実践できる教科であると考えます。

9. 指導上の注意点

指導上の注意点としては、専門的な知識・技術・技能を身につけ、豊かな心を持ったスペシャリストを育成することが目的ではありますが、国家試験合格のみを目指しての取り組みとならないようにして欲しいということです。資格のみにとらわれるのではなく、生き方、在り方、豊かな人間性という基盤があってその上にプラスアルファされていく専門性ではないかということをご一度考えて欲しいと思います。

国家試験という目標のためだけに邁進してしまったがために、国家試験はパスしたけれどコミュニケーションはおろか、職員として働く力量が不足している卒業生がいるという話も聞くことがあります。福祉教育は人間形成という部分があった上に、専門的な知識・技術を足して、積み上げていくんだということを再認識して欲しいと考えます。

10. 教員間の連携について

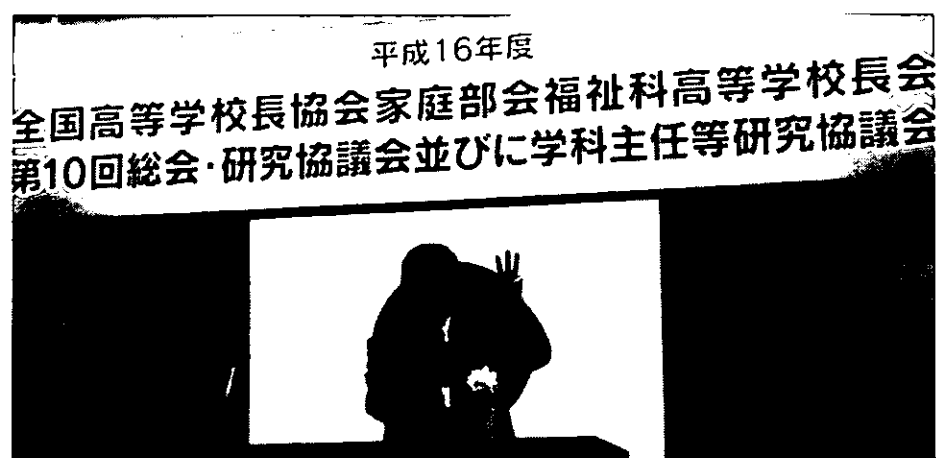
福祉の教員はお互いに助け合って、教育効果を高める工夫をして欲しいと考えています。普通教科等におきましては、多くの指導書・参考書が出版されていますが、福祉に関する教科書、教材、テキストは、まだ少ない状況にあります。だからこそ、福祉担当者が独自で作上げたワークシートや切り抜き、授業の教材等を、全国規模で共有し、あらたな授業が展開できるようなシステム作りをして欲しいと思います。発展途上の教科であるので、実践したものをオープンにして、人に使ってもらおう努力をして欲しい。その中でより良いものを作っていただきたいと思っています。

11. 最後に

この校長会は、全国の福祉教育をリードするという使命を持つことを期待しています。今回の大会で深められました研究協議を全国各地の実践へ役立てるとともに、ネットワークをフルに活用して欲しいと思います。

最後になりましたが、この大会の開催にあたり、ご尽力いただいた全国の家庭部会、福祉科校長会、徳島県教育委員会、さらには主管校である徳島県立小松島西高等学校の皆さんに感謝を申し上げ、指導講評とさせていただきます。

皆さんは生徒に、地域に、夢を振りまく、種を蒔く、種を蒔き続ける教員であって欲しいと思います。すぐには芽は出ないかもしれないが、いつかはきっと大きな実をつけることになると思います。皆様方の今後のご健闘を期待しております。



閉会行事

平成16年10月29日(金) 12:20~12:40 徳島県郷土文化会館

司会進行：白石 基章 (徳島県立辻高等学校校長)

記録：渡部加代子 (愛媛県立川之石高等学校教諭)

新見 明美 (徳島県立鳴門第一高等学校教諭)

開会のことば

松山城南高等学校校長 福地 勝哉

大変お疲れさまでございました。ただいまから平成16年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会第10回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会 徳島大会の閉会行事を行います。よろしくお願いいたします。

主催者あいさつ

全国高等学校長協会家庭部会福祉科校長会会長 木村 行幸

公開授業に始まり、矢幅先生のご講評に至るまで充実した時間を先生方と一緒に過ごすことができました。この大会の運営にご尽力いただきました小倉校長先生をはじめ関係の先生方から御礼を申し上げます。

徳島大会の冊子をいただいた時になぜこの色の表紙かと思いましたが、小松島西高校の体育館に行くと展示されているたくさんの藍染作品を見て学校の特色を生かした冊子の色を使ったのだと感じました。このように小さなところまで創意工夫をしておられた運営に私自身大変勉強させていただきました。

さて、8月上旬、高等学校福祉科校長会で北欧研修旅行を実施いたしました。スウェーデン、デンマークの福祉国家では50%を税金としています。小学校入学前から俗にいう知識ではなく、子ども達に良いことと悪いことをきちんと教える、人間関係をきちんと築かせるということを重視しています。この2点が背景にあつてこそ福祉国家スウェーデン、デンマークは成立しています。日本の現状を考えたとき、人間尊重という他者への思いやりが深く根づいていないため、将来の日本の福祉国家を危惧しています。私自身、この研修に参加することによって新しい考えが身についたところです。先生方も様々な研修に参加されて、教員としての資質向上に努めていただきたいと思います。そうすることが福祉教育の発展につながると思っています。

ご多忙の中、今大会に2日間参加頂いた矢幅先生に心からお礼申し上げます。あいさつといたします。

次回主管校あいさつ

三重県立明野高等学校校長 佐藤 良一

先ほど紹介していただきました三重県立明野高等学校の佐藤良一と申します。よろしくお願いいたします。来年度、三重県立明野高等学校が主管校として、開催させていただくことになっています。お手元にご案内を入れておりますが、来年度は8月9、10日の夏休み中に開催させていただきます。できるだけ交通の便の良い所で、参画型研修を中心に計画しています。今大会には、来年度の会を成功させるために三重県の関係者が多く参加しています。今大会では、皆様方よりたくさんのエネルギーを頂きました。このパワーをもとに来年まで走って行きたいと思っています。来年度は、東海地区で大きなイベントがあります。三重県の熊野古道が世界遺産に指定され、愛知県では愛知地球博が開催されます。この機会にその方面でも研修をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

主管校あいさつ

徳島県立小松島西高等学校校長 小倉 正幹

閉会にあたりまして、一言お礼を申し上げます。大会準備から運営まで至らぬところが多々あったかと存じますが、ご参加されました先生方のお力添えを頂き、何とか無事終了することができました。心から感謝申し上げます。また、ご多用の中、ご出席いただきました文部科学省初等中等教育局参事官付教科調査官 矢幅清司様をはじめご来賓の方々、および家庭部会本部事務局の方々へも感謝申し上げます。本大会での研究成果が明日からの教育に役立つものと信じております。来年度、三重県での大会がより充実した大会になることをご期待申し上げます。最後に皆様方のますますのご活躍をご祈念申し上げ、はなはだ簡単ではございますがお礼のことばといたします。



閉会のことば

愛媛県立北条高等学校校長 友田 義一

全国より250名にもおよぶ先生方がご参集され、昨日の授業公開を皮切りに研究協議、基調講演、矢幅先生の指導講評まで実りの多い大会となりました。改めまして心新たな決意をしているところであります。来年、三重大会に集まることをお約束して、全国高等学校長協会家庭部会福祉科校長会第10回総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会 徳島大会の全日程を終了いたします。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

平成 15 年度事業報告

期 日	活 動 内 容	備 考	
5 月 28 日 (水) 10:00～12:00	第1回 理事会 ● 役員の選出について ● 大分大会に向けて ● 福祉科校長会独立について ● 平成 16 年度開催地 (四国地区について) ● 『福祉科高等学校長会』の事務局担当校について	第1回 学科主任等代表者会議 ● 大分大会に向けて ● 学科主任代表者会組織について ● 代表者組織の活動について (研修部・調査統計部・広報部)	千代田区九段上集会室
5 月 28 日 (水) 13:00～16:00	理事・学科主任等合同会議 ● 理事会及び学科主任等代表者会報告		千代田区九段上集会室
7 月 28 日 (月) ～ 8 月 1 日 (金)	新産業技術等指導者養成講習 ● 社会福祉援助技術に関する講義と実技		NHK学園高等学校
7 月 30 日 (水) ～ 8 月 7 日 (水)	新産業技術等指導者養成講習 ● 介護技術に関する講義と実技		文京社会福祉専門学校
10 月 29 日 (水)	第2回 理事会 第2回 学科主任等代表者会議		会場：野津高等学校・野津町中央公民館・小田急センチュリーホテル・トキハ会館 講師：大分大学教授 荻野 源吾氏
10 月 30 日 (木)	大分大会 第1日 (講演会・総会・公開授業・研究協議会)		
10 月 31 日 (金)	大分大会 第2日 (全体報告会 閉会行事 等)		
12 月 11 日 (水)	全国福祉科校長会に関する課題検討委員会		家庭部会事務局
12 月 25 日 (水)	第3回 理事会 ● 北海道, 東北地区の合併について ● 独立について ● 会長の選出方法について		家庭部会事務局
2 月 27 日 (金)	大分大会報告書の刊行		800部 各校2部配布
3 月 30 日 (火)	厚生労働省「介護福祉士試験の在り方等介護福祉士の質の向上に関する検討会」ヒアリング		厚生労働省

- 広 報 「福祉系高校ニュース」発行 (HP)
 5月28日～福祉科校長会に望むこと
 10月29日～学科主任代表者会議内容
 11月10日～全国大会報告
- 研 修 「社会福祉実習」指導参考ノート発行
- 調査統計 「教育実習に関する調査結果報告」送付

平成 15 年度
全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会計決算書

収 入 額 1,515,360円
支 出 額 1,021,224円
残 494,136円

1 収 入 の 部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減 (Δ) 額	摘 要
会 費	955,000	1,015,000	60,000	年会費5,000×203枚
繰 越 金	542,251	500,354	Δ 41,897	第1回理事会諸費用
雑 収 入	500	6	Δ 494	利息
合 計	1,497,751	1,515,360	17,609	

2 支 出 の 部

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	残 額	摘 要	
総務費	通 信 費	100,000	378,021	Δ 278,021	
	会 議 費	70,000	7,200	62,800	
	印 刷 費	30,000	0	30,000	事務局印刷費
	旅 費	100,000	78,469	21,531	
	小 計	300,000	463,690	Δ 163,690	
事業費	研修部補助費	60,000	82,370	Δ 22,370	
	報告書印刷費	400,000	264,600	135,400	A4版800部
	総会補助費	40,000	40,840	Δ 840	
	広報部補助費	60,000	6,800	53,200	
	調査研究補助費	60,000	2,000	58,000	
	雑 費	30,000	160,924	Δ 130,924	封筒印刷・通信機器・事務用品代
	小 計	650,000	557,534	92,466	
予 備 費	547,751	0	547,751		
合 計	1,497,751	1,021,224	476,527		

本会計は、決算報告書のとおり正確かつ適正に処理されたことを認めましたので、
ここに報告いたします。

平成 16 年 5 月 20 日

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

監事

千葉県立御宿高等学校長

古山  印

日本女子体育大学体育学部附属二階堂高等学校長

氏家  印

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

平成 16 年度事業計画 (案)

期 日	活 動 内 容	備 考	
5 月 28 日 (金) 10:00～12:00	第 1 回 理事会 ●平成 16 年度事業計画案、予算案 ●平成 16・17 年度全国産業教育フェアについて ●徳島、三重大会について ●独立について ●役員選出について	第 1 回 学科主任等代表者会議 ●平成 16 年度学科主任代表者組織について ●研究協議会分科会について ●代表者組織の活動について	千代田区富士見区民館
5 月 28 日 (金) 13:00～16:00	理事・学科主任等代表者合同会議 ●理事会及び学科主任等代表者会報告		千代田区富士見区民館
7 月 21 日 (水) ～ 29 日 (木)	新産業技術等指導者養成講習 ●介護技術に関する講義と実技		日本福祉教育専門学校 (東京都豊島区高田)
7 月 26 日 (月) ～ 30 日 (金)	新産業技術等指導者養成講習 ●社会福祉援助技術に関する講義と実技		日本福祉教育専門学校 (東京都豊島区高田)
10 月 27 日 (水)	第 2 回 理事会・学科主任等代表者会議		会場：徳島県立小松島西高等学校・徳島県教育会館・徳島県郷土文化会館 講師：同志社大学教授 黒木 保博氏
10 月 28 日 (木)	徳島大会 第 1 日 (公開授業・基調講演・研究協議会等)		
10 月 29 日 (金)	徳島大会 第 2 日 (全体報告会・講演会・閉会行事等)		
10 月 29 日 (金) ～ 31 日 (日)	第 14 回全国産業教育フェア広島大会展示参加 (3 校)		広島県立総合体育館他
11 月 25 日 (木)	産業教育振興全国大会・産業教育 120 周年記念式典		国立オリンピック記念青少年総合センター
1 月 8 日 (土) ～ 9 日 (日)	第 6 回ソーシャルワーク実践教育研修講座における高校福祉部会の発表		日本女子大学 目白キャンパス
3 月 18 日 (金)	徳島大会報告書の刊行		800 部 各校 2 部配布

- 広 報 「福祉系高校ニュース」発行 (HP)
- 研 修 「社会福祉実習」指導参考書発行
- 調査統計 「全国福祉系高等学校福祉教育実態基礎調査」・「介護福祉士国家試験受験状況調査」

平成16年度
全国高等学校長協会家庭部会
福祉科高等学校長会会計予算(案)

収入総額 1,520,000円
支出総額 1,520,000円

1 収入の部

(単位：円)

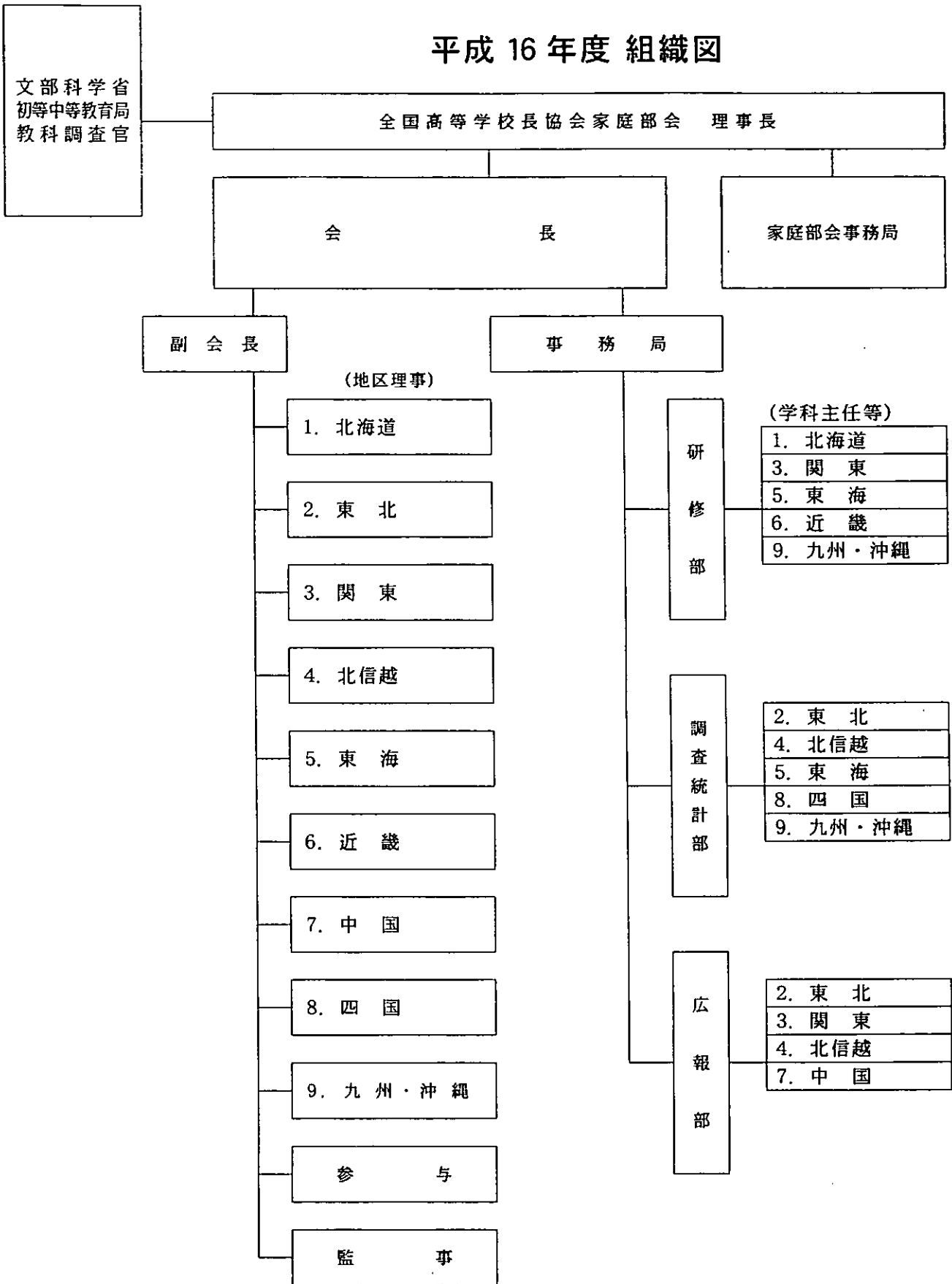
科 目	予 算 額	前年度予算額	比 較 増 減 額	摘 要
会 費	1,025,000	955,000	70,000	年会費5,000×205枚
繰 越 金	494,136	542,251	△ 48,115	平成15年度第1回理事会諸費用
雑 収 入	864	500	364	預金利息等
合 計	1,520,000	1,497,751	22,249	

2 支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	比 較 増 減 額	摘 要	
総務費	会 議 費	70,000	70,000	0	理事会会場費等
	印 刷 費	10,000	30,000	△ 20,000	
	旅 費	100,000	100,000	0	事務局一人分総会派遣費等
	通 信 費	400,000	100,000	300,000	電話・FAX料金・切手代等
	小 計	580,000	300,000	280,000	
事業費	報告書印刷費	400,000	400,000	0	A4版800部
	総会補助費	150,000	40,000	110,000	
	広報部補助費	50,000	60,000	△ 10,000	
	調査統計部補助費	50,000	60,000	△ 10,000	
	研修部補助費	100,000	60,000	40,000	社会福祉演習指導書約200部
	10周年記念事業費	60,000	0	60,000	記念品等
	雑 費	100,000	30,000	70,000	封筒印刷・事務用品代等
小 計	850,000	650,000	260,000		
予 備 費	30,000	547,751	△ 517,751		
合 計	1,520,000	1,497,751	22,249		

平成 16 年度 組織図



平成16年度加盟校

地区別・都道府県別数

地区	都道府県	小計	合計
1. 北海道	北海道	6	6
2. 東北	青森	3	25
	岩手	7	
	宮城	3	
	秋田	5	
	山形	3	
	福島	4	
3. 関東	茨城	3	32
	栃木	3	
	群馬	11	
	埼玉	2	
	千葉	5	
	東京	2	
	神奈川	6	
4. 北信越	新潟	5	17
	富山	4	
	石川	3	
	福井	2	
	山梨	2	
	長野	1	
5. 東海	岐阜	4	21
	静岡	7	
	愛知	4	
	三重	6	

地区	都道府県	小計	合計
6. 近畿	滋賀	4	18
	京都	2	
	大阪	4	
	兵庫	5	
	奈良	2	
	和歌山	1	
7. 中国	鳥取	0	19
	島根	5	
	岡山	7	
	広島	3	
8. 四国	山口	4	14
	徳島	3	
	香川	3	
	愛媛	5	
9. 九州沖縄	高知	3	58
	福岡	14	
	佐賀	5	
	長崎	1	
	熊本	9	
	大分	10	
	宮崎	6	
	鹿児島	11	
沖縄	2		
合計			210

過去11年の推移

	1. 北海道	2. 東北	3. 関東	4. 北信越	5. 東海	6. 近畿	7. 中国	8. 四国	9. 九州沖縄	全国
平成6年度	4	13	12	4	5	6	7	2	13	66
平成7年度	4	12	13	6	5	7	9	2	16	74
平成8年度	4	17	14	10	6	9	11	5	22	98
平成9年度	5	18	15	13	7	10	13	5	25	111
平成10年度	5	20	15	7	12	11	18	9	30	127
平成11年度	5	21	21	10	14	10	17	9	35	142
平成12年度	5	24	21	13	16	11	18	10	44	162
平成13年度	5	25	22	5	16	17	19	10	50	169
平成14年度	5	26	29	15	20	17	18	10	50	190
平成15年度	5	26	33	15	23	18	17	12	56	205
平成16年度	6	25	32	17	21	18	19	14	58	210

平成16年度 役員 (改訂版)

地区	役職	氏名	学校名 / 住所	都道府県	TEL / FAX
文部科学省 初等中等 教育局教科調査官		矢 幅 清 司	〒100 - 0005 千代田区丸の内2 - 5 - 1 7F	東京都	03-3519-8718 03-3519-8729
全国高等学校長協会 家庭部会理事長		上 田 有 宏	千葉県立佐倉東高等学校長 〒285 - 0017 千葉県佐倉市城内町 278	千葉県	043-484-1024 043-486-0995
全国高等学校長協会 家庭部会事務局長		小 島 和 雄	〒102 - 0071 千代田区富士見1 - 5 - 6	東京都	03-3261-0617 03-3288-1670

関 東	会 長	木 村 行 幸	(県) 松戸矢切高等学校	千葉県	047-363-0577
			〒271 - 0095 松戸市中矢切 54		047-363-0577

1. 北海道	理 事	奥 寺 仁 子	(道) 置戸高等学校	北海道	0157-52-3263
			〒099 - 1112 常呂郡置戸町字置戸 256 - 8		0157-52-3263
2. 東 北	副会長	高 橋 福太郎	(私) 東奥学園高等学校	青森県	017-775-2121
			〒030 - 0821 青森市勝田2 - 11 - 1		017-775-2137
3. 関 東	理 事	大 塚 専 司	(県) 不動岡誠和高等学校	埼玉県	048-561-6651
			〒348 - 0024 羽生市大字神戸 706		048-560-1051
4. 北信越	理 事	飯 島 彦太郎	(県) 上田千曲高等学校	長野県	0268-22-7070
			〒386 - 8585 上田市大字中之条 626		0268-23-5370
5. 東 海	理 事	辻 井 賢 隆	(県) 上野商業高等学校	三重県	0595-21-1900
			〒518 - 0833 上野市緑ヶ丘東町 920		0595-21-1923
	理 事	佐々木 信 雄	(県) 坂下高等学校	岐阜県	0573-75-2163
			〒509 - 9232 恵那郡坂下町 624 - 1		0573-75-4011
6. 近 畿	理 事	鈴 木 信 隆	(県) 榛原高等学校	奈良県	0745-82-0525
			〒633 - 0241 宇陀郡榛原町下井足 210		0745-82-7606
7. 中 国	理 事	山 田 忠 男	(県) 松江農林高等学校	島根県	0852-21-6772
			〒690 - 8507 松江市乃木福富町 51		0852-21-6796
8. 四 国	理 事	斉 藤 賢 一	(県) 飯山高等学校	香川県	0877-98-2525
			〒762 - 0083 綾歌郡飯山町下法軍寺 664 - 1		0877-98-2576
9 九州・沖縄	理 事	安 田 緑 一	(県) 野津高等学校	大分県	0974-32-2031
			〒875 - 0201 大野郡野津町大字野津市 537 - 1		0974-32-2119
	理 事	宇田川 泱	(県) 大村城南高等学校	長崎県	0957-54-3121
			〒856 - 0835 大村市久原 1 - 416		0957-27-3056

関 東	監 事	古 山 豊	(県) 御宿高等学校	千葉県	0470-68-2911
			〒299 - 5102 夷隅郡御宿町久保 1528		0470-68-6886
関 東	監 事	氏 家 武 彦	(私) 日本女子体育大学体育学部 附属二階堂高等学校	東京都	03-3322-9151
			〒156 - 0043 世田谷区松原 2 - 17 - 22		03-3322-9813

平成 16 年度

学科主任等代表者 組織分担表 (改訂版)

事務局:鈴木 恭太・井上 明佳 (千葉県立松戸矢切高等学校)					
	地区	氏名	公私	学校名	TEL FAX
				住所	
1 研修部 授業・指導書研究	5. 東海	校長部会 辻井 賢隆	公	上野商業高等学校	0595-21-1900
				三重県上野市緑ヶ丘東町 920	0595-21-1923
	5. 東海	○富井 恵子	公	上野商業高等学校	0595-21-1900
				三重県上野市緑ヶ丘東町 920	0595-21-1923
	3. 関東	◎佐藤 恵子	公	不動岡誠和高等学校	048-561-6651
				埼玉県羽生市大字神戸 706	048-560-1051
1. 北海道	前田 信治	公	置戸高等学校	0157-52-3263	
			北海道常呂郡置戸町字置戸 256-8	0157-52-3263	
6. 近畿	松本 美幸	公	榛原高等学校	0745-82-0525	
			奈良県宇陀郡榛原町下井足 210	0745-82-7606	
9. 九州 沖縄	下田 かおる	公	大村城南高等学校	0957-54-3121	
			長崎県大村市久原 1-416	0957-27-3056	
2 調査統計部 全国基礎調査	8. 四国	校長部会 斉藤 賢一	公	飯山高等学校	0877-98-2525
				香川県綾歌郡飯山町下法軍寺 664-1	0877-98-2576
	8. 四国	◎北村 文恵	公	飯山高等学校	0877-98-2525
				香川県綾歌郡飯山町下法軍寺 664-1	0877-98-2576
	5. 東海	○渡辺 美智子	公	大垣桜高等学校	0584-62-6131
				岐阜県安八郡墨俣町上宿 465-1	0584-62-5608
2. 東北	小川 義光	私	東奥学園高等学校	017-775-2121	
			青森県青森市 2-11-1	017-775-2137	
4. 北信越	水元 敏博	私	啓新高等学校	0776-23-3489	
			福井県福井市文京 4-15-1	0776-21-2922	
9. 九州 沖縄	南 富美子	公	野津高等学校	0974-32-2031	
			大分県大野郡野津町大字野津 537-1	0974-32-2119	
3 広報部 各校の近況・福祉情報	4. 北信越	校長部会 飯島彦太郎	公	上田千曲高等学校	0268-22-7070
				長野県上田市大字中之条 626	0268-23-5370
	4. 北信越	◎小林 逸元	公	上田千曲高等学校	0268-22-7070
				長野県上田市大字中之条 626	0268-23-5370
	2. 東北	○河野 春子	公	迫桜高等学校	0228-35-1818
				宮城県栗原郡若柳町川南戸ノ西 184	0228-35-1822
3. 関東	井上 明佳	公	松戸矢切高等学校	047-363-0577	
			千葉県松戸市中矢切 54	047-363-0577	
7. 中国	中倉 恵美子	公	松江農林高等学校	0852-21-6772	
			島根県松江市乃木福富町 51	0852-21-6796	

平成 10 年 5 月 28 日・全国福祉科学科主任代表者会議での確認事項

- (1) 学科主任代表者会議の中で分担する。
- (2) 担当者が異動となっても、担当校として遂行する。
- (3) 平成9年福井大会で、学科主任代表者会活動費が措置されたが、会議における出張等の費用は、各該当校で配慮をする。

総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会
会場地区一覧

ブロック		北海道 東北	関東 北信越	東海 近畿	中国 四国	九州 沖縄
回	年度					
1	平成7年度			静岡・ 三島高校		
2	平成8年度	北海道・ 釧路星園高校				
3	平成9年度		福井・ 大野東高校			
4	平成10年度					宮崎・ 門川農高校
5	平成11年度				岡山・ ベル学園高校	
6	平成12年度			兵庫・ 新宮高校		
7	平成13年度	岩手・ 一関第二高校				
8	平成14年度		茨城・ 古河第二高校			
9	平成15年度					大分・ 野津高校
10	平成16年度				徳島・ 小松島西高校	
11	平成17年度			三重・ 明野高校		
12	平成18年度	青森・ 東奥学園高校				
13	平成19年度		○			
14	平成20年度					○

総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会分科会分担一覧

地区		1	2	3	4	5	6	7	8	9
回	年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄
1	平成7年度			千葉・松戸矢切高	石川・田鶴浜高	静岡・三島高		岡山・岡山女子高		
2	平成8年度	北海道・釧路星園	青森・東奥学園高 岩手・一戸高							
3	平成9年度			千葉・松戸矢切高 神奈川・高浜高	石川・金沢伏見高			岡山・美作高 山口・久賀高		福岡・杉森女子高
4	平成10年度			茨城・八千代高 栃木・真岡北陵高		静岡・静岡女子高				沖縄・陽明高
5	平成11年度		山形・山辺高	千葉・御宿高		愛知・高浜高	京都・福知山淑徳高			
6	平成12年度		①青森・七戸高 ②福島・光南高	②茨城・古河第二 ③埼玉・不動岡誠和高		④三重・上野商高	①兵庫・日高高		③愛媛・北条高	④鹿児島・加治木女子高
7	平成13年度	①北海道・置戸	②岩手・西和賀高		③新潟・八海高	④愛知・古知野高				
8	平成14年度			①神奈川・市立川崎高			②和歌山・有田中央高	③岡山・倉敷中央高、美作高、広島・吉田高		④宮崎・高原高
9	平成15年度	④北海道・函館大妻	③秋田・合川高		②新潟・西川竹園					①熊本・阿蘇清峰
10	平成16年度			②群馬・新田暁高		③岐阜・大垣桜高	④滋賀・長高浜		①香川・尽誠学園高	
11	平成17年度		④宮城・村田高			①静岡・吉田高		②広島・黒瀬高		③大分・野津高
12	平成18年度	①			④		③		②	

* 分科会のテーマは次の4つとする。

①授業研究(主管地区校が担当する) ②現場実習 ③資格取得 ④進路指導

* 分科会のテーマは持続性を有するものとする。

報告事項 研修会の報告及び紹介

	研 修 名	会 場	期 日	主 催 者	問 い 合 わ せ 先
1	高等学校福祉教育 実践研究会 海外福祉研修	スウェーデン、デ ンマーク他	H16. 8. 2 ～8. 8	福祉科校長会	〒271-0095 千葉県松戸市中矢切 54 千葉県立松戸矢切高等学校 Tel 047-363-0577
2	新産業技術等指導 者養成講習 介護技術、社会福 祉援助技術)	日本福祉教育専門 学校	H16. 7. 21 ～7. 29 H16. 7. 26 ～7. 30	独立行政法人 教員研修 センター 福祉科校長会	〒160-0012 東京都新宿区南元町 23 Tel 03-5379-6730
3	第6回福祉教育研 修講座(ソーシャル ワーク実践教育 研修講座)改称)	日本女子大学目白 キャンパス	H17. 1. 8 ～1. 9	日本社会福祉 教育学校連盟	〒160-0008 東京都新宿区三栄町 8 番地 森山ビル西館501号 Tel 03-5366-5964 Fax 03-5366-5965 HP http://www.jass.jp/ E-mail info@jassw.jp
4	第34回全国社会福 祉教育セミナー テーマ「社会が求 めるソーシャル ワークの養成教 育」	福岡県総合福祉セ ンター「クロー バープラザ」	H16. 10. 23 ～10. 24	日本社会福祉 教育学校連盟	
5	日本社会福祉学会 (第52回大会) テーマ「社会福祉 学会研究50年の 総括と展望」	東洋大学	H16. 10. 9 ～10. 10	日本社会福祉 学 会	〒160-0008 東京都新宿区三栄町 8 番地 森山ビル西館501号 Tel 03-3356-7824 Fax 03-3358-2204 HP http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssw/ E-mail jsssw@jt2.so-net.ne.jp
6	日本地域福祉学会 (第18回大会) テーマ「地域福祉 の推進主体を考 える」～行政・社協・ NPO～	日本福祉大学	H16. 6. 12 ～6. 13	日本地域福祉 学 会	〒160-0008 東京都新宿区三栄町 8 番地森山 ビル西館501号 Tel 03-5363-1518 Fax 03-5363-1519 HP http://wwwsoc.nii.ac.jp/jracd/ E-mail chiiki-g@jt2.so.net.ne.jp
7	日本福祉教育・ポ ランティア学習学会 テーマ「福祉教 育・ボランティア 学習の価値と展 開」	神奈川県立保健福 祉大学	H16. 11. 27 ～11. 28	日本福祉教育・ ボランティア 学 習 学 会	〒160-0003 東京都新宿区本塩町 21 番地広瀬ビル 特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所内 Tel 03-3355-2473 Fax 03-3355-2330
8	日本介護学会第2 回大会	ひと・まち交流館 京都	H16. 12. 19	日本介護学会	〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1 - 22 - 13 西勘虎ノ門ビル 3 階 社団法人日本介護福祉士会医事務局 Tel 03-3507-0784 Fax 03-3507-8810 HP http://www.jaccw.or.jp/ E-mail webmaster@jaccw.or.jp

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

規 約

平成 7 年 10 月 12 日施行
平成 10 年 7 月 23 日改正
平成 11 年 10 月 21 日改正
平成 14 年 10 月 31 日改正
平成 15 年 10 月 30 日改正

(総 則)

第 1 条 本会は全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会と称する。

第 2 条 本会は全国高等学校長協会家庭部会の研究協議機関として、福祉教育の振興を図ることを目的とする。

(組 織)

第 3 条 本会は全国の福祉科（福祉科に準ずる）を置く高等学校の校長で組織する。

第 4 条 本会は次の地区を設ける。

- | | |
|----------|------------|
| 1, 北海道地区 | 6, 近畿地区 |
| 2, 東北地区 | 7, 中国地区 |
| 3, 関東地区 | 8, 四国地区 |
| 4, 北信越地区 | 9, 九州・沖縄地区 |
| 5, 東海地区 | |

(事 業)

第 5 条 本会の目的を達成するために年 1 回の総会・研究協議会を開催するほか、研究活動、広報活動等を行い、また学科主任の連絡、情報交換、研究協議等の事業を行う。

(役 員)

第 6 条 前条の事業を行うために本会に次の役員を置く。

- | | | | |
|--------|--------|--------|-----|
| 1, 会 長 | 1 名 | 4, 監 事 | 2 名 |
| 2, 副会長 | 1 名 | 5, 参 与 | 若干名 |
| 3, 理 事 | 各地区若干名 | | |

第 7 条 役員は理事会を構成し、本会の企画・運営に当たる。

第 8 条 役員の出選方法は次のとおりとする。

- 1, 理事は各地区ごとに総会で選出する。
- 2, 会長は理事の互選とする。
- 3, 監事は会長が委嘱する。
- 4, 副会長は会長が委嘱し理事を兼ねることができる。
- 5, 会長所属地区からは、新たに理事を選出できる。
- 6, 参与は会長が委嘱する。

第 9 条 役員の出選は 2 年とする。但し、再任は妨げない。

第 10 条 本会の事務局は会長高等学校に置く。

(会 計)

第 11 条 本会の経費は会員の会費で支弁する。

会費は年額 5,000 円とする。

(附 則)

この規約は平成 7 年 10 月 12 日から施行する。

欧州社会福祉研修報告

日程：2004年8月2日（月）～8月8日（日）

訪問都市：ストックホルム、コペンハーゲン

欧州社会福祉研修 報告

新潟県立八海高等学校 福祉科 小杉直美

日本社会福祉事業大学の橋本謙策先生、文部科学省の矢幅清司調査官と全国各地から集まった13名の合計15名で、2004年8月2日(月)～8月8日(日)7日間の日程でストックホルム・コペンハーゲンでの福祉研修に参加した。橋本先生からは、各国の状況説明や補足説明などを折りにふれてご説明をいただきました。

月 日 曜	概 要
8月2日(月)	23:05 ストックホルム着
8月3日(火)	10:00～12:00 “STOCKHOLM CITY HALL” ストックホルム市庁舎 訪問 福祉施策についてのレクチャー 担当: Ms. Margareta Holmberg 14:00～16:00 “Plitradets Service House” 高齢者サービスハウス訪問 担当: Ms. Eva Olsson
8月4日(水)	市内視察 バリアフリー街歩き
8月5日(木)	11:10 コペンハーゲン着 市内視察
8月6日(金)	9:30～11:45 コペンハーゲン市役所保健局訪問 担当: Ms. Ann Vivi Wessel 13:30～15:00 “Plekehjemmet Damsogard” 高齢者デイセンター 訪問 担当: Ms. Eva Anderasen Aeren
8月7日(土)	7:30 ホテル出発
8月8日(日)	8:45 東京着



“Plitradets Service House” 高齢者サービスハウス前にて

1 ストックホルム

(1) 概要説明

ストックホルムは14の島から成る国である。失業率はおよそ6.6%であり、景気が上昇しても職が増えない状況にある。企業の生産部門が外国に買われる現象も見られ、福祉にも大きな影響を与えている。社会福祉は県、国の役割である。

ストックホルム市議会は101議席があり、8人の代表から成る。4年の任期で市民に選挙される。議員は職業を持っている普通の労働者たちで、仕事を終えてから、夜に議会を行っている。

税金は非常に高いが、それが社会福祉関係の行政、高校までの教育などを支えている。全国のどこに住んでいても同じようなサービスが受けられる。

夫婦は名前を同一にしなくてもいい。一緒に住んでいれば夫婦とみなされる。専業主婦はほとんどいない。経済的にみな独立をしており、離婚率は65%程度である。子どももこのような環境で育っているのだから、離婚の環境下での生活に慣れている。子どもは週末だけ別れて住んでいる親に会いに行くということも多い。「私生児」という感覚はない。子どもはひとりの人間として扱われる。

(2) “STOCKHOLM CITY HALL” ストックホルム市庁舎 福祉施策についてのレクチャー
担当: Ms. Margareta Holmberg (市議会議員を1年程前に引退した女性)

ストックホルム市は昨年750年祭を行った。たくさんの島々から成る都市である。政権を野党がとろうが、ストックホルムの文化的な考え方は変わらない。

・人口

20歳以下は15万5千人、20～64歳は490万人、65歳以上は11万6千人である。退職は65歳で、65歳以上の人々はものすごい勢いで増加傾向にある。

・年間所得

男性は276000クローナ(1クローナ=約14.88円)、女性は189000クローナである。

・市の責任

市はソーシャルサービス、教育、住宅、老人福祉サービスなどを提供しなければならない。また、若者の時間外の活動、建築、環境、健康、ゴミ処理、救済事業、街を整然とさせることなども全て市の責任である。

・税制

世界一の高税の国と聞いていると思うが、そのとおりである。所得税は、県には12.27%、市には18.08%で、合計30.35%分が配分される。その他は国の財源となる。

所得税は30.35%である。収入が27万5千クローナ以上の者は他にさらに所得税を国に納めている。その他、何を買っても25%の税金がかかり、これも国の収入になる。品物、サービス全てにかかる。

ストックホルムの全収入は315億クローナであり、そのうちの68%を税金が占めている。315億クローナをどのように使うかが問題である。61%を18の行政区に分配する。各行政区には、約3万人の人が住んでいる。地方では一つの独立した市程度の人口である。

18行政区の一つひとつがいろいろな教育、福祉のこをを行う。住民にどれくらい託児所が必要か、老人のサービスをどのように提供する必要があるか、家庭への経済援助などはどのように行うかなどがゆだねられている。

・政治

4年おきに選挙をしている。どんなことを公約し、何を実践したかをはっきりと示さなくてはならない。101の議席がある。選挙後、約束したものをどのように作っていくのかを示す。

ストックホルムでは、市の中の4万6千人が公務員である。ストックホルムの76万人の住民が政治家が行ったことの価値評価をする。4年おきに政権をとる党が変わる状況にある。

スウェーデン市議会には、3人の議長がいるが会議の進行をするだけである。

地方に分けられてから、中心の市議会、政治家の役割は少し変わった。ガイドラインを示し、どこに住んでも同じようなサービスが受けられるように、各市が努力をしなくてはならない。市議会はデモクラシーが隅々まで行き渡るように指導している。

平等を実現するためにみんなが努力をしてやっている。肌の色が何色であろうと、宗教が何であろうと、何歳であろうと関係なく、すべて平等である。しかし、これを貫くことには難しさも伴う。

10年間、過去を振り返ってみると、平等の意識は十分に進歩したといえる。しかし、男女は同じ職種でも給料が違

う。

市議会や各行政部門において、プロのリーダー、指導者の養成が求められている。

・社会保障など

1997年から社会福祉サービス法に基づいたサービスが提供されている。身体障害者や老人の扱いは市で行われるようになった。県では年間480億クローナの収入があり、そのうちの74%が医療関連に使われている。国と県と市の役割が明確に分かれている。重なり合っではおらず、それぞれがはっきりと分かれている。

県が医療関連を担当し、国は健康保険や年金、失業保険、社会保険などを扱う。保険により、人生の様々な段階における、病気、身体障害などに対し、経済的援助を行い、安定した生活を送れるように支援している。

国の全体収入は7540億クローネである。そのうちの86%が税による収入である。国は赤字で世界市場からローンを借りている。全体の6%がそれにあたる。全体の58%が、国が社会保険に使うお金である。48%が老人問題にあてられる。年金も税金から出ている。

スウェーデンは何十年も景気が良かった。かつては、今の収入の80%が引退してから死ぬまでもらえるとして約束していた。しかし、年金をもらう人も増えており、経済成長も昔のようにはいかない。国会の年金システムにおいて、全人生の一番収入の高かったときの所得保障を考えていたが、今は一生の収入から割り出して年金を考えるようになった。年金の制度のものがわかりにくくなってきた。今の子どもたちの世代が年金をもらうようになったら、どうなっていくのだろうか。

身体障害をもつ方などに、どんなことを社会に要求する権利があるかをきちんと示していかななくてはならない。その一方でそれに応える経済力が十分でないという問題もある。

支援サービス法(LSS)が定められ、対象となる人々にどんな権利があるのか、情報を与える責任が市に課せられた。

産休は50日間であり、給料の80%はもらえて、休むことができる。父親も10日間同じ給料で休むことができる。子どもが生まれてから1年半は80%が保障されている。これは父、母、どちらがとっても同じである。人生のある時期において、父と子が接触する時間が十分にあることは非常に重要なことである。

国が出す児童手当は、子どもが18歳になるまで1000クローナ弱が現金で支給され、無税である。子どもは16歳まで病院に無料でかかることができ、学校における定期検診も行われている。また、18歳まで託児所を市が提供することも義務づけられている。2002年からは、託児所の料金が両親の収入の3%を超えることはないというように制度化された。

育休をとる男女の割合は、男性の方が収入が多く、ポストについていることも多いので、女性がとることが多い。しかし、何らかのかたちで30%の男性が利用している。街の中で、1人で乳母車をひいている男性、外で子どもと遊んでいる男性、おむつを替えている男性などを、たくさんみかけるようになった。15年前はこんなではなかった。大きく変化してきている。

「平等」ということは難しい。「権利」をもっていることを伝えるのは市の責任である。権利を自分で自覚し、行使するのは本人であり、それが自己決定につながる。

虐待という問題は、学校や家庭の中に存在している。いじめもある。また、社会問題として暴力の問題もある。92年の改革で精神病院が閉鎖されたことや、税金が高いので、両親が働いている家庭が多く、子どもたちだけで遊んでいる時間が多いことなどが、暴力の問題と何か関連があるのだろうか。

老人問題に関するガイドラインが示されている。老人が今、住んでいるところに希望の限り住めるようにし、そこで必要な援助、介護が受けられるようにしている。60%の老人は何の援助も受けていない。家族や友人の助けなどを得て暮らしている。老人が骨折し、治療が必要になった場合、昔はリハビリを病院で行っていたが、今は市に連絡するようになっている。市は5日以内に病院に老人を迎えに行かなくてはならない。市にはリハビリなど、必要な援助、介護を行う義務があるからである。全部を行うのは大変な部分もある。できる範囲で何を優先させるかを考え、できる範囲で経済的な援助をしている。

若い人の考え方が変わってきている。これは私たちの世代の責任である。私たちの年代の者がこの社会福祉を育ててきたが、若い人たちのこういうことに関する責任を育てなかったためだ。若い人たちが社会福祉の問題などにあまり興味を示さなくなってきた。

ストックホルムでは、1万5千人が何らかの介護を受けている。そのうちの10%は非常に重度の介護サービスである。

老人が非常に孤独であるという問題がある。社会全体がそれを感じているのだろうか。人に会わず、ずっと家で過ごしている方が多い。デイケアなどで人に会うことを保障していかななくてはならない。自分では生活できない方は、住まいを移すかたちで最終的な場所で生活する。サービスハウスなどが70年代頃に作られたが、現在はまた制度が変わり、

いろいろなかたちで対処している。

昔に比べると老人は今の方が孤独だと言えるだろう。子どもが海外に出ていることも多い。人生の終わりには特別なものが必要なのではないか。人生の最後は、尊厳をもって終わりたい。

価値判断をしっかりともち、変えることに恐れをなさずに、良い方向に変えつづけていくことが大切である。



<補足>

□社会サービス法 (S o L)

市民の社会的、経済的な保障を規定する法律。

□エーデル改革：1992年1月1日から、旧制度を全面的に改訂した新しい老人、障害者福祉医療制度が発足した。これをエーデル改革と呼んでいる。

この改革は、老人、障害者、福祉医療の経済的な責任を大幅に県から市に移したものである。その中でうたっている重要なことの一つに、市は老人、障害者に「それを必要としている人には適切な住宅を用意する義務を負う」というものがある。

<適切で良好な住宅を提供すること>がスウェーデンの老人、障害者福祉の一番の基礎となっているといえる。

エーデル改革により、県と市が行う、老人、障害者の医療と福祉の責任の境界をはっきりさせた。エーデル改革以降は、老人、障害者の福祉医療の経済的な責任を市が単独で行うことになった。県は、保健、病気の診察や治療、など医療関係の全面的な責任を持っており、国民に平等な保健医療を与えるのが責務である。(リーフレットより)

□支援サービス法 (L S S) (=『特定の機能障害者に対する援助およびサービスに関する法律』)

：ある種の機能障害を持つ人々への支援サービス法は1994年1月1日から適用されることになった。この新しい法律の意図は、重度の障害を持つ人々が、その障害にも関わらず、できる限り普通の生活を送れるようにすることである。(リーフレットより)

【感想】

高税とそれによって保証されているサービスの水準の高さ、政治に対する信頼感の強さを実感した。信頼できる政治がこの国の社会福祉を成立させ、現在も国民の高い関心のもとで維持されているのだと感じた。

Margaretaさんの「人生の終わりには特別なものが必要ではないか」という言葉が忘れられない。老人の孤独の問題について、老人自身がどんなときに孤独を感じているのか、どんな生活を望んでいるのだろうかと考えさせられた。1人で老後を生きていくこと、亡くなるまで1人で生きていくということは、高齢者にとってどのような意味をもつのだろうかということをしっかりと考えていかなければいけないと思った。

若い人の意識が変化してきており、これまでの社会福祉を築いてきた世代が、若者の関心を育ててこなかったことの責任だというお話が非常に重く心に響いた。国外に出て行く若者が多いことは高税の負担感によるところが大きいのだろうか。詳しい説明はなかったが、若者の価値観の変化がどのようなところから生まれ、それが今の社会福祉にどのような影響を与えているのか、知りたいと思った。また、今後の課題として若者の関心を育む社会福祉のあり方について考えていきたいと思った。

(3) “Plitradets Service House” 高齢者サービスハウス訪問

施設内は広く、家庭的な雰囲気である。玄関先から椅子に座ってくつろぐ入所者の方がいる。食堂やリハビリを行う

部屋など、カラフルで明るい飾りつけがされている。中庭は広々としており、柔らかい緑と色とりどりの花々が目を楽しませてくれる。庭に出ると小鳥のさえずりと緑の香りに落ち着いた時間を過ごすことができる。

花の絵やたくさんの絵の具、タペストリーなどが飾られたリハビリの部屋の様子から、作業療法士のもとでいろいろな活動をしていることがよくわかった。1週間の活動計画もはり出されていた。

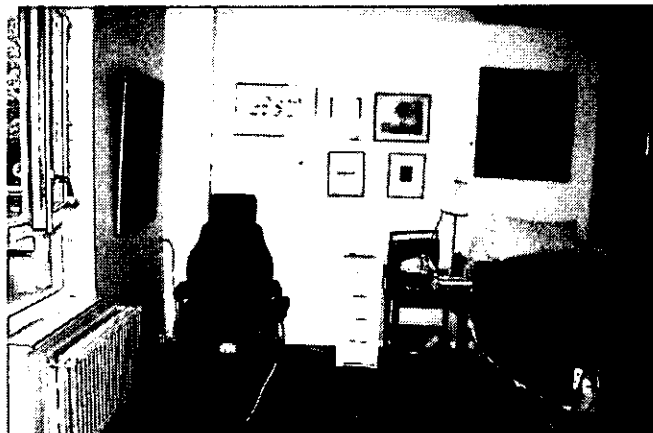
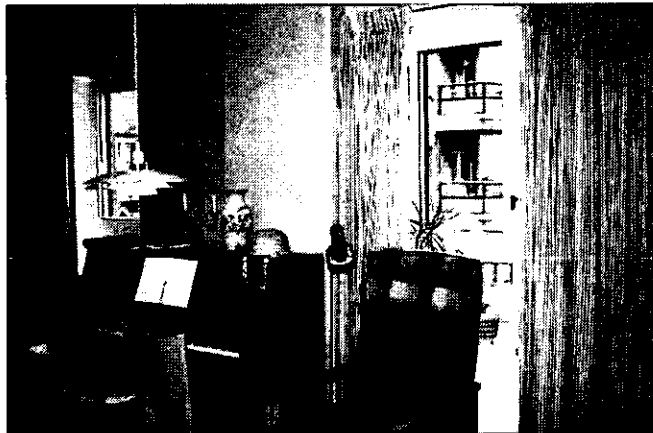
介護器具をたくさん展示してくれていた。車イスは個々に合わせて作られており、非常に使い勝手がよく、扱いやすい。リフトなどを活用して、介助者が無理に要介護者を抱えるなどということはしてはいけない。介護器具を活用して、負担を上手に軽減している。



ある方の居室を見学する。一番広い部屋であり、77㎡の広さがある。たくさんの書籍、使い慣れた家具、壁にあるすてきな絵と写真があり、サービスハウスの1室であるというより、個人の住宅にお邪魔したような感じがした。たくさんある家族の写真は、子どもさんのものや奥さんのものだった。子どもと離れて、写真とともに暮らすその方の思いを考えた。部屋はゆったりとしていて、そこでくつろぎながら自分の時間を大切に過ごしているその方の姿が目についた。生活の継続性を保つためにも、広い部屋で長年ともに暮らしてきた身の回りのものとともに暮らしていくことは非常に重要なことであると感じた。

庭に出ると、一人の女性が庭を見ながら車イスに座り、たたずんでいる。優しい目をした方だった。すてきなブローチをしている。作業療法で絵を描いたのだろうか。服の袖口にグリーンの絵の具がついている。そこを私が指差すと、微笑む。日本から持っていた何枚かの写真を見せると、“You?”と生徒の顔を指差し、穏やかに微笑みながら私の頬に触れた。ほんの数分間のことだったが、とても印象に残る出来事だった。

入所者の方の何人かは、私たち見学者がいるところに集まってくる。スカーフをまったり、イヤリングとネックレスをしたり、みんなひとりひとりがそれぞれにあったすてきな装いをしている。言葉は十分に通じなくても話しかけてきてくれる。人と接することが好きなんだろうなと感じた。



職員はゆったりとしていて、入所者とともに談笑したりしていた。業務に追われ、施設内を走っているなどという光景は目にしなかった。

職員は高卒の者が中心である。高校に介護の専門職に就くためのコースがある。

大勢の人が住む集合住宅であるため、医者にかかりやすい。痴呆の人のために定期的に医者が巡回している。独立した115のアパートから成っている。126名くらいの入居者がいる。夫婦もいる。介護サービスが必要でない人から、24時間の介護が必要な方までが暮らしている。

ここに入りたいと言っている人は、市の判定員の対応になるので細かい状況は把握していない。しかし、1984年にできて以来、人気がある施設である。長い待機者のリストがあるのではないかと。できて20年になる。115の居室をもつ大きなアパートである。美容院やフットケアの設備が整っている。かつては市直営であったが、今日では全てが市からの委託であり、市の指導でやっている。市の職員の方にも1年間の時間を与え、この仕事をやってもよいという条件を出したら、3人は市に戻ったが、あとは全て残って働いている。

ハンドマッサージや手の訓練も行っている。ものをつかむ練習やリウマチの温めるケアなどを行っている。足の治療に

においては特別な技術を有する職業がある。糖尿病では血液循環が悪くなるので、悪化して切断するかたちにならないように早期発見するためにも足の治療は重要である。

老人の中には頑固で一切サービスはいらない、とい人もいる。そういう人にサービスは提供できない。しかし、その人と接して少しずつ関係を築き、サービスを受けてもらえるように努力はする。

今後の課題としては、これからは国の施策でこのような建物がもう建たなくなることが挙げられる。自分としては個人的には、このようなかたちが一番よいと思っているが、お金がかかる。個人でお金を払って入ってもらっている。今後、もう建たない。独立した住宅であり、かつ24時間の対応ができる。これは本人にも家族にとっても一番よいかたちではないか。しかし、市はだんだんお金がなくなってきている。残念である。24時間職員がいるし、24時間トイレの水を流さないでいると警報が鳴る仕組みになっているので安心感が高い。

痴呆棟には、痴呆の病気や反応等について、専門的なコースで学んだ者が勤務している。グループで過ごしていて、暴力的になってあまりに対応が困難になるというようなケースはほとんどない。

所長やマネージャーになる資格は、求められる資質というものがある。社会学などを大学で学んだ者が多い。その後に見護や心理学などを積み重ねて学ぶ者もいる。

115のアパートには12、3人豊唾の人がいる。大人になってからの失聴が多い。手話が完全にできる職員は2、3人いる。簡単なものはみんなが勉強している。

スウェーデンは福祉の先進国と言われるが、若い人たちにとって福祉の仕事は魅力ある仕事なのかということに対しては、「今の福祉は1940年代以降、努力してきた年代が懸命に築き上げてきたものである。だから、それだけ要求も強いと思う。国民の20%は移民である。若い人を引きつけることは決して容易ではない」というお話があった。給料にもたくさん税金がかかる。給料は月に15,000~16,000クローナである。うちのおよそ30%は税金である。ボーナスはなく、食費などもとても高いとのことであった。

【感想】

何人かの利用者は、大勢の見学者であわただしい雰囲気になった部屋を訪れ、しばらくそこで時間を過ごしていった。ある女性は、はにかみながら日本からのプレゼントを袋から出し、わざわざ私にも見せてくれた。言葉も通じない、突然訪れた大勢の見学者を快く迎え、やさしく迎え入れてくれるあたたかさを感じた。そして、そう感じてしまうことは失礼なことかもしれないが、この方たちはもっと人と一緒に過ごしたいと思っているのではないかと感じた。

「孤独」という言葉の意味を考えた。自己決定という考えのもとで求められる本人の主体性と自分で人生を歩むという姿勢。時にはそれを信頼できる誰かにゆだねてしまいたいときもあるのではないかと。1人で過ごしている時間はどんなものなのだろうか、今、あの人たちはどんな気持ちで今を生活しているのだろうかと今も時々考えている。話したいときに話せる誰かがそこに自然にいること、それは人にとって大切なことであるように思えた。

2 コペンハーゲン

(1) 概要説明

<大橋謙策先生のご説明>

1974年 生活支援法 包括的にいろいろな法律が整理された

1998年 社会サービス法実施 年金、不服申し立て制度などが定められた。より条件にあった、QOLを大切にしたいサービスを保障した。

所得保障は1930年代という非常に早い時期から整備されてきている。日本の場合は1961年に皆年金体制が整った。

ノーマライゼーションを提唱したバンク・ミケルセンは日本で言われているほどには知られていないかもしれない。ナチスドイツの抵抗運動でつかまった経験を持ち、自由という歴史の中で花開いた理念である。ある日突然、誰かが言った、というようなものではない。

連帯の精神はどこからくるのだろうか。ルター派ということで、デンマーク人は非常に勤勉である。また、農民同盟を中心として農閑期に学習を重ね、生涯学習が発達してきたという土壌があるのではないかと。資本主義経済の発展の中で農民の成長があったのではないかと。

プライエムの居室は住宅扱いである。昼食、おやつが何回出されたなど、一人ひとりの細かい明細書がある。これを見るといかに個人を丁寧にみているのかわかる。一人ひとりに合わせたサービスがきちんと行われている。そのようなサービスのためにはアセスメントが必要である。日本の介護保険施行前に、日本のアセスメントシートを見てもらったら、「何でこんなに詳しいことを聞くのか。くだらないことをしているんだ？」と言う答えがあったそうだ。

住民参加がとても進んでいる。そして、住民には制度などをいい方向に直していく力がある。だから行政側で一律に

しなくてもいい。

コミュニエの中の高齢者を訪問する仕組みがある。高齢者を孤立させないことが大切である。自分の選択を尊重し、年に何回か職員が訪問し、コンタクトを取る機会をもっている。

社会福祉の発達、税金の開発が進んでいる。フランスでは封建制に対する市民革命というものが大切な概念である。博愛という、この世に生きとし生ける者が全て自由であり平等であるとし、公の救済を行うことを掲げた。自分が働いたものが戻ってくるのは当たり前と思っても、見ず知らずの人を支えるために自分のお金が使われるということに対しては高い倫理性が問われる。デンマークでは、自分達で連帯し、社会をよくしていこうという運動が根付いている。

知的障害者の権利の問題は、レジスタンスだけでは説明できない。社会福祉は思想の問題でもある。制度のみを知り、学んでいくだけではいけない。人の生き方や社会のあり方、すなわち文化と深くつながりあっている。制度だけを学ぶ、他の人のために何かをしてあげるといったことだけでは弱い。

日本には見返り文化がある。冠婚葬祭などがそうだ。しかしながら、見ず知らずのために責務を果たすという考えはあまりない。スウェーデンでは世代間の開きが出ているということだったが、デンマークではそれが守られている。どう理解するかは難しい。日本でも農民運動があり、仏教を信仰している。なぜ北欧だけが社会福祉がこのように育ったのか。キリスト教の博愛の精神はどの国でも知られているはずなのになぜ北欧だけなのかは不明である。

<ガイドの方のお話より>

“コミュニエ”という言葉が説明の中にたくさん出てくると思う。1970年代から合併の動きが始まり、1900以上だったのが、275の自治体にまとめられた。中央集権から分権化されてきている。14の県を2007年から5つの県の実施に踏み切るということである。人口は小さいところでは4000人くらいであり、コペンハーゲンには50万人である。地域格差が大きく、福祉行政がしにくい側面がある。1自治体、35000人をめどとして合併しようとしている。

“プライエム”は日本でいう特別養護老人ホームであるが、異なっている部分もある。

1933年 公共福祉法 失業保険や労災保険などについて定めた

1976年 社会支援法 障害者、高齢者、児童、家庭などを含む

1988年 社会サービス法 主な目的は社会的弱者となった成年の復帰。“高齢者福祉”というようにひとくりにしないで個々の状況に合わせたサービスを行う。行政の透明化を行い、障害者が快適な生活を送れることを社会全体の責任とする。

デンマーク人は、障害者の快適な生活保障を社会全体の責任とするということをいつも強く思っている。この考え方がどこからくるのだろうか、と思う。宗教的なものなのか、歴史からくるものなのか。どこからこの精神が養われてくるのか不思議である。

知的障害者に対しては、子どもの成長につれて必要なサポートが保障されている。住宅の改築や、おむつ・車イスなど成長に合わせてサイズを換えていく。一人ひとりの状態や条件、要求に合わせたサービスを行っている。その人に作業療法士が付き添い、補助器具の支給が行われる。

リハビリや訓練については、高齢者に対するものとしてはリハビリと維持機能訓練の2つに分けられる。

障害者が雇用者となり、ヘルパーの給料を自治体が出すというかたちになっている。

筋ジス協会のクローさんは、「障害者は車イスに座って福祉サービスを受けるだけではない。立ち上がって、サービスを利用しなければならない」と述べている。彼は障害者が利用しやすいホテルを建築したり、年一回“グリーンコンサート”というロックコンサートを開催したりしている。

義務教育は全員無料で行われている。心身障害児に対しては、特別な保育所、養護学校、普通の学校の三つが用意されている。近所に動かせるのは唇だけという脳性麻痺のお子さんがいるお宅がある。電動車イスで国民学校へ行き、サポーターが2人ついて学んでいた。その後、普通高校へ進学し、大学に行ったようだ。サポーターがついて、普通学校に進学することができるという制度が整っている。

1988年から年に2回、自治体が高齢者を対象に家庭訪問を実施している。自由な家庭訪問であり、“No!”と言われれば強制はできない。1人住まいであったり、痴呆があったりする方などは、そのような訪問で介護の欠陥が発見されることもある。評判がよい。地方自治体は「こういうサービスがあるので参加してください」と啓蒙する家庭訪問を実施している。そして、医師や社会福祉課へ連絡をとるといった形態も持っている。介護士やヘルパー、ソーシャルワーカー、自治体によっては看護師などが訪問している。

家族と住んでいる高齢者はいない。ユトランドの方の農家には一緒に住んでいるところもある。しかし、それは同じ家にはではなく、別の棟で暮らしている。この20数年間の間に、家の1階と2階に暮らしているという家族に一度出会っただけである。高齢者は、プライドが高く、「子どもは18歳で自立する」、「子どもは子どもであり、親は親である」という精神を持っている。しかし別々に暮らしているからといって、家族の絆が弱いからというわけではない。親が高

齢になってプライエムで生活していて、家族が会いに行かない家もある。毎朝、電話を欠かさない家族、毎日会いに行く家族もある。親、子それぞれが自立しているため、家族の絆も強い。行事のために集まり、祝う家庭が多い。

プライエムは、自由と介護を保障している。最低で65㎡の広さを持ち、寝室、居間、バスルームを完備し、他に共同の居間などがある。食事が何回、洗剤をどれくらい使用したかなど非常に細かく把握し、銀行の口座から引き落とすようになっている。極め細やかなアドミニストレーションは職員にとっては負担であるが、必要なものである。おしなべて1000クローナ（2万円）くらいは純粋なお小遣いとして残る。67歳になったとき、年金は17万円くらい支給され、家賃として8～9万円分を支払っても1000クローナくらいは誰のものにも残るような生活である。

デンマークの年金は誰もが一律である。主婦はほとんどいないが、主婦であっても、企業で働いて高額な所得をもらっている者であっても、年金は一律である。全てが一律であるという民主主義が徹底している。ずっと働いてきた人と主婦が同一の給付であるということに不服はないかということについては、デンマーク人はそのようなことが当たり前だととらえているため、不満をいうことはないとのことだった。税金は高いが、自分の身に何か起こったときにそれが使われるということなので、決して高くはない。みんなが健康であれば、所得税50%というのは高いと思うかもしれない。しかし事故が起こっても最後の安心感がある。精神的に楽である。北欧では最低の安全網がしかれている。だからみんな穏やかで落ち着いている。

デンマークでも社会の様子は変化してきている。ヘルパー派遣は現在、無料であるが、あと10年後にはそれはできないだろうと言われている。高齢者が自己負担をしながらサービスを利用することに対してそれでもいいと言っただろうか。

学校において、できない子をカバーしよう、落ちこぼれる子が出ないようにしなうという姿勢が強く見られる。その一方で、優秀な子が放っておかれるという現象が起こっていて、エリートな子を大切にしないとデンマークが駄目になるという考え方も出てきている。エリート校が母親の力によって作られている。デンマークも少しずつ変わってきている。

(2) コペンハーゲン市役所保健局訪問

担当：Ms. Ann Vivi Wessel

長い間、市の事務局に勤務し、4年前からワンダフルコペンハーゲンにて勤務。世界各国から研修者を受け入れてきている。市が行政で忙しいのでそこから委託をされているかたちになる。

私は25年間、日本との協力で社会福祉のセクターの仕事をしてきた。デンマークの社会福祉をいかに日本の文化の中に取り込めるかに協力して25年間やってきた。毎年、日本から3000～4000人の研修者に対して、デンマークの社会福祉施設について説明をしている。詳細まではなかなか説明できないが、概要をお話したい。

デンマークはよい福祉国家である。環境もよい。常に政策をよりよく改良していつている。

デンマークには530万人が生活しており、コペンハーゲンは人口50万人である。コペンハーゲンは首都であり、県であり、市でもある。特殊な行政組織をもっている。

国会が4年に1度、立法の機関を実施している。社会の中で国民が安心して暮らせるような政策をとっており、政府が変わっても根本的な姿勢に変わりはない。

国の法律は概要的であり、その枠をいかに埋めるかが、県や市町村にゆだねられている。国の下に14の県、275の市町村がある。小国なので、国、県、自治体という三つのレベルの協力が不可欠である。県は病院、保健を取り扱い、自治体は高齢者福祉や児童・家庭福祉、学校などをその責任管轄としている。

日本とデンマークとの文化の違いがある。税率は平均で52%であり、デンマーク人はそれに満足している。この税率は決定に際して国民が積極的に参加しており、国民は払った税金が何に使われているのを知っているし、税金の使い道に納得している。社会福祉や医療、学校、高速道路の使用などが全て無料である。

私たちは選んだ政治家を非常に信頼している。その人たちが国民と親しく話をする機会をもっている。高齢者になったとき、どのようにして福祉を行ってもらいたいのか活発に話し合っている。そして、それを国会にもちかえり、立法案としている。

社会福祉法は150年前に貧民救済法によってスタートした。150年間の間、いろいろな福祉法を掲げてきた。社会の変遷によってデンマーク人は法規を変えてきた。1970年の大きな改革で、可能な限り在宅生活をすすめることをあげた。その人の事情に合わせた介護を提供できるように変わった。

出生率は1.8で上昇傾向にある。

高齢化率は常に現在の状態を保っている。予測をしたうえでのことなので、突然の少子化、高齢化に驚くということはない。現在は65歳以上の高齢者の率は人口の15%であるが、15～20年後には上昇するだろうと考えられている。出生率、高齢化率ともに上昇するだろうと予測し、それに向けての準備をしているので上昇に驚くというようなこ

とはない。

日本とデンマークでは文化の違いがある。各世代が独立して暮らしている。我々には両親の養育義務はない。子どもは18歳まで養育義務があるが、それ以降は独立している。

女性は第2次世界大戦後、労働進出が進み、75%以上が仕事をもっている。その間、子どもをケアする人、高齢者をケアする職員が必要になってきている。

1972年に可能な限り在宅での生活を送るような方向性になり、高齢者の生活も変わった。介護士、看護師などから高齢者が自分にとって住みなれた環境で介護を受けることが非常にプラスになっている。また、それと同時に古いプライエムも改築している。今も、改築、新築が進んでいる。法的な規定があり、基本的には寝室、リビングルームの3部屋が保障される。寝室やバスルームはバリアフリーになっている。

デンマークでは、公共の経済基盤の上に、すべての人の生まれてから死ぬまでの間の健康保障が行われている。具体的には入院、手術、治療、投薬、ケア全てが無料である。また、非常に入院期間が短い。退院後、直ちに在宅やプライエムにおいて24時間のケアがスタートする。デンマークには寝たきり老人がいない。どのような高齢者も、手術後、起きて血行をよくするために何らかの動きをしている。病気で寝ていなくてははいけないなどの医師の指示がない限り、起きている。

家庭医という特色ある制度がある。ほとんどがそこで病気を治す。市民1200~1500人を自分の患者としてもつことを許されている。家庭医のもとでほとんどの病気が治療されるため、医師は内科、外科、小児科、老人病科の4つを全て自分の専門としてもっていなくてはならない。家庭医からは無料で診療が受けられ、処方箋を薬局に持っていく。自分の手におえない場合は、専門医に推薦状を書いてもらい、そこでも無料で治療を受けることができる。

デンマークでは一世代しか一緒に暮らしていないが、生活の基盤となるのは家族である。普通の家族は両親と2人くらいの子どものみである。その両親は、働いている間、自分の親のケアと子どものケアが必要になる。児童に関する施設（幼稚園、保育所、学童保育）は全て同じ内容で同じクオリティのものを提供することが決まっている。

デンマークでは、可能な限り長く子どもでいさせようという考え方がある。幼稚園では、遊びを重んじ、読み書きは教えない。人としての成長を大切にしている。遊びの中でも互いのことを思い合うこと、自分のしたことに責任をもつことなどを教えている。6歳からは幼稚園クラスに行き、1年生に上がるための準備教育が行われる。その後、9年間の義務教育が行われる。デンマークの子どもは自分の希望、才能を考えて進路を決定する。親が指示するなどということはない。大学に行ったからいい、行かないから悪いというような価値観はない。自分で進路を決定するので、満足した社会人ができると考えられている。青年は18歳で家を出て独立する。国からの奨学金は、自宅で暮らしている場合はおよそ8万円、寮で生活している場合はおよそ10万円支給される。1人で生活できない場合はアルバイトをしたり、うちから支援を受けたりしている。



<質疑応答>

- Q 子どもが自分の進路について決定することはできるのか。日本では子どもたちが精神的に幼いため、難しい。
- A デンマークでは子どもたちが自分で決めることができる。できない子どももわずかいるが、学習相談役が支援する。1年間に8~14日、企業に実習に行き、実際に見て、やってみるという体験をしていることもある。また、1年間に1回行われる、教育展示会の効果も大きい。
- Q 入学後、普通高校と専門高校とで学校を変えるようなケースはないか。
- A ほとんどの子が自分で確信してくる。大きく変える子はいないが、変えることはできる。人文系と理数系の変更もある。定員があるが、年齢制限はない。
- Q 幼児教育において、遊ぶことや情操教育を大切にしているということだったが、小学校以降のカリキュラムで福祉教育的な内容は入っているか。

A 福祉教育としては入っていない。国語、社会などの教科の中に組み込まれている。歴史についても同様で、王室を誇りに思う気持ちなどを今から次の世代に伝えていくようにしている。教育全般の中に浸透させていくようにしている。何か問題があれば、先生はすぐに取り上げて、クラスで話し合うようにしている。父母の会や親の会があり、いじめなどについてホームルームの時間に話し合っただけで欲しいなどと要望を挙げている。個人の尊重を大切に考えている。保育園から自分の言葉で自分の考えを言えるようにしている。子どもたちは自分で考えることが上手である。15歳になって突然考えるわけではない。

親と子のコミュニケーションが大切である。“なぜ僕は手を洗わなくちゃいけないの？”という問いに対しては“ばい菌がついて汚いからよ”などと答えるが、“なぜ信号が青のときに渡るの？”ということに対しては、“なぜだと思う？”というように答える。このようなバランスが大切だと思う。

デンマークでは、数年前まで厳しい規制がたくさんあった。自由にして子どもにたくさん考えさせようとしてきた結果、よい教育結果が出たのだと思われる。ただ子どもに“自由に考えなさい”だけではない。“これはしてはいけない”とストップをかけることも大切である。個人的にデンマークの子どもたちはあまりにも自由すぎるとも感じる。

高校に進学する者の50～60%が普通高校に進学している。専門高校は工業などでクオリティは高い。少数名は何をしただけいいのかかわからないという子どももいるが、1%以下だろう。

Q 教育展示会について

A 民間の企業や公共の組織団体、警察署や消防署などがメッセ式に展開する。エンジニアの会社であれば、そのためにどんな教育が必要であるか、会社が求めているものなどを示す。国民学校の中2から中3の段階で体験実習を行う。

Q 一人ひとりが独立した意識をもっているということだが、1クラス何人定員か？

A 1クラス20～28人。28人が定員である。

Q 高齢者に対する高校生のイメージは？

A みんな祖父母をもっている。感情は自然であり、嫌だなどマイナスの感情はない。むしろプラスの感情だろう。若い頃にどんなことがあったのかを聞きたいと思うだろう。病気になるれば、両親の代わりに看るなどということもある。母親より祖母の方が話しやすいという子どももいる。

Q 税制に対する国民の考え方と世代間のギャップについて

A 50～60年代の世代は自分たちの税金で自分たちのデンマークを成長させてきたという意識が強い。若い人たちも高い税率を維持したいと考えているようだ。若い人の考え方をこちらにも常に気にしているが、常に落ち着いたものである。ギャップは特になさそうだ。税率は自分たちで決定しようということ、政治家を国民が決定している。

Q 国民の老後のイメージは？

A 社会福祉は一つのサークルである高税に対して何か見返りがあり、それがひとつに溶け合う。怖いとは思っていない。何らかのことがあれば、国が支援してくれる。学校で得た知識がその考え方を支えている。病気でないのに病院に行く、など乱用することはいけない。自助も必要である。必要としている人に対する福祉のサービスがあることは信頼している。

Q 平均的な年収は？

A 義務教育のみだと20万クローナ（およそ400万円）から25万クローナ（およそ500万円）である。男女の差はない。均等参画法により全く同じになった。

Q 平均入院日数は？

A 5～7日であり、これが医療費を下げている。かかりつけ医制度による。

コペンハーゲンには15のソーシャルセンターがある。職員は専門教育を受けた公共の職員である。高齢者だけでなく、家族などに関するものも取り扱う。地区の人口によるが、1センターあたりに職員は60～120人いる。コペンハーゲン市に限っては、医療、プライエム、保育園などに関わり約5万人が福祉関係の仕事をしている。

Q 結婚の形態、コンプレックスファミリーについて

A 児童虐待はあるが、大きな問題にはなっていない。違う言語を話す家族もあるが、虐待などの原因にはなっていない。

Q 専門教育を受けた職員はどこで養成するのか？

A コペンハーゲンの自治体がそういう学校をもっている。かたちとしては自治体に就職するかたちとなり、給料をもらいながら学生として学ぶこともできる。生涯学習で行ったり来たりできる。上にあるのではなく、横に

ある教育である。1～2年で法律を身につけ、ケースワーカーの仕事しながらそういう教育を受けることができる。

Q 障害者の授産所が1990年代末には閉鎖されているということを知ったが、その後の動向は？

A 数としては変わっていない。デンマークでは障害者の数を登録することは差別になるので、そうしていない。授産所がディセンターに切り替わったか、働くということをあまり強く言わなくなったためではないか。ディセンターになったのは、自宅に住む障害者が増えたからではないか。年金が充実しているから働かないで楽しんだ方がいいというように考え方はない。障害者年金はそんなにいいものではない。障害の度合いによって違う。一人ひとりの生活形態に合わせた複雑な仕組みになっている。

Q 北欧で福祉が発達したのは？

A わからない。気候、文化、人生の考え方などによるのか。南ヨーロッパでは自分たちの親を看たいという気持ちが強いようだし、ドイツでは介護保険を成立させた。社会を築いている文化によるのではないか。

Q ボランティアは？

A プライエムの庭の手入れをしたり、部屋に行って話をしたりする活動がある。“訪問の友”という赤十字の活動がある。浮浪者や麻薬依存などの人の話し相手になる。

Q 日本では寝たきりの高齢者を起こせばいいという考えがある。起きた後の生活支援についてはどうか。

A 職員0.9人に対して1人の利用者という体制である。ほぼ1対1なので、要求に応じた、事情に合わせた対応ができています。新聞によると、EU15カ国の国民を対象とした調査で、老後をどこで過ごしたいかという問いに対して98%がデンマークと答えたということである。“プライエムに入りたい”ということも本人が決心し、初めから最後までを自分で決める。

【感想】

教育のあり方がとても魅力的だと感じた。「考える力」をもつこととお互いに支え合うことを大切にすることで、人として本当に豊かに生きていくことができるような気がした。そしてそこから自分の生活や社会で暮らす自分以外の人々への思いが育っていくのではないかと思った。見学をした日は金曜日で、学校は1時、2、3時には仕事も終わると言うことだった。明るい空の下で、自転車に乗り、友達同士で楽しそうにはしゃいでいる小学生の姿、自転車で帰宅途中のたくさんの人たちの姿を目にした。ゆったりと時間を大切に過ごしていることがすてきだと思った。豊かな学校教育が制度の成熟と社会の変化に対応した新しいものを常に考え生み出していく柔軟な姿勢を生み出しているのではないだろうか。

社会がもしものときの生活の保障をしてくれる信頼できるものであることは非常に大切なことで、穏やかに生きていく上で欠かせないものだと感じた。多額の税金を支払うことにより、自分たちの生活が手厚く守られ、自分以外の誰かの暮らしも保障してくれるということは、デンマークの人々にとって誇りであるのかもしれない。日本で暮らす私たちの中にその感覚があるだろうか。自分のお金が自分のために使われることは当たり前で、誰かのために使われることに対する抵抗感は強まってきているのではないだろうか。ボランティア活動の普及、“バリアフリー”などの言葉の浸透が見られる一方では、本来その前提となるべく、社会の中のセーフティネットなどに対する価値観があまりに希薄なものであるように感じた。

教育や社会のあり方など、沢山学ばなければならないことがあることを感じると同時に、今の日本について様々な角度からじっくりとみつめ捉えることも非常に大切なことであるということを確認した。

(3) “Pleje hjemmet Damsogard” 高齢者ディセンター 訪問

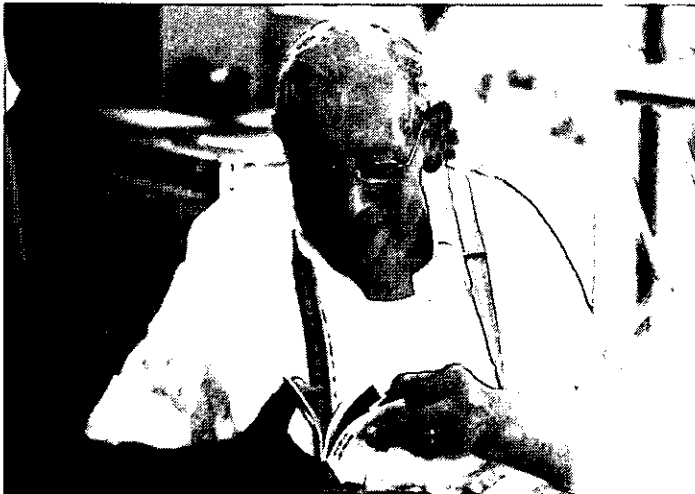
担当: Ms. Eva Anderasen Aeren

たくさん見学者が訪れたホールには、テーブルにて花の絵を描いているある1人の高齢者がいた。少し驚いた様子の彼は、職員に“僕はここにいてもいいの？”と尋ねたそうだ。それに対して職員は、“それはあなたが決めればいいことよ”と答えていた。そして、彼はごく自然にそのままそこにとどまって絵を描くことに没頭していた。訪問はそんな印象的な光景から始まった。

このプライエムは1974年に設立された、定員36名の施設であり、ショートステイは2部屋ある。職員はフルタイムで50人が勤務している。看護師3名、介護士15名、他にプライエムアシスタント、准看護師、介護職、事務、台所の担当などである。利用者は60代半ばから101歳までいる。毎日のプログラムは、トレーニング、体操、遠足、音楽、回想などみんなが違うプログラムを行っている。トレーニングは、維持トレーニングであり、リハビリではない。トレーニングの専門家がくる。常に実習生がいる。介護士養成校、介護助手、看護師などの学校の生徒たちである。

<質疑応答>

- Q 小中学校との子どもとの交流の機会はあるか？小学校がすぐ隣にあつたが。
- A 決まりきったプログラムというものはない。
- Q たくさんのすてきな作品が展示されている。教えているのはどんな人なのか。
- A 作業療法士のかわりに「活動支援員」という専門の資格がある。そのスタッフとここの職員が担当している。「活動支援員」は古い時代の仕事なので今はない。養成校学生のプログラムの中にはそのような内容が入っている。
- Q 実習生の指導体制について
- A 実習生3人がきているが、3つのユニットに各1人ずつの実習生を入れている。地域指導者として、地域に入っている実習生を見ているスタッフがいる。実習内容は段階ごとに内容が区別されている。介護士であれば、2カ月プライエムで、4ヶ月病院で、4ヶ月精神病棟で、2カ月プライエムでというような組み立てになっている。介護助手であれば、2週間のオリエンテーション実習、6ヶ月の実習、教室学習と4ヶ月の実習というような形態である。
- Q 介護士や看護師は若い人たちがなりたい仕事であるか。
- A リクルートするのが難しい。看護師や介護士の学校は増えている。エンジニアや商業系は少し落ちている。
- Q このプライエムで心がけていること、職員が大切にしていることは？
- A 非常に活動が多い。協力しあっていてハーモニーがよい。暮らしやすいようにこころがけている。
- Q 痴呆とそうでない人は一緒に利用しているのか。
- A 一緒に暮らしている。程度もいろいろであるが、よっぽど危害を加えるなどということがないかぎり、一緒に暮らしている。2%くらいは重度の痴呆である。
- Q デイセンターにはどれくらいの距離から人々が来ているか。
- A ほとんどが周辺である。最大で1時間くらいの距離から通っている。



<感想>

一歩足を踏み入れた瞬間に、その明るい華やかな雰囲気包まれた。中庭に面したテラスには多くの人々が出て椅子に腰掛けたり、ブランコに揺られたりしている。夏の日差しを浴びて、語らい合い、笑顔がはじけていた。その明るさと、合間にうかがえるゆっくりと人生を歩んでいく静かな姿があった。ただ寝かせきりにしないために高齢者を起こすのではなく、起こした後には利用者一人ひとりが自分の時間を穏やかに過ごしている様子がうかがえた。

見学中に、微笑みながら手招きをして部屋に入れてくれた女性がいた。80代くらいの方だった。そこはまるで、その人がずっと暮らしてきた家のように、長年暮らしてきた家庭と今の生活とがしっかりと結びれていることを表してい

た。思い出の品々に囲まれた、本当の意味での“個人の空間”であると感じた。その女性に、日本から持っていったはがきをプレゼントしたつもりだったが、その方は私がそれを部屋に忘れていったものと思ったらしい。地下を見学している時に、職員さんにつきそわれて私たちのところへそのはがきをもってきてくれた。私が部屋を出てからほんのわずかな時間に起こった出来事だった。日本であれば、職員も忙しく、すぐにその利用者の要求が叶えることは難しいのではないかと。また、その利用者の要求を職員が代わりに行うという対応がなされるのではないかと。自分でしたいことがすぐにできる自由が守られているということを実感した出来事だった。

個々のスペースがきちんと守られ、必要なサポートが受けられる生活の大切さを学んだ気がした。



3 研修を終えて

「本当の豊かさとは何だろうか」。ずっとこの研修期間中に感じていた疑問である。人々は物質的なものではなく、精神的な、目に見えない部分でその価値をしっかりと見出し、それをかみしめながら、ゆったりと豊かに生きているような気がした。満足感と安心感に満ちた生活はさらに人の生活に深みと安らぎをもたらすのかもしれないと感じた。

私自身、事前準備・学習が十分でなく、概要説明についても基本的な事項や全体像が整理しきれないままに、研修を終えてしまったように思う。しかし、その場の人や空気につれて感じたこと、考えたことは非常にたくさんあった。本や映像ではわからない、実感がそこにはあった。人々の笑顔や生活している様子、その手のぬくもりなど、実際に触れることができ初めて、イメージが現実のものとして受け止められたような気がする。

大切なのはお金だけではなく、意識であると感じた。福祉に多くのお金がかかることをもったいないと感じ、税金を支払うことを負担として感じるのか、当たり前なこととして感じる意識を育てていくのか。これまでの社会福祉を築いてきてくれた世代に、将来の不安を感じさせている若い世代の責任・・・大きな課題があるように感じた。私たちがこれから考えていかななくてはいけないことを目の前につきつけられたような気がした。

レクチャーや施設見学の際に、常を感じる日本との違いに大きなショックを受けた。教育、政治、個人の価値観・・・あらゆるもののあり方が日本とは大きく異なっているように思えたからだ。人が生まれ持ったもの、環境が育むもの、自分自身のなかで育て深めていくものなど、いろいろな要素が人を、国を支え、成長させていくのだということを実感した。違いだけを見て、優れた点だけを切り取るのではなく、それを生み出してきた人々の歴史や思想と、現在を支え、さらに良い方向にそれを伸ばしていこうとする人々の価値観に学びながらもっと深く理解したいと思った。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会 加盟校リスト

加盟番号	ブロック	学校名	校名	学科名	コース・専攻名	郵便番号	住所(毎通郵局から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H.P)	学校長名	主任等名前
1	1. 北海道	釧路市 釧路南高等学校	福祉科	福祉科	無	099-1112	北海道釧路市西町字西戸266-8	0157-52-3263	0157-52-3711	http://www.town.oketo.hokkaido.jp/oketokoukou/index.cfm	奥寺 仁子	前田 悟治
2	1. 北海道	釧路市 釧路北高等学校	農業福祉科	農業福祉科	農業福祉コース	048-1731	北海道釧路市東留賀町字留賀東179-1	0136-46-3376	0136-46-3386	無	山田 直芳	宮田 俊江
3	1. 北海道	釧路市 釧路東高等学校	福祉科	福祉科	無	085-0806	北海道釧路市東区4-28-10	0154-46-1538	0154-46-1941	無	山田 英二	阿部 剛彦
4	1. 北海道	釧路市 釧路南高等学校	農業・生活科	農業・生活科	生活福祉コース	098-0323	北海道釧路市上川郡釧路町栄町215	0165-34-2549	0165-34-2884	http://users.ednet.ne.jp/henko/	佐々木 誠治	柏倉 早智子
5	1. 北海道	釧路市 釧路東高等学校	福祉科	福祉科	無	040-0002	北海道釧路市御幸14-23	0138-52-1890	0138-52-1892	http://www1.ocv.ne.jp/~otsumaih/	外山 茂樹	田中 芳博
6	1. 北海道	釧路市 釧路東高等学校	定時制福祉科	定時制福祉科	福祉コース	095-0371	北海道釧路市市上土別町15線南3	01652-4-2145	01652-4-2822	http://academic.lalala.or.jp/shg	三品 純一	高井 央
7	2. 東北	青森県 青森南高等学校	総合学科	総合学科	福祉サ-ビス系列	039-2516	青森県上北郡七戸町字越野47-31	0176-62-4111	0176-62-4112	http://www.kamihita.ac.ad.jp/~shichinoha/	高橋 昭子	小野 淳哉
8	2. 東北	青森県 青森南高等学校	福祉科	福祉科	無	030-0821	青森県青森市藤田2-11-1	017-775-2121	017-775-2137	http://www.toogakuen.ac.jp	高橋 得太郎	小川 敏光
9	2. 東北	青森県 青森南高等学校	福祉科	福祉科	福祉コース	031-8507	青森県八戸市津高台9-14-6	0178-33-4151	0178-35-2859	http://www.jomon.ne.jp/~kosei05/	山西 幸子	中村 千鶴子
10	2. 東北	青森県 青森南高等学校	普通科	普通科	福祉情報コース	029-5503	岩手県和賀郡湯田町湯田19-26-2	0197-84-2809	0197-84-2844	http://www2.iwate-ed.jp/iwatech/	小平 忠孝	笠水上 訓正
11	2. 東北	青森県 青森南高等学校	福祉科	福祉科	無	021-0041	岩手県一関市赤松字野中23-1	0181-25-2242	0181-25-5432	http://www2.iwate-ed.jp/ic2-h/	鈴木 勝治	佐藤 貴生
12	2. 東北	青森県 青森南高等学校	福祉科	福祉科	無	028-0021	岩手県久慈市門前39-10	0194-53-4371	0194-53-2540	無	高橋 敬秀	浅川 徹人
13	2. 東北	青森県 青森南高等学校	福祉科	福祉科	無	028-5312	岩手県二戸郡一戸町一戸字豊島60-1	0195-33-3042	0195-33-2777	無	日山 敏子	藤澤 大
14	2. 東北	青森県 青森南高等学校	総合学科	総合学科	福祉系列	023-1122	岩手県江刺市藤山4-47	0197-35-1911	0197-35-4677	無	高橋 敬也	中崎 芳重
15	2. 東北	青森県 青森南高等学校	総合学科	総合学科	福祉・サ-ビス系列	020-0851	岩手県盛岡市向中野字川2-3	019-636-0827	019-636-0830	http://www.schole.jp	宮本 義孝	長岡 一恵
16	2. 東北	青森県 青森南高等学校	福祉科	福祉科	無	020-0025	岩手県盛岡市大沢川原1-6-34	019-623-6467	019-652-3327	http://www.iwateioshi-h.ed.jp/	津野 桂子	石川 一代
17	2. 東北	青森県 青森南高等学校	総合学科	総合学科	社会福祉系列	989-1305	宮城県栗原市田村町大字田村字金谷1	0224-83-2275	0224-83-2276	無	鈴木 伸一	酒井原義紀
18	2. 東北	青森県 青森南高等学校	総合学科	総合学科	福祉福祉系列	989-5502	宮城県栗原市若柳町字川崎戸西184	0228-35-1818	0228-35-1822	http://hokueu.myswan.ne.jp/	水原 康也	河野 春子
19	2. 東北	青森県 青森南高等学校	普通科	普通科	介護福祉コース	981-8570	宮城県仙台市青葉区川平2-26-1	022-278-6131	022-277-5130	無	小島 信弥	榎本 勇典代
20	2. 東北	青森県 青森南高等学校	福祉科	福祉科	無	019-1404	秋田県仙北郡大館町大字島津52	0187-84-1280	0187-84-0040	http://www.kataura-h.akita-c.ac.jp	草野 忠義	井 晴子
21	2. 東北	青森県 青森南高等学校	福祉科	福祉科	福祉コース	019-0112	秋田県雄勝郡雄勝町下院内字小白岩197-2	0183-52-4355	0183-52-4356	http://www.youtopia.or.jp/~kaisho	芳賀 誠	柴田 英樹子
22	2. 東北	青森県 青森南高等学校	総合学科	総合学科	生活・福祉系列	019-0701	秋田県平鹿郡雄勝町雄勝字一木津137	0182-45-2073	0182-45-2088	http://www.edu-c.pref.akita.jp/~sch11129/	高根 真	遠藤 真穂
23	2. 東北	青森県 青森南高等学校	生活科	生活科	福祉コース	012-0823	秋田県湯沢市湯沢2-1-1	0183-73-5168	0183-73-5169	http://www.vutopia.or.jp/~yukitahs	丹 隆	菅 勇智子
24	2. 東北	青森県 青森南高等学校	介護福祉科	介護福祉科	無	018-4221	秋田県北秋田郡合川町七杉字中島54-2	0186-78-3177	0186-78-3178	http://www.kumagera.ne.jp/~kikawac/	工藤 元博	六角 博明
25	2. 東北	青森県 青森南高等学校	福祉科	福祉科	無	990-0301	山形県東村山郡大野山町大字山道3028	023-664-5462	023-664-5545	http://www.yamanobe-h.ed.jp/	五十嵐 誠四	佐藤 博男
26	2. 東北	青森県 青森南高等学校	総合学科	総合学科	社会福祉系列	997-0017	山形県鶴岡市大字大堂寺字日本園410	0235-25-5724	0235-25-5734	http://www.tsuruohachuo-h.ed.jp/	菊池 善教	飯澤 茂美恵
27	2. 東北	青森県 青森南高等学校	総合学科	総合学科	保健福祉系列	994-0021	山形県天童市大字山元850	023-653-6121	023-653-6188	http://www.tendo-h.ed.jp/	佐藤 利康	奥山 野樹子
28	2. 東北	青森県 青森南高等学校	総合学科	総合学科	福祉サ-ビス系列	969-0227	福島県西白河郡矢吹町田町532	0248-42-2203	0248-44-3373	http://www.kobanoh-h.fks.ed.jp/	市川 洋一	大久保 敏行
29	2. 東北	青森県 青森南高等学校	普通科	普通科	福祉コース	968-0011	福島県大沼郡金山町大字川口字紀元2434-2	0241-54-2154	0241-54-2240	http://www.kawasuchi-h.fks.ed.jp/	新井田 大	田中 夏司
30	2. 東北	青森県 青森南高等学校	普通科	普通科	福祉コース	963-4398	福島県田村郡田代町大字影引字石崎15-3	0247-82-1511	0247-82-5233	http://www.funahishi-h.fks.ed.jp/	小田 省悟	鈴木 千晶
31	2. 東北	青森県 青森南高等学校	総合学科	総合学科	福祉サ-ビスコース	963-3401	福島県田村郡小野町大字小野新町字徳ノ後63	0247-72-3171	0247-72-8211	http://www.ono-h.fks.ed.jp	古岡 隆史	北村 修一

加盟 番号	ブロック	県	校名	校名	コース・類等名	郵便番号	住所(郵便局から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H+P)	学校長名	主任等名
64	4. 北信越	新潟県	新潟県立八海	福祉科	無	949-6632	新潟県南魚沼郡六日町大字余川1276	025-772-3281	025-772-8878	http://www.hakkai-h.nein.ed.jp	丑田 通夫	小杉 直美
65	4. 北信越	新潟県	新潟県立高田北城	生活文化科	福祉コース	943-8525	新潟県上越市北城町2-8-1	025-522-1164	025-526-1579	http://www.kitashira-jama.ed.jp	野内 清忠	京谷 淳子
66	4. 北信越	新潟県	新潟県立新井	総合学科	福祉系列	944-0031	新潟県新井市町田1-10-1	0255-72-4151	0255-72-7529	http://www.ngt-ari-h.ed.jp/	菅原 馨久雄	胡井 隆栄
67	4. 北信越	新潟県	新潟県立西川竹園	生活文化科	福祉コース	959-0421	新潟県西蒲原郡西川町大字越2-1	0256-88-3131	0256-88-2172	無	齋藤 繁夫	関口 順子
68	4. 北信越	新潟県	中越	普通科	福祉系コース	940-8585	新潟県長岡市新保町1371-1	0258-24-0203	0258-24-0205	http://www.chuetsu-h.ed.jp/	神主 式二	石橋 裕子
69	4. 北信越	新潟県	富山県立八尾	普通科 生活福祉科	福祉コース 無	939-2376	富山県婦形郡八尾町福島213	076-464-2205	076-464-5999	http://www.yatsuo01@ym.pref.foyama.jp	長谷川 充	鎌治 京子
70	4. 北信越	新潟県	富山県立とちのみ	総合福祉科	無	932-0114	富山県小矢部市清水95-1	0766-61-2040	0766-61-8255	http://www.tonomino-h.tym.ed.jp/	向田 永真	加賀谷 順子
71	4. 北信越	新潟県	富山県立有崎	生活福祉科	無	935-0025	富山県水見町藤川1056	0766-74-0228	0766-74-0827	http://www.tym.ed.jp/s359/	田中 香男	長井 ひとみ
72	4. 北信越	新潟県	富山県立新山小どり野	福祉教育科	無	937-0011	富山県魚津市本下新144	0765-22-3535	0765-22-2110	http://www.midorino-h.tym.ed.jp	芹川 勝	稲場 恵子
73	4. 北信越	新潟県	石川県立金沢伏見	普通科	福祉コース	921-8044	石川県金沢市米原町5-86	076-242-6175	076-242-7458	無	宮崎 忠夫	峯 純子
74	4. 北信越	新潟県	石川県立田鶴浜	健康福祉科	無	929-2195	石川県越前郡田鶴浜町上野が丘59	0767-88-3116	0767-88-2351	http://www.ishikawa-c.ed.jp/~tetuh/	高 一男	今井 和代
75	4. 北信越	新潟県	石川県立能登青雫	総合学科 生活科学科	介護福祉系列 介護福祉コース	928-0331	石川県鳳至郡能登町字神田4番3	0768-76-1211	0768-76-0079	http://www.ishikawa-c.ed.jp/~seishb	宮本 剛郎	河口 智
76	4. 北信越	新潟県	福井県立大野東	福祉教育科	無	912-0016	福井県大野市友立9-10	0779-66-4610	0779-66-5577	http://www.osanohigashi-h.ed.jp	浅野 清美	中村 由美子
77	4. 北信越	新潟県	伊勢	福祉科	無	910-0017	福井県福井市文京4-15-1	0776-23-3489	0776-21-2922	http://www.ketahinn.ed.jp	萩原 秀昭	水元 敏博
78	4. 北信越	新潟県	山梨県立甲府城西	総合学科	福祉・生活科学系列	400-0064	山梨県甲府市下飯田1-9-1	055-223-3101	055-223-3103	http://www.kohchi-jr@pref.yamanashi.jp	古原 孝徳	庄司 美和
79	4. 北信越	新潟県	甲府	介護福祉科	無	400-0867	山梨県甲府市青沼3-10-1	055-233-0127	055-233-0129	http://yuuda.yamato.com/	伊藤 信	菊嶋 良江
80	4. 北信越	新潟県	長野県立上田千曲	生活福祉科	無	386-8585	長野県上田市中之条626	0268-22-7070	0268-23-5370	http://www.ued.ne.jp/~chikuma/	飯島 彦太郎	小林 透元
81	5. 東海	岐阜県	岐阜県立大垣桜	福祉科	無	501-0103	岐阜県安八郡皇盛町上野465-1	0584-82-6131	0584-82-5608	http://school.sfu-net.ed.jp/okakura-hs/	横山 仁英	渡辺 真智子
82	5. 東海	岐阜県	岐阜県立坂下	福祉ライフ科 生活文化科	無	509-9232	岐阜県郡上市坂下町624-1	0573-75-2163	0573-75-4011	http://www.schoel.infu-net.ed.jp/takasita-hs/	佐々木 雄雄	岩田 知子
83	5. 東海	岐阜県	岐阜県立津波	生活福祉科	無	509-6196	岐阜県津波市上岐町7942	0572-68-4161	0572-67-1988	http://www.scsod.sfu-net.ed.jp/maizumi-hs/	村野 一也	遠藤 浩代
84	5. 東海	岐阜県	岐阜県立高山	健康福祉科	介護福祉コース 生活福祉類型	506-0052	岐阜県高山市下岡本町2000-30	0577-32-5328	0577-32-5321	http://www.school.gifu-net.ed.jp/takeyama-hs/	小谷 俊明	松木 淳子
85	5. 東海	岐阜県	岐阜県立吉田	福祉科	無	421-0303	岐阜県吉田町片岡2130	0548-32-1241	0548-32-7831	無	江間 秀明	福岡 みちる
86	5. 東海	岐阜県	岐阜県立熱海	普通科	福祉類型	413-0102	岐阜県熱海市下妻1484-22	0557-88-3291	0557-88-1854	http://www.izu.co.jp/~stamihs/	青木 敏	那須 のぞみ
87	5. 東海	岐阜県	岐阜県立徳田北	福祉科	無	438-0086	岐阜県徳田市新見付2031-2	0538-32-2181	0538-37-8354	http://www.shizuoka-c.ed.jp/iwatakita-h/	太田 恒哉	伊藤 榮子
88	5. 東海	岐阜県	岐阜県立富士宮東	福祉科	無	418-0022	岐阜県富士宮市小泉1234	0544-26-4177	0544-26-0007	http://www.shizuoka-c.ed.jp/ujinomiya-gashi-h/	佐藤 淳子	船津 倫子
89	5. 東海	岐阜県	三島	福祉科	無	411-0844	岐阜県岐阜市長島町竹原364	055-975-0080	055-976-0735	http://www2.tohai.or.jp/mishinakoto/	渡邊 敏	芦川 裕美
90	5. 東海	岐阜県	岐阜県立女子	福祉科 家政科	無	422-8076	岐阜県岐阜市八幡3-6-1	054-285-2274	054-282-2757	無	竹中 俊	太田 久巳子
91	5. 東海	岐阜県	沼津中央	普通科	人間福祉コース	410-0033	静岡県沼津市杉崎町11-20	055-921-0346	055-924-7158	http://www.n-zhuo.ac.jp	相山 敏雄	平野 謙
92	5. 東海	岐阜県	愛知県立高浜	福祉科	無	444-1311	愛知県高浜市本郷町1-6-1	0566-92-2100	0566-92-7059	http://www.takahama-h.aichi-c.ed.jp/	加藤 泰男	神谷 千尋
93	5. 東海	岐阜県	愛知県立宝殿	生活福祉科	無	441-1205	愛知県宝殿郡一宮町大字木子園水445	0533-93-2041	0533-93-2826	http://www.horyo-h.aichi-c.ed.jp	細井 政雄	阪田 善子
94	5. 東海	岐阜県	愛知県立古知野	福祉科	無	483-8331	愛知県江南市古知野町高瀬1	0587-56-2508	0587-53-0989	http://www.kochino-h.aichi-c.ed.jp/	伊藤 久夫	嶋田 麻知代
95	5. 東海	岐阜県	愛知県立徒次郎	生活福祉科	無	474-0025	愛知県大府市中央町5-15	0582-46-5351	0582-44-0858	http://www.torvo-h.aichi-e.ed.jp	仲島 千恵	河井 真子

加盟 番号	ブロッ ク	県	学校名	学科名	コース・種等名	郵便番号	住所(都道府県から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H・P)	学校長名	主任等名前
96 5.	東海	県	三重県立明野	福祉科	無	519-0501	三重県志摩郡小浜町明野1481	0596-37-4125	0596-37-4127		佐藤 良一	安谷 恵理
97 5.	東海	県	三重県立上野西郷	福祉科	無	519-0833	三重県上野市藤ヶ丘東町920	0595-21-1900	0595-21-1923	http://www.mie-c.ed.jp/cueno/	辻井 賢隆	高井 恵子
98 5.	東海	県	三重県立みえ夢学園	総合学科	社会福祉系	514-0803	三重県津市御山海岸1239	059-228-8317	059-228-8218	http://www.mie-c.ed.jp/hmiey/	瀬古 淳二	野呂 朱美
99 5.	東海	県	三重県立新南	総合学科	介護福祉系	515-1411	三重県新加那町大字新見5480-1	0598-32-2203	0598-32-2204	http://mennai.mie-c.ed.jp/hinain/	荒井 剛治	竹岡 典幸
100 5.	東海	県	三重県立いびく総合学園	総合学科	社会福祉系	511-0222	三重県いなべ市御井町御座832	0594-74-2008	0594-74-4104	http://www.mie-c.ed.jp/haubaz/	中村 秀文	梅田 仁美
101 5.	東海	県	三重県立泉学園	総合学科	介護福祉系	519-2593	三重県多度町豊原川村原48	0598-76-0040	0598-76-0318	http://www.za.zkyu.ne.jp/insakko-h/	横井 正典	横井 暹子
102 6.	近畿	県	滋賀県立国法	福祉科	無	529-0033	滋賀県彦根市平方町270	0748-62-0898	0749-65-1340		北川 貴道	村元 研二
103 6.	近畿	市	守山市立守山女子	生活総合科	生活福祉コース	524-0041	滋賀県守山市御膳3-9-1	077-582-2019	077-583-2829	http://egi1.biwa.ne.jp/~morjio01/	小西 義隆	中西 暎子
104 6.	近畿	私	滋賀学園	普通科	福祉コース	527-0003	滋賀県八日市市東部北町520-1	0748-23-0858	0748-23-8145		清田 剛	今江 智美
105 6.	近畿	私	滋賀学院	介護福祉科	無	525-0025	滋賀県津市西蒲川11-18-1	077-563-3435	077-565-5820	http://www.biwa.ne.jp/~ayaha-hs	柴原 聖嗣	桑原 元則
106 6.	近畿	私	京都市立女子	普通科	福祉コース	622-0002	京都府船井郡御所町御園町1-7B	0771-62-0183	0771-63-0989	http://www.osaka-c.ed.jp/	小林 登	松崎 由香
107 6.	近畿	私	福知山学院	総合学科	介護福祉系	620-0936	京都府福知山市正明寺36-10	0773-22-3783	0773-23-5519	http://www2.nkansai.ne.jp/sch/ehukutoku/	山口 亨	鈴木 憲弘
108 6.	近畿	府	大阪府立砂原	総合学科	地域福祉系	580-0041	大阪府松原市三宅東3-4-1	072-334-8008	072-334-8142	http://www.osaka-c.ed.jp/matsubara/	宮村 和彦	加納 明彦
109 6.	近畿	府	大阪府立島島	総合学科	福祉系	533-0024	大阪府大阪市東淀川区島島1-7-106	06-6323-8351	06-6323-8237	http://www.osaka-c.ed.jp/kunijima/	池田 憲昭	亀井 敏風
110 6.	近畿	私	淀之水	福祉科	無	554-0011	大阪府大阪市此花区新日1-1-9	06-6461-0081	06-6465-0338	http://www.yodonomi-zu-h.ed.jp/	鶴巻 翠二	鶴巻 徹三
111 6.	近畿	市	大阪府立芝罘	福祉科/ボランティア科	無	555-0024	大阪府大阪市西淀川区野里3-3-15	06-6474-3315	06-6473-9950	http://www.osec.ne.jp/yodo/	笹岡 賢志	青木 健至
112 6.	近畿	県	兵庫県立日高	福祉科	無	669-5395	兵庫県洲本市日高町中1	0796-42-1133	0796-42-1848	http://www.hyogo-c.ed.jp/hidaka-hs/main.html	竹田 秀登	山崎 由美
113 6.	近畿	県	兵庫県立新宮	福祉科	無	679-4313	兵庫県豊前町新宮27-1	0791-75-0018	0791-75-2549	http://www.hyogo-c.ed.jp/shingyo-hs/	野田 正信	長森 暎子
114 6.	近畿	私	神戸第一	家庭科	介護福祉コース	651-0058	兵庫県神戸市中央区宮崎町寺ヶ谷1	078-242-4811	078-242-5723		岸本 進	舟引 京子
115 6.	近畿	私	徳田学園	普通科	総合コース(福祉専攻)	661-0058	兵庫県尼崎市南塚口町1-24-16	06-6428-2242	06-6428-0201	http://www.sonodagakuken.ed.jp	松尾 匠利	北中 陽子
116 6.	近畿	私	日ノ本学園	普通科	福祉コース	679-2151	兵庫県神戸城崎郡香取町香取890	0792-32-5578	0792-32-3420	http://www.hinomoto.ac.jp/	高橋 啓一	佐賀 正
117 6.	近畿	県	奈良県立樟原	福祉科	無	639-0241	奈良県宇陀郡樟原町下井足210	0745-82-0525	0745-82-7606	http://www.nac-habara-h.ed.jp	鈴木 博隆	松本 美幸
118 6.	近畿	私	天理(第二部)	介護福祉科	無	632-8595	奈良県天理市松之内町1260	0743-62-2456	0743-62-2456	http://www.tenri-h.ed.jp/	飯塚 成隆	山下 昭弘
119 6.	近畿	県	和歌山県立有田中央	総合学科	無	643-0021	和歌山県有田郡古瀬町下津野459	0737-52-4340	0737-52-8749	http://-aridachuo-h-b.wakayama-c.ed.jp	磯東 東治	名原 伸子
120 7.	中国	県	島根県立倉田産業	総合学科	生活・福祉系	698-0041	島根県倉田町高津3-21-1	0856-22-0642	0856-22-0684	http://www.shimanet.ed.jp/sankoz/	大賀 敏郎	坂本 榮子
121 7.	中国	県	島根県立松江農林	総合学科	福祉コース・ビジネス系	690-8507	島根県松江町乃木水櫃町61	0852-21-6772	0852-21-6798	http://www.shimanet.ed.jp/matsuno/	山田 悠男	中倉 暎美子
122 7.	中国	私	明誠	福祉科	無	698-0006	島根県松江市三宅町1-37	0856-22-1052	0856-22-8729	http://www.meisai-masuda.ed.jp	岸 政徳	伊藤 圭吾
123 7.	中国	私	松道女子学院	普通科	福祉系	690-0015	島根県松江町上乃木1-14-61	0852-21-5578	0852-21-1350	http://www.shotoku-h.ed.jp	任司 肇	船木 雅敏
124 7.	中国	私	出雲西	福祉科	福祉・文化コース	693-0032	島根県出雲町下志町1163	0853-21-1183	0853-21-1397	http://www.yzmmizumori-shikou.jp/	菅岡了司	原田 裕美子
125 7.	中国	県	岡山県立倉敷中央	福祉科	無	710-0845	岡山県倉敷市西宮井1384	086-465-2559	086-468-2832	http://www.kurachuo-okayama-c.ed.jp/kurach.htm	中塚 公郎	浅野 純子
126 7.	中国	県	岡山県立吉備北陵	普通科	社会福祉系	716-1112	岡山県倉敷市東陽町蓬山1028	0866-54-1033	0866-54-0933	http://www.kibihoku-okayama-c.ed.jp/	赤堀 元美	森山 暎子
127 7.	中国	県	岡山県立津陽	普通科	生活福祉系	709-3111	岡山県津陽郡津陽町津陽425	0867-22-0741	0867-22-2380	http://www.hukuwata.ed.pref.okayama.jp/hukuwa.htm	永井 裕	野上 夏子
128 7.	中国	市	岡山県岡山市立西山陵学院	総合学科	福祉系	700-0814	岡山県岡山市天神町9-24	086-228-7100	086-228-7109	http://www.horakuhem.city-okayama.ed.jp	仁藤 博行	寺田 貴美

加盟 番号	ブロック	校名	学科名	コース・級名	塾 名	住所(塾道府県から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H+P)	学校長名	主任等名前
129	7. 中国	私 興作	普通科	介護福祉コース	708-0004	岡山県津山市北500	0868-22-4838	0868-24-6171	http://www.mimasaka.ed.jp	北村 哲彦	竹田 哲彦
130	7. 中国	私 ベル学園	総合福祉科	生活福祉コース 介護福祉コース	700-0054	岡山県岡山市下伊福西町7-38	086-252-2101	086-253-0582	http://www.bell-h.ed.jp	高畑 裕彦	五十嵐 武
131	7. 中国	私 岡山学芸館	普通科	総合コース(福祉選択)	704-8502	岡山県岡山市西大寺上1-19-19	086-942-3864	086-943-8040	http://www.gakugeikan.ed.jp	森 靖喜	野上 登子
132	7. 中国	私 広島県立黒瀬	福祉科	無	724-0822	広島県賀茂郡黒瀬町乃真路1	0823-92-2525	0823-92-2527	http://www.kurose-h.hiroshima-c.ed.jp	池田 由美子	森谷 順子
133	7. 中国	私 広島県立世田	生活福祉科	無	722-1193	広島県世田郡世田町本陣670	0847-22-1118	0847-22-5244	http://www.seta-h.hiroshima-c.ed.jp	田邊 眞嗣	土生 安美
134	7. 中国	私 広島県立吉田	生活福祉科	福祉コース	731-0501	広島県安芸高田市吉田町吉田719-3	0828-42-0031	0828-42-0207	http://www.yoshida-h.hiroshima-c.ed.jp	清水 憲昭	亀川 久美
135	7. 中国	私 福家	福祉科	無	747-0813	山口県防府市東三田区1-2-14	0835-38-5252	0835-38-5353	http://www.seiei.ac.jp	川口 政宏	田邊 元久
136	7. 中国	私 山口県立久賀	福祉科	無	742-2301	山口県大島郡久賀町4851-2	0820-72-0024	0820-72-0096	http://www.kyuwa-h.yamaguchi.ac.jp	木岡 俊二	三輪 敏
137	7. 中国	私 中村女子	介護福祉科	無	753-8530	山口県山口市歌取町1-1-1	083-922-0418	083-922-8083	http://www.y-nakamura.ed.jp	桂 雄三	岡崎 京子
138	7. 中国	私 聖光	普通科	社会福祉コース	743-0011	山口県光市光井9-22-1	0833-72-1187	0833-72-1308	http://www.seiko-h.ed.jp	藤井 廣正	藤井 正彦
139	8. 四国	私 徳島県立城西	総合学科	健康福祉系列	770-0003	徳島県徳島市船場町2-1	088-631-5138	088-633-0453	http://www.iocseih.ed.jp	多田 実	徳田 おおる
140	8. 四国	私 徳島県立小松島西	福祉科	無	773-0015	徳島県小松島市中田町原ノ下28-1	0883-2-0129	0883-2-5462	http://www.komatsushimanishih.ed.jp	小倉 正幹	稲村 桂子
141	8. 四国	私 徳島県立鳴門第一	総合学科	福祉コース	772-0003	徳島県鳴門市撫養町南浜字高日本58	088-685-1107	088-685-0049	http://www.nacato.ed.jp	徳原 運佳	増田 尚子
142	8. 四国	私 香川県立三木	総合学科	福祉系列	761-0702	香川県木田郡三木町平木760	087-891-1100	087-891-1551	http://www.kagawa-edu.jp	市原 唯夫	竹内 雅枝
143	8. 四国	私 香川県立直島山	総合学科	福祉少一択系列	762-0083	香川県綾歌郡直島山下法華寺664-1	0877-98-2525	0877-98-2576	http://www.karasu-edu.jp	斎藤 賢一	北村 文恵
144	8. 四国	私 愛媛県立宇田	福祉科	無	765-0053	香川県善通寺市生野町866-1	0877-82-1515	0877-82-0586	http://www.uh.ed.jp	田山 珠徳	柳沢 寿太郎
145	8. 四国	私 愛媛県立新居浜南	総合学科	福祉少一択系列	792-0836	愛媛県新居浜市藤崎町1-32	0897-43-6191	0897-44-7447	http://www.nihamaminami-h.kss.ed.jp	宇和上 正	松浦 三ノ子
146	8. 四国	私 愛媛県立北条	総合学科	生活福祉系列	789-2493	愛媛県北条市北600-1	089-993-0333	089-993-0429	http://ehm-hgjo-h.esnet.ed.jp	友田 敏一	二宮 栄子
147	8. 四国	私 愛媛県立川之石	総合学科	福祉少一択系列	796-0201	愛媛県西予郡伊予内町川之石1-112	0894-36-0550	0894-36-1994	http://kawanishi-h.esnet.ed.jp	永井 博	渡部加代子
148	8. 四国	私 松山城南	福祉科	無	790-8550	愛媛県松山市北久米町815	089-976-4343	089-976-4348	http://www.matsuyamainanac-h.ed.jp	福地 勝哉	中田 千栄子
149	8. 四国	私 今治明徳	普通科	総合福祉コース	794-0054	愛媛県今治市北百町1-4-47	0898-22-6767	0898-33-2723	http://www.imai-machiku.ed.jp	白川 見敬	大西 浩一
150	8. 四国	私 高知県立城山	普通科	福祉教養コース	781-5310	高知県香美郡赤岡町1612	0887-55-2126	0887-55-0170	http://www.kochinet.ed.jp	吉岡 成	野中 昭良
151	8. 四国	私 高知中央	普通科	健康・福祉コース	781-5103	高知県高知市大津乙324-1	088-888-3166	088-888-1400	http://www.kochinet.ed.jp	前田 正也	杉村 真一
152	8. 四国	私 高知県立室戸	総合学科	生活福祉系列	781-7102	高知県室戸市室津221	0887-22-1155	0887-22-3891	http://www.kochinet.ed.jp	大宮 健百	別役 千世
153	9. 九州・沖縄	私 福岡県立三井	普通科	福祉教養コース	838-0122	福岡県小郡市松崎650	0942-72-2161	0942-72-9064	http://mi.fku.ed.jp	村上 健	内田 洋子
154	9. 九州・沖縄	私 福岡県立久留米緑水	社会福祉科	無	838-0817	福岡県久留米市山川町1493	0942-43-0461	0942-45-0143	http://kurumechikusui.tku.ed.jp/	杉原 京彦	紫垣 久美子
155	9. 九州・沖縄	私 福岡県立黒木	普通科	福祉・看護コース	834-1218	福岡県八女郡黒木町大字島原10-2	0943-42-1150	0943-42-3791	http://kurogi.fku.ed.jp/	久保 大	杉本 正徳
156	9. 九州・沖縄	私 福岡県立大牟田南	普通科	経営「福祉」	838-0872	福岡県大牟田市黄金町1-26	0944-53-3510	0944-52-2617	http://www.e02811f@pcn.ocn.ne.jp	大坪 康二	沼田 政枝
157	9. 九州・沖縄	市 福岡市立福岡女子	保育福祉科	無	819-0013	福岡県福岡市西区家岩浜3-2-2	092-981-7344	092-983-4227	無	清水 昭男	中山 祥子
158	9. 九州・沖縄	私 杉森女子	福祉科	無	832-0046	福岡県糟川市奥州町3	0944-72-5216	0944-72-5218	http://www.sajoe.ne.jp/euginori/	柏原 正憲	森 茂樹
159	9. 九州・沖縄	私 藤成	福祉科	介護福祉コース 社会福祉コース	803-0854	福岡県北九州市小倉北区区山町15-1	093-561-1331	093-561-4844	http://www.keisei-h.jp	榎木 顕児	中村 章二
160	9. 九州・沖縄	私 沖学園	社会総合学科	介護福祉コース	816-0085	福岡県福岡市博多区竹下2-1-33	092-431-1868	092-441-3274	http://www.okigakuen.ed.jp/	沖 隆邦	泉塚 孝伸
161	9. 九州・沖縄	私 大和学院	介護福祉科	無	822-0025	福岡県筑前市吉野町10-12	0948-22-0533	0949-22-0535	http://www.yamato-gakuen.ac.jp	川原 克彦	新崎 孝徳

加盟 番号	ブロック	学校名	学科名	コース・履修名	郵便番号	住所(都道府県から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H-P)	学校長名	主任等名前
162	九州・沖縄	折尾東真	普通科	福祉コース	807-0861	福岡県北九州市八幡西区鶴川町12-10	093-402-2100	093-492-5690	http://www.nv.naimet.ne.jp/orjivo/	増田 仰	小川 麗子
163	九州・沖縄	糟粕	介護福祉科	無	825-0002	福岡県田川市大字伊田3934	0947-42-4711	0947-44-7289	http://www.fukuchi-h.ed.jp/	荒瀬 昭彦	橋田 敏弘
164	九州・沖縄	私 久留米学園	総合学科	福祉系列	830-0032	福岡県久留米市東町272-4	0942-34-4535	0942-33-8222	http://www.gksuon.ac.jp	小西 高昭	日比 眞一
165	九州・沖縄	私 真鶴	総合学科	介護・福祉系列	803-0837	福岡県北九州市小倉北区中井口5-1	093-561-1231	093-591-9995	http://www.shinsoken-h.ed.jp	入沢 巧	赤野 眞佐子
166	九州・沖縄	県 佐賀県立神埼清明	総合学科	生活福祉系列	842-0012	佐賀県神埼郡神埼町大字横敷2	0952-52-3191	0952-51-1017	http://www.kanzakisemin-h.ed.jp	山田 一彦	滝村 タマキ
167	九州・沖縄	県 佐賀県立藤原東葉	生活福祉科	生活福祉コース	849-1112	佐賀県藤原市大字高津原539	0954-63-3128	0954-63-9007	http://www.saga-ed.go.jp/school/eda10038/index.htm	井手 正博	別上 美奈子
168	九州・沖縄	県 佐賀県立牛津	生活福祉科	生活福祉類型	849-0303	佐賀県小城市牛津町牛津274	0952-66-1811	0952-51-5008	http://www.saga-ed.go.jp/school/eda10009/index.htm	千崎 廣司	久掛 登子
169	九州・沖縄	私 北陵	生活文化科	介護福祉コース 情報福祉コース	940-0921	佐賀県佐賀市高木瀬西3-7-1	0952-30-8876	0952-33-5524	http://www.hokuryo.ac.jp/	久原 辰郎	石戸 秀昭
170	九州・沖縄	県 佐賀県立多久	総合学科	健康福祉系列	846-0002	佐賀県多久市北多久町大字小村23	0952-75-3191	0952-71-9001	http://www/saga-ed.go.jp/school/eda10028/index.html	西野 文夫	田久保 賢朗
171	九州・沖縄	県 長崎県立大村延南	総合学科	福祉生活系列	856-0835	長崎県大村市久原1-416	0957-54-3121	0957-27-3056	http://academic3.plala.or.jp/lehman-h/	宇田川 決	下田おおる
172	九州・沖縄	私 五木女子	福祉科	無	850-0822	長崎県長崎市東巻1-21-6	095-828-8321	095-829-8837	http://www.tanaki.ac.jp/koukou	泉塚 雅吉	山内 茂樹
173	九州・沖縄	県 熊本県立八代豊原	福祉数理科	無	869-4201	熊本県八幡郡藤原町大字鎌付129	0965-52-0076	0965-52-5046	無	林 隆一	中野 祥子
174	九州・沖縄	県 熊本県立多木	普通科	福祉数コース	866-0501	熊本県津島郡多木町多木1212	0966-42-2102	0966-49-1022	無	森 和朗	瀬音 博美
175	九州・沖縄	県 熊本県立阿蘇清峰	社会福祉科	無	869-2612	熊本県阿蘇郡一宮町宮地4131	0967-22-0045	0967-22-5181	http://www.edu-c.prof.kumamoto.jp/h/aseoiho/	山本 登	梅井 英保
176	九州・沖縄	県 熊本県立甲佐	普通科	福祉数コース	861-4606	熊本県上益城郡甲佐町横田327	096-234-0041	096-234-4425	http://www.hiro.ed.jp/sh/Kousash/	近藤 亨	戸田 涼子
177	九州・沖縄	私 菊池女子	社会福祉科	無	861-1331	熊本県菊池市隈府1081	0968-25-3032	0968-25-3180	http://www.kikuchijoshi.ac.jp	荒木 元子	米濱 明晃
178	九州・沖縄	私 城北	社会福祉科	無	861-0598	熊本県山鹿市西之谷798	0968-44-8111	0968-44-0747	http://www.infobeans.ne.jp/school/ivohoku/	若杉 秀純	風橋 誠也
179	九州・沖縄	私 熊本フェリス女子学院	医療福祉科	無	861-4106	熊本県熊本南高直7-3-1	096-357-7151	096-358-3044	http://s1.kcn-tv.ne.jp/users/faith/	福井 健彌	吉村 正一
180	九州・沖縄	私 有明	福祉科	無	864-0032	熊本県鹿屋市増木2200	0968-63-0545	0968-64-1366	http://www2.ocn.ne.jp/haariake	片山 盛雄	村田 大佳子
181	九州・沖縄	県 熊本県立芦北	福祉科	福祉科	869-5431	熊本県芦北郡芦北町乙千屋20-2	0968-82-2034	0968-82-5606	http://www.edu-c.pref.kumamoto.jp/sh/ashikitash/	梶山 浩之助	秋島 真美
182	九州・沖縄	県 大分県立山香豊原	生活科学科	福祉コース	879-1306	大分県速見郡山香町大字広瀬4706	0977-75-1168	0977-75-1165	http://yamaizono-u-h.oita.ed.jp/	伊藤 忠寛	奥員 麗子
183	九州・沖縄	県 大分県立野津	福祉科	無	875-0201	大分県大野郡野津町大字野津537-1	0974-32-2031	0974-32-2119	http://nobu-h.oita-ed.jp/	安田 緑一	岡 高美子
184	九州・沖縄	県 大分県立都麻法	普通科	生活福祉コース	871-0404	大分県下毛郡都麻法町戸原1863-1	0979-54-2011	0979-54-2519	http://yebakei-h.oita-ed.jp/	佐々木哲司	工藤 典子
185	九州・沖縄	私 雄志園	福祉科	福祉ワーカースコース	870-0838	大分県大分市併ヶ丘7-8	097-543-8711	097-543-4516	http://www.green.oit-net.jp/gotosaku/yoshikan	原尻 正恒	佐々木 修
186	九州・沖縄	私 福徳学院	保育福祉科	医療福祉コース	870-0883	大分県大分市永興550	097-544-3551	097-544-5883	http://www.fukutoku.ed.jp/	坂田 一郎	藤井 俊寛
187	九州・沖縄	私 大分高明	職業科	商業介護福祉コース	870-8858	大分県大分市千代町2-4-4	097-535-0201	097-535-0201	http://www.coara.or.jp/rinkou/	古川 成門	平山 泉
188	九州・沖縄	私 昭和学園	福祉科	無	877-0082	大分県日田市日出町14	0973-23-8737	0973-22-7129	http://www.coara.or.jp/shouwa/	永松 克典	小野智恵美
189	九州・沖縄	県 大分県立日出台	総合学科	体育・健康系列	879-1504	大分県速見郡日出町大字大神1396-43	0977-72-2855	0977-72-2655	http://www.hillyoukoku-h.oita-ed.jp	阿部 忠雄	井上子實子
190	九州・沖縄	県 大分県立佐佐木	総合学科	食物・福祉系列	876-0835	大分県佐佐木市藤原町2-2-1	0972-22-1900	0972-22-1806	無	内田 良三	手嶋理江子
191	九州・沖縄	私 日本文壇大学付属	普通科	福祉コース	876-0811	大分県佐佐木市藤原町2-1-10	0972-22-3501	0972-22-3503	http://mwww.nbu-h.ed.jp	糸永 隆章	立木 雅太郎
192	九州・沖縄	県 宮崎県立夢	福祉科	無	881-0003	宮崎県都城市大字右社2330	0983-43-0005	0983-43-0005	http://www.miyazaki-c.ed.jp/tsum-h/	高山 俊文	濱砂 美穂子
193	九州・沖縄	県 宮崎県立日南豊林	福祉生活科	無	889-3201	宮崎県南都賀郡高岡町中村3543	0987-64-1177	0987-64-1947	http://www.miyazaki-c.ed.jp/nichinanmorin-h	神川 尚生	三宅 晴子

加盟 番号	ブロック	コース・題名	学校名	学科名	コース・題名	郵便番号	住所(都道府県から)	TELNo.	FAXNo.	ホームページ(H・P)	学校長名	主任等名前
194	九州・沖縄	成	宮崎県立川島東	福祉生活科 福祉科	無	889-0811	宮崎県東臼杵郡門川町大字門川尾茶2680	0982-63-1336	0982-63-5194		横口 初夫	谷名 千恵美
195	九州・沖縄	県	宮崎県立高原	福祉科	福祉生活科 福祉科	889-4411	宮崎県西諸郡高島町大字広原4981-2	0984-42-1010	0984-42-1270	http://www.miyazaki-c.ed.jp/takahara-h/	成合 新	石川 加奈恵
196	九州・沖縄	県	都城	介護福祉科	無	885-8502	宮崎県都城市並原町7916	0986-23-2477	0986-26-5220		久保 武司	相葉 香穂
197	九州・沖縄	私	日章学園	福祉科	無	880-0125	宮崎県宮崎市広原636	0985-39-1321	0985-39-1324	http://www.nissho.ac.jp/nsh	安藤 忠次	谷口 和子
198	九州・沖縄	県	鹿児島県立加世田常盤	生活福祉科	無	897-0002	鹿児島県加世田市武田14863	0993-53-3600	0993-53-3601	http://www.edu.prof.kagoshima.jp/sh/kasedaijun/indas.htm	佐多 典夫	百永 裕子
199	九州・沖縄	県	鹿児島県立宮之城東	福祉科	無	895-1181	鹿児島県薩摩郡宮之城町成野1900	0996-53-0020	0996-53-2718		若下 明朗	百崎 富美子
200	九州・沖縄	私	加治木女子	医療福祉科	無	899-5241	鹿児島県姶良郡加治木町木田5348	0995-63-3001	0995-63-3002	http://www.gk-kagoshima.ac.jp	山切 英澄	迫田 良治
201	九州・沖縄	私	鳳凰	総合福祉科	無	879-1121	鹿児島県加世田市藤仁原1202	0993-52-7988	0993-52-7974	http://www.hooh.ed.jp/	西 真直	相澤 康之
202	九州・沖縄	私	出水中央	医療福祉科	無	899-0213	鹿児島県出水市西出水町448	0996-62-0500	0996-62-1772	http://www.wizumi.ac.jp	松ヶ野 正弘	川畑 博貴
203	九州・沖縄	私	神村学園高等部	医療福祉科	無	896-6886	鹿児島県串木野町下名4460	0996-32-3232	0996-32-2990	http://www.kanamura.ac.jp	神村 裕之	山口 金光
204	九州・沖縄	私	神南	介護福祉科	無	890-0044	鹿児島県鹿児島市常盤町440-6	099-281-2900	099-281-2522	http://www7.ocn.ne.jp/~shonank/	時任 克暢	有木 時義
205	九州・沖縄	私	鹿児島城西	社会福祉科	無	899-2593	鹿児島県日置郡伊集院町清藤1938	099-273-1234	099-273-1651	http://www.nissho.ac.jp/nh/	伊藤 博仁	桑原 真津子
206	九州・沖縄	私	尚志館	医療福祉科	無	899-7104	鹿児島県曾根郡志布志町安楽6200	0994-72-1318	0994-72-1319	http://www12.synapse.ne.jp/kyoshikan/	林 敬二郎	今西 久子
207	九州・沖縄	私	鹿児島情報	医療福祉科	無	891-0141	鹿児島県鹿児島市谷山中央2-4118	099-268-3101	099-266-1851	http://www.harede-gakuen.com/	原田 聡幸	西野 康子
208	九州・沖縄	県	鹿児島県立附崎	福祉科	無	891-0188	鹿児島県鹿児島市上福元町5296-1	099-263-3733	099-260-8233	http://www.edupref.kagoshima.jp/sh/kaivo/top.html	岩屋 秀男	藤田 美子
209	九州・沖縄	県	沖縄県立陸羽	介護福祉科	無	901-2113	沖縄県沖縄市大字平468	098-679-3062	098-679-9520	http://www.youmei-h.okinawa2.schoolnet.gr.jp	宮城 敏	比嘉 加代
210	九州・沖縄	県	沖縄県立中部農林	福祉科	無	904-2213	沖縄県島尻市宇田崎1670	098-973-3357	098-973-3357	http://www.chubu-zab.osan.ed.jp/	宮里 朝光	大城 尚子

平成17年度全国大会予告

期 日 平成17年8月 9日(火) 開会行事・基調講演・研究協議会・懇親会
8月10日(水) 地区別会議・全体報告会・指導講評・閉会行事
主管校 三重県立明野高等学校

平成17年度第1回理事会・学科主任等代表者会議

期 日 平成17年5月27日(金)
理事会・学科主任等代表者議会 10時～
合同会議 13時～
会 場 千代田区富士見区民館(予定)

事務局(～平成17年度第1回理事会日まで)

〒271-0095 千葉県松戸市中矢切54番地
千葉県立松戸矢切高等学校内
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会事務局
TEL/FAX 047-363-0577(事務局直通)
ホームページ <http://www.h7.dion.ne.jp~fukushi/>
e-mail yakirifukushi@m7.dion.ne.jp

新事務局(平成17年度第1回理事会日以降～)

〒030-0821 青森県青森市勝田2-11-1
東奥学園高等学校内
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会事務局
TEL 017-775-2121(代)

あとがき

今年度大会主管校の小松島西高等学校をはじめ、研究発表頂きました先生方並びに、貴重な資料提供くださいました来賓の先生方のご協力により、ここに無事、徳島大会報告書を発刊することが出来ました。また、今年度より広告掲載を導入いたしましたが、多くの学校様がこれにご協力くださいましたことを、ここに感謝申し上げます。

これからの福祉を担う生徒の育成に、大会が少しでもお役に立てたら嬉しく思います。ありがとうございました。 福祉科校長会事務局

贊助廣告

貴校の国家試験対策を総合的にサポートします！

当福祉教育カレッジ「介護福祉士公開模擬試験」は、全国の高等学校福祉科・専門学校等の団体において、トップクラスの採用実績を誇ります。国家試験制度発足時から17年に及び「信頼と実績」に基づいた「国家試験対策」を皆様にお届けします。

■公開模擬試験 ⇒国試に完全準拠！全国規模で学力レベルを把握できます！

- 第1回必修編：9月実施予定。標準的な問題を中心に、基礎知識の習得をはかります。
- 第2回予想編：11月実施予定。応用的な問題を中心に、学力のレベルアップをめざします。

■受験対策講座 ⇒筆記&実技試験に完全対応！充実した国試対策をお届けします！

- 通学講座：講義から模擬試験まで、資格取得をめざす方を総合的にサポートします。
- 通信講座：4回実施の模擬試験を中心に、ご自宅にて効果的に国家試験対策を行います。
- イベント講座：一次&二次試験直前期に、重要ポイントの総復習・徹底解説を行います。

■書籍 ⇒基礎固めはこれでOK！重要項目をわかりやすく解説します！

- 『介護福祉士国試対策』：過去問対策の決定版。過去5年間の国試問題を詳細解説。
- 『キーワード・マップ』：国試参考書シリーズ。出題基準をベースに各科目を徹底解説。
- 『絵でみる介護』：実技対策の必携本。イラストにより介護技術・国試問題を明解解説。

＊ ＊ その他の書籍もございます。詳細はお問い合わせください ＊ ＊

福祉教育カレッジ

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-22-23 新宿ノモスビル2F

フクシ コクシ

フクシコクシ

0120-294-594 URL <http://www.294594.jp/>

実教の教材

教科書内容の確認・定着に最適な準拠ノート
「社会福祉基礎」(福祉001) 準拠

社会福祉基礎学習ノート

B5判 80ページ (別冊解答8ページ) 定価550円

やさしく学べる福祉科用の情報処理テキスト

準教科書 福祉情報処理

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会推薦

監修・執筆 木谷 収 (東京大学名誉教授・日本大学教授)

B5判 144ページ 定価1,500円

この商品に対するお問い合わせは…



実教出版株式会社

〒102-8377 東京都千代田区五番町5
Tel.03-3238-7777 Fax.03-3238-7755
<http://www.jikkyo.co.jp/>

介護福祉士として必要な知識をすべて網羅
見直しが必要な巻を部分改訂しました。
最新内容にて学習が可能です!!

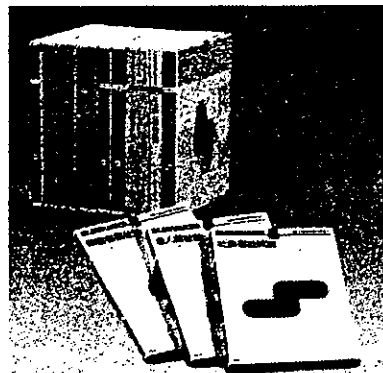
介護福祉士養成講座 全15巻

福祉士養成講座編集委員会 編集

B5判 並製本 定価各2,310円(本体2,200円+税5%)

15巻セット定価34,650円(本体33,000円+税5%)

新版第3版;2005年2月刊行 新版第2版;2003年1月刊行



1	社会福祉概論《新版第3版》	6	レクリエーション活動援助法《新版第2版》	11	介護概論《新版第2版》
2	老人福祉論《新版第3版》	7	老人・障害者の心理《新版第2版》	12	介護技術Ⅰ《新版第2版》
3	障害者福祉論《新版第3版》	8	家政学概論《新版第3版》	13	介護技術Ⅱ《新版第2版》
4	リハビリテーション論《新版第3版》	9	医学一般《新版第3版》	14	形態別介護技術《新版第2版》
5	社会福祉援助技術《新版第2版》	10	精神保健《新版第2版》	15	資料編《新版第3版》

三訂 介護福祉用語辞典

中央法規出版編集部 編集

2004年2月第3版刊行

A5判 上製本 定価2,625円(本体2,500円+税5%)

介護福祉士に要求される知識の整理や、一層の学習に必要な用語をわかりやすく解説。介護福祉士の資格取得を目指す方、福祉現場で働く方々の日常業務の手助けなど、幅広い利用が可能です。三訂版では、新たに介護保険などの用語を収録し、内容が一層充実。

中央法規出版

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-36-1

Tel.03-3379-3861 Fax.03-5358-3719 <http://www.chuohoki.co.jp/>

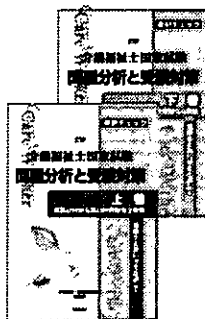
受験生とともに
考えながら

介護福祉士国家試験 問題分析と受験対策 上・下巻

介護福祉・国家試験問題研究会 編

◆上巻 B5判 本文 307頁
定価 2,835円(本体2,700円) 送料 340円

◆下巻 B5判 本文 321頁
定価 2,835円(本体2,700円) 送料 340円



1冊に全科目を収録

14科目 介護福祉士国家試験 要点解説と模擬問題集

◆特徴として、各科目毎に「学習のねらい」を示し、その課題で何を学ぶのかについて要点を書き、さらに重点項目を挙げて解説しています。

監修 武下 浩・久保田 トミ子
編集 介護福祉士ティーチング研究会

◆B5判 定価 3,045円(本体2,900円) 送料 340円



シリーズ一気づくから学ぶ

77のワークで学ぶ

対人援助ワークブック

◆対人援助技術演習を学ぶ方々にとって、よりたくさんのワーク(77のワーク)で学習し、理解を深めていくことを目的とし、気づくから学ぶというプロセスを重視した構成です。又、直接書き込める点など他にない工夫を凝らした書です。

対人援助実践研究会 HEART 編

◆B5判 定価 2,940円(本体2,800円) 送料 340円



対人援助実習 サポートブック

◆実習現場において、よくある質問にただ答えるのではなく、質問に対しワークをあげ、逆に問いかける等気づくから学ぶというプロセスを重視した構成となっています。又、実習生や教員だけでなく、受け入れ機関・施設の方々にも実習指導の参考になる書です。

対人援助実践研究会 HEART 編

◆B5判 定価 1,785円(本体1,700円) 送料 340円



お問い合わせ・ご注文は…



久美出版

〒604-8214 京都市中京区新町通錦小路上ル
tel : 075 - 251 - 7122 Email: info@kumi-web.co.jp
fax : 075 - 251 - 7133 <http://www.kumi-web.co.jp>



2004年
東京福祉大学グループは

日本一
の合格者数です!

社会福祉士国家試験 748名
精神保健福祉士国家試験 223名

東京福祉大学に2005年4月開設

介護福祉士と社会福祉士を両方取得し、高齢社会を支える高齢者福祉・障害者福祉のスペシャリストを養成

社会福祉学部社会福祉学科 介護福祉コース

★介護福祉士と社会福祉士専門任用資格を卒業時に取得し、お年寄りのこころを支える介護福祉士をめざすコース介護福祉士学科(2年)もあります。

卒業と同時に取得。養護学校・養護教諭などの免許状も取得でき、子育て支援の専門家になれます。

保育士と幼稚園教諭1種 免許状を取得 保育児童学科

池袋または名古屋の学習センターに通学して、

東京福祉大学を卒業! 大学の入学試験なし!

大学通学部3年次編入学制度あり

総長のハーバード大学教育学大学院での研究成果を日々の教育に生かしています。

東京福祉大学名古屋学習センター
名古屋福祉保育系整頓校

お問い合わせは 名古屋四郎次郎記念学道入相校舎まで

TEL.0120-159672

URL <http://www.nagoya-college.ac.jp>



東京福祉大学

TOKYO UNIVERSITY OF SOCIAL WELFARE

〒372-0831 群馬県伊勢崎市山王町2020-1

お問い合わせは 入学課まで

TEL.0270-20-3673 FAX.0270-20-3693

URL <http://www.tokyo-fukuehi.ac.jp>

東京福祉大学学習センター
東京福祉保育系

お問い合わせは 入学課まで

TEL.0120-800-626

URL <http://www.sunshine.ac.jp>

福祉をきわめる

金城大学 6つの教育プログラム

1. SEMINAR
少人数制のきめ細やかな授業
2. PRACTICAL TRAINING
豊富な実習
3. EQUIPMENT
最新機器を導入した実習室
4. VOLUNTEER
ボランティア活動の単位認定
5. TEACHING CERTIFICATE
多彩な教員免許の取得が可能
6. SUPPORT
「社会福祉士」資格サポート

就職率92.8%

「就職に強い学部」
はここだ!
文系ベスト100
ランキング全国第二位
2004.10.9 週刊東洋経済



金城大学は、明日の福祉社会を支えるエキスパートの養成を使命と考えます。経験豊富な指導陣による実践的なカリキュラム、多彩なサポートシステムなど、6つの教育プログラムで、一人ひとりの個性を尊重した教育を実践しています。人と向き合い、自分自身と向き合える学舎——。金城大学であなた自身の未来がひらけます。

社会福祉学部 社会福祉学科 コースと取得可能資格

社会福祉コース
社会福祉士受験資格
養護学校教諭1種*
高等学校教諭1種(公民)*
高等学校教諭1種(福祉)
中学校教諭1種(社会)*

介護福祉コース
社会福祉士受験資格
介護福祉士資格
養護学校教諭1種
高等学校教諭1種(公民)
高等学校教諭1種(福祉)*
中学校教諭1種(社会)

注: 教員免許のうち、※印は各コース比較的数量なく取得できる教員免許です。

学園創立101周年

金城学園は1904年に創立。
今年で101周年を迎えます。



夢、まっすぐに未来へ

金城大学 社会福祉学部

〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 金沢市南郊 金沢・小松駅から25分(JR15分+徒歩9分)
TEL: 076-276-4400(代) FAX: 076-275-4316
<http://www.kinjo.ac.jp/> E-mail daigaku@kinjo.ac.jp

21世紀の マネージメント像を探り、 実践する人材育成

「福祉」の知識と技術、「経営」の知識を両面から学ぶことができる大学です。どちらも現場体験を通しての学びを積極的に取り入れていきます。

「利用者のADLは低下するばかり」「現場の改善を上司や管理者に言っても取り合ってくれない」という福祉の現場でのストレスが叫ばれているなか、「福祉」の知識・技術に加えて「経営」「マネージメント」の知識を備えた人材には、より創造的な仕事が続いているといえるでしょう。

カリキュラムは、社会福祉士の受験資格、「福祉」教員免許取得に向けて十分な科目が組まれています。また、「福祉事業経営論」や「社会政策論」などのマネージメントに関する科目もあり、「会計学」や「人事管理論」「人材開発とモチベーション」といった経営に関わる科目を履修することが可能です。学生が卒業後、福祉の現場において、又、管理者として、成長できるようにカリキュラムを整えています。



OBIRIN

桜美林大学

Tel.042-797-1583

経営政策学部ビジネスマネージメント学科

http://www.obirin.ac.jp info-ctr@obirin.ac.jp

関連する学科等 | 文学部健康心理学科(精神保健福祉士国家試験受験資格) 大学院 国際学研究所老年学専攻(博士前期課程・後期課程)

ちから 福祉の人財を育てています

学校法人 岐阜済美学院

中部学院大学

人間福祉学部／人間福祉学科・健康福祉学科

■中部学院大学大学院 ■中部学院大学通信教育部

中部学院大学短期大学部

幼児教育学科・社会福祉学科・経営学科・専攻科(福祉)

〒501-3993 岐阜県関市倉知4909-3 TEL.0575-24-2211(代)

<http://www.chubu-gu.ac.jp/>

福祉社会で、高齢化社会で…
人と人をつなぐ明日への架け橋をめざして。

人間福祉学科

社会福祉コース
精神保健福祉コース



きっと見つかる なりたい自分 きっと広がる わたしの未来

広島文教女子大学

〔人間科学部〕 人間言語学科 / 初等教育学科
人間福祉学科 / 心理学科
人間栄養学科

〒731-0295 広島市安佐北区可部東1丁目2番1号
TEL. 082-814-3191(代) FAX. 082-815-6801
URL <http://www.h-bunkyo.ac.jp>



Shiga Bunka College

滋賀文化短期大学

tel 0748-22-3388 fax 0748-23-7202

E-mail cl-admin@newton.ac.jp

HP www.newton.ac.jp/tandai/



Knowledge
Virtue
Art

東京家政学院大学人文学部人間福祉学科

社会福祉専攻 ・ 介護福祉専攻

社会福祉専攻

総合的・専門的な実践能力の習得を重視し、社会福祉士や精神保健福祉士として様々な福祉現場で活躍できる人材を育てます。学生全員が福祉施設・機関で実習が可能であり、相談援助に必要な知識と技術を中心に学びます。卒業生は児童、障害者、高齢者のための福祉施設や社会福祉機関、公務員として活躍しています。

主な取得資格：社会福祉士国家試験受験資格 精神保健福祉士国家試験受験資格 高等学校教諭1種免許状（福祉）など

介護福祉専攻

介護のスペシャリストとして活躍するため、1年次より多彩な領域を学び、専門的な力を身に付けます。授業では、1クラス30名の少人数制教育のもと、一人ひとりの学生の個性を伸ばし、人としての成長を支えます。卒業生は高齢者や障害者のための施設、病院などで専門性の高い仕事をしております。

主な取得資格：介護福祉士（卒業時取得可能） 高等学校教諭1種免許状（福祉）など

所在地 町田キャンパス 〒194-0292 東京都町田市相原町2600番地

お問い合わせ先 町田校舎・入試課 TEL042-782-9411 FAX042-782-1711

ホームページアドレス <http://www.kasei-gakuin.ac.jp/>

地域と共に歩む大学へ

新潟青陵大学 看護福祉心理学部

看護学科(定員80名)

取得可能資格 看護師、保健師、助産師、養護教諭第1種免許

福祉心理学科(定員100名)

取得可能資格 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、認定心理士など

新潟青陵大学短期大学部

人間総合学科(定員160名)

取得可能資格 2級衣料管理士、フードスペシャリスト資格、ビジネス実務士など

人間総合学科介護福祉コース(定員40名)

取得可能資格 介護福祉士など

幼児教育学科(定員100名)

取得可能資格 幼稚園教諭2種免許、保育士など

[お問い合わせ]

〒951-8121 新潟市水道町1丁目5939番地

TEL 025-266-0127(代)

FAX

025-267-0053

URL <http://www.n-seiryu.ac.jp/>

E-Mail

pr@n-seiryu.ac.jp

第一福祉大学

(募集人員)

人間社会福祉学部

社会福祉学科 200名
 介護福祉学科 100名
 人間福祉学科 100名

心理学科 100名
 福祉産業学科 100名

(入試日程)

入試区分	一般入試	A O 入試
出願期間	後期 2/1(火)~3/11(金)	3/23 ただし、エントリーは 3/22まで随時受付中
試験期日	後期 3/17(木)	エントリーシート提出者と調整して決定し、通知します
合格発表	後期 3/24(木)	2/16 2/28 3/9 3/15 3/26

一般入試／(国語) 国語Ⅰ・Ⅱ(古文・漢文を除く) (外国語) 英語Ⅰ・Ⅱ (理科) 生物ⅠB
 (地理・歴史) 日本史B (数学) 数学Ⅰ
 上記の中から1教科・1科目を選択する。

[お問い合わせ・大学案内等請求(無料)は]

〒818-0194 福岡県太宰府市五条3丁目10-10

TEL (092)-918-6517 FAX (092)-918-6522

一人ひとりを大切にする教育

ルーテル学院大学

総合人間学部

社会福祉学科

高い就職率と、高い国家試験合格率!

ソーシャルワーカーとして即戦力となる人材を養成。毎年、社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格試験に多数合格し、就職希望者の8割が社会福祉の現場に就職しています。

臨床心理学科

“こころ”のスペシャリスト養成!

2005年度新設の学科。実践を重視した授業で、臨床心理士の資格取得の基盤となる教育を提供。認定心理士だけでなく、精神保健福祉士の国家試験受験資格も取得できます。

キリスト教学科

中高教員(宗教科)、学芸員取得可!

キリスト教の文化、歴史、言語などを系統的に学びます。牧師、中学・高校教諭(聖書科)、学芸員を目指す3つのコースも用意。ノンクリスチャンの方も広く受け入れます。

【2005年度オープンキャンパス】 4/2(土) 6/26(日) 7/18(祝)
 7/30(土) 8/27(土) 9/23(祝) 11/3(祝) 12/17(土)

大学院 総合人間学研究科

社会福祉学専攻(博士前期・後期)
 臨床心理学専攻(修士)も開設!

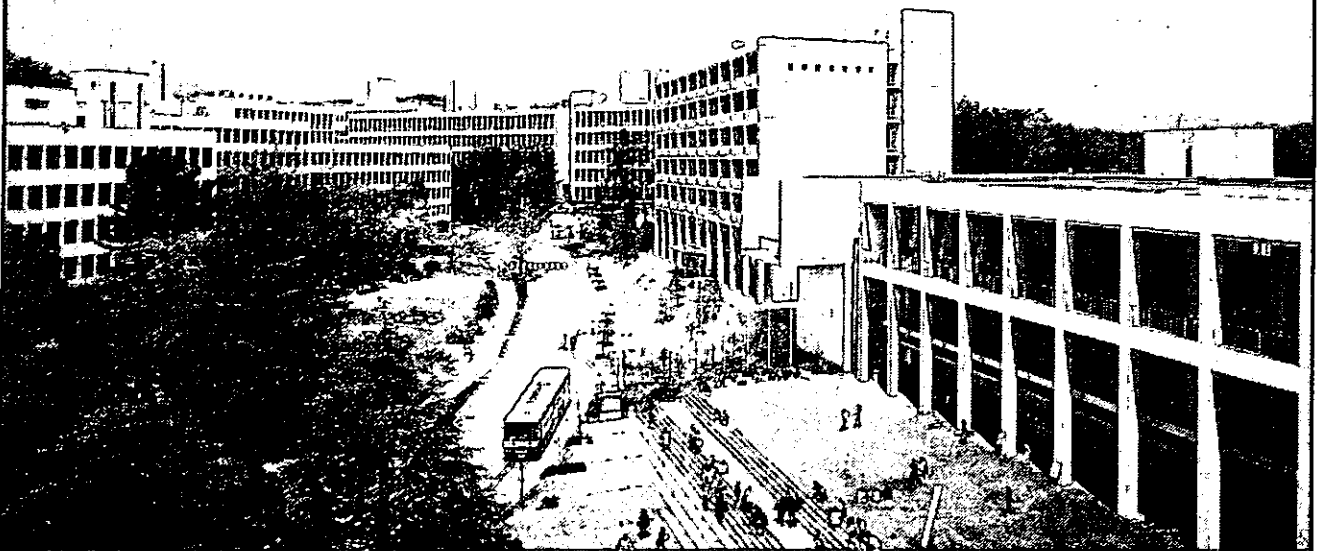


ルーテル学院大学

〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-20 ルーテル学院大学広報課
 TEL.0422-32-2949 E-mail:koho@luther.ac.jp http://www.luther.ac.jp
 JR武蔵境駅からバス8分。京王線調布駅からバス20分。「西野」下車徒歩3分

大学案内無料送付

あなたの可能性を一緒に探したい。



■梅花女子大学 現代人間学部 人間福祉学科 (社会福祉専攻・保育福祉専攻・介護福祉専攻) / 心理学科 / 生活環境学科 文化表現学部 国際英語学科 / 児童文学科 / 日本文化創造学科 / 情報メディア学科

■梅花女子大学短期大学部 生活科学科 (調理・製菓専攻 (調理コース/製菓コース/食彩コース)・造形デザイン専攻) / 英語コミュニケーション学科 / 日本語表現科

■梅花女子大学大学院 文学研究科 (日本文学専攻 (修士)・英米文学専攻 (修士)・児童文学専攻 (博士)・人間福祉学専攻 (修士)・心理臨床学専攻 (修士))

大阪府茨木市宿久庄2丁目19-5 〒567-8578 ☎072-643-6221(代) ☎072-643-8473 (女子大/大学院) ☎072-643-7687 (短大)

BAIKA 学校法人 梅花学園

BAIKA
1878

<http://www.baika.ac.jp/>

■梅花高等学校 ■梅花中学校 ■梅花幼稚園

大阪府豊中市上野西1丁目5-30 〒560-0011 ☎06-6852-0001(代) ☎06-6852-0151(高校/中学) ☎06-6854-1320(幼稚園)



四国学院大学

SHIKOKU GAKUIN UNIVERSITY

社会福祉学部子ども福祉学科(2005年4月開設予定)

—保育士養成施設設置計画中—

新しい生命が宿った時から18歳までの、

「子育て」「子育ち」を見つめます。

伝統ある社会福祉をベースに、子育て子育ち支

援を担う専門家を育成します。



文学部

言語文化学科
人文学科
教育学科

社会福祉学部

社会福祉学科
子ども福祉学科

社会学部

応用社会学科
カルチュラル・
マネジメント学科

大学院

比較言語文化専攻
社会福祉学専攻
社会学専攻

〒765-8505 香川県善通寺市文京町3-2-1



0120-459-433

<http://www.sg-u.ac.jp>

立正大学社会福祉学部は、
幅広く学べるカリキュラムを用意し、
社会福祉専門職の多分野にわたる
リーダーを育成しています！



立正大学社会福祉学部

社会福祉学科 人間福祉学科 社会福祉学研究科
(大学院)

住所：〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

電話：048-536-1328 048-536-2522(FAX)

ホームページ：<http://www.ris.ac.jp> <http://www.ris-fuku.com>

淑徳大学

【千葉キャンパス】

◆総合福祉学部

(平成17年4月、社会学部を名称変更)
社会福祉学科/心理学科/社会学科

◆大学院 総合福祉研究科

(平成17年4月、社会学研究科を名称変更)
社会福祉学専攻博士前期・後期課程
心理学専攻修士課程
社会学専攻博士前期・後期課程

〒260-8701 千葉市中央区大蔵寺町200
Tel. 043-265-7331 (代)

入学 についての
お問合せ ▶ 千葉アドミッションセンター 043-265-6881

【みずほ台(埼玉)キャンパス】

◆国際コミュニケーション学部

人間環境学科/経営コミュニケーション学科/
文化コミュニケーション学科

- | | |
|-----------------|------------------|
| ○ スポーツ&ウエルネスコース | ○ 英語コミュニケーションコース |
| ○ 教育実践コース | ○ 環境政策コース |
| ○ メディア表現コース | ○ 福祉環境コース |
| ○ 創作表現コース | ○ 福祉経営コース |
| ○ 歴史文化コース | ○ 経営コミュニケーションコース |

◆大学院 国際経営・文化研究科

国際経営専攻修士課程/国際文化専攻修士課程

〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1
Tel. 049-274-1511 (代) フリーダイヤル:0120-491-097

入学 についての
お問合せ ▶ みずほ台アドミッションセンター 049-274-1506

【池袋サテライト・キャンパス】

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-10-1 住友池袋駅前ビル6F Tel. 03-5979-7061 (代)

<http://www.shukutoku.ac.jp/>

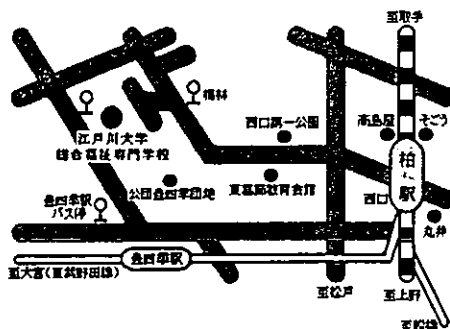
きっとキミの力になれる 江戸川大学総合福祉専門学校

◇介護福祉科 ◇児童福祉科 ◇社会福祉科 ◇健康福祉科 ◇福祉心理科 ◇精神保健福祉科

携帯可

0120-538-505

〒270-0198 千葉県流山市駒木474 URL <http://edosen.jp>
携帯URL <http://edonet.jp> E-mail fukushi@edogawa-u.ac.jp



交通案内：JR柏駅西口からバス10分梅林下車。
または東武野田線四季駅徒歩12分。

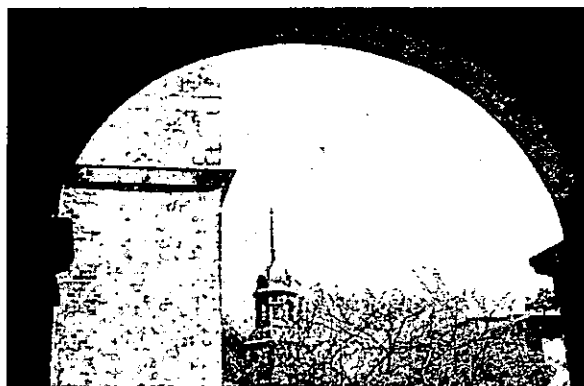
同志社の「良心」教育を礎にした福祉スピリット「底辺に向かう志」をもった
幾多の人材を輩出。

同志社大学 社会学部 社会福祉学科

推薦選抜入学試験(公募制)を実施

将来、社会福祉実践現場のフロントランナーとして働く意志をもつあなたを歓迎します。

- 神学部(神学科)
- 文学部(英文学科/哲学科/心理学科/
美学芸術学科/文化史学科/国文学科)
- 社会学部(社会学科/社会福祉学科/メディア学科/
産業関係学科/教育文化学科)
- 法学部(法学科/政治学科)
- 経済学部(経済学科)
- 商学部(商学科)
- 政策学部(政策学科)
- 文化情報学部(文化情報学科)
- 工学部(知識工学科/情報システムデザイン学科/
電気工学科/電子工学科/機械システム工学科/
エネルギー機械工学科/機能分子工学科/
物質科学工学科/環境システム学科)



Doshisha University

Since 1875

IT力で、明日の福祉を支える

福祉と情報を融合した日本初の学部

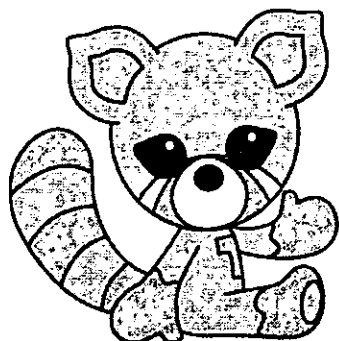
徳山大学 福祉情報学部

福祉情報学科(定員 100名)

2年次からそれぞれの志望にあったコースを選択



- 社会福祉コース…福祉のスペシャリスト 社会福祉士受験資格取得を目指します。
- 福祉情報コース…21世紀の福祉社会をITで支える情報リーダーを養成します。



徳山大学 経済学部/福祉情報学部

〒745-8566 山口県周南市久米栗ヶ迫 843-4-2

☎ 0834-28-5302(入試室直通)

<http://www.tokuyama-u.ac.jp>

E-mail: nyushi@tokuyama-u.ac.jp



Nankai College of Social Work

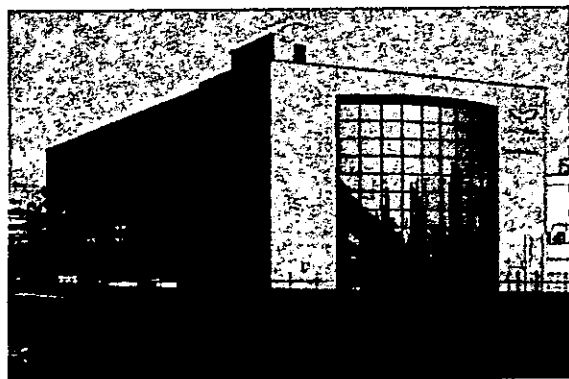
厚生労働大臣指定

設立 昭和43年4月

専修学校専門課程

学校長 山田 溪

南海福祉専門学校



設置課程・募集人員・取得資格

- 児童福祉科 (2年・昼間・男女) 100名
(保育士
児童厚生指導員(選択)
保健児童ソーシャルワーカー(選択))
- 社会福祉科 (2年・昼間・男女) 40名
(社会福祉主事任用
社会福祉士受験(卒業後実務経験2年)
訪問介護員2級(選択))
- 介護福祉科 (2年・昼間・男女) 70名
(介護福祉士)
〔各科共通…レクリエーションインストラクター(児童福祉科は選択)〕

入学資格

- 高校卒業の者 (卒業見込みの者を含む)
- 高卒と同等以上の学力を有する者
- 社会福祉士専攻科 (1年・昼間・男女) 40名
- 社会福祉士養成通信課程 (1年7カ月)
〔共に社会福祉士受験資格取得〕

〒592-0005 大阪府高石市千代田 6-12-53

☎ 0120(294)329

電話 072(262)1094

FAX 072(261)7886

<http://www.kanku-city.or.jp/nansen>

(南海本線「北助松」駅下車 徒歩約10分)

入学案内などの資料は無料送付します



ひたむきに、真剣に。 日本福祉大学



文部科学省 現代GPに 採択。

現代社会において要請の高い教育テーマに対する大学・短期大学等の取り組みをバックアップする「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（＝現代GP）」に、本学が提出した「知多広域圏活性化に向けた学生の地域参加 学部の実践型教育の強化を通じて」が採択されました。今回提案したプログラムの大きな狙いは、大学が進める地域貢献に学生が主体的に参加して、地域再生への一翼を担い、同時に真の実践力を身につけることです。教育と地域貢献の融合のために私たちができること。日本福祉大学は、地域に育てられ、地域を育む大学を実践しています。

COE^{*1}・特色GP^{*2}・現代GP

トリプル採択は、東海地区私立大学で唯一。

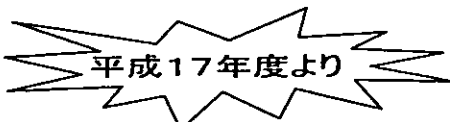
【全国21大学・私大6大学】

*1:研究水準の向上と世界をリードする人材育成のために、文部科学省が支援をおこなうプログラム。*2:「特色ある大学教育支援プログラム」の総称。高等教育の改善を目的に、文部科学省が特色あるすぐれた大学教育を選定・支援するプログラムです。

日本福祉大学

www.n-fukushi.ac.jp

社会福祉学部 社会福祉学科/保健福祉学科/心理福祉学科 経済学部 経済学科
情報社会科学部 人間福祉情報学科/生活環境情報学科 福祉経営学部 経営・福祉マネジメント学科/国際福祉実践マネジメント学科
看護学部 大学 福祉社会学研究科/高齢・障害開発研究科/国際社会福祉研究科(遠隔教育)
〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田 入学広報課 TEL.0569-87-2212 (平日9:30~17:00 土曜日は12:00まで)



平成17年度より

社会福祉学科では、実務型教育の要望に応えた 魅力の3コース制を導入！！

■社会福祉士コース

～社会福祉士国家試験の高い合格率をめざします～

■生活支援コース

～「生活の質」を高める支援者を育成します～

■福祉心理コース

～日本心理学会認定心理士をめざします～

※3コースとも社会福祉士国家試験受験資格を得られます。



つくば国際大学

産業社会学部 産業情報学科 社会福祉学科

〒300-0051 茨城県土浦市真鍋6丁目20番1号 TEL.029-826-6000
【ホームページ】http://www.ktt.ac.jp/tiu/ 【Eメール】tiutjob@beige.ocn.ne.jp

美容を通じて
人々の健康・福祉に貢献する

山野美容芸術短期大学

美容福祉学科 (3年制)

高齢者と障害者に[生きがい]
をサポートする介護福祉士の
資格を持つ美容師を育成

美容芸術学科 (2年制)

美的感性と創造的な知識・技
術を身に付けた、国際的に活
躍できる優れた美容師を育成

美容保健学科 (2年制)

心身の健康を美の創造に結び
つけ、「オールラウンド」の美
容師を育成。

〒192-0396

東京都八王子市鎌水530

TEL 0426-77-0111

FAX 0426-77-0234

URL <http://www.yamano.ac.jp/>

E-mail info2@yamano.ac.jp

キャリアへの道を協力サポート



SHUKUTOKU

淑徳短期大学

『栄養』『福祉』『保育』『介護』

～なりたい『自分』に出会う場所～

食物栄養学科
栄養コース

社会福祉学科

社会福祉専攻

社会福祉コース

児童福祉コース

介護福祉専攻

介護福祉コース

取得できる主な資格

栄養士・保育士・介護福祉士

管理栄養士受験資格(要実務経験3年)

社会福祉士受験資格(要実務経験2年)

平成16年度就職率実績
94.5%

資料配布中

お電話・メールなどで
お申し込みください。(無
料)請求書が来たら、
お受け付けいたします。



請求書

〒174-0063 東京都板橋区前野町6-32-1 (入学相談室)

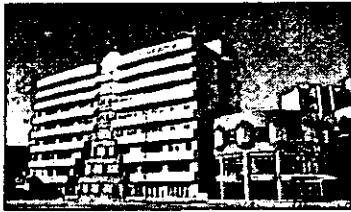
TEL 03-3966-7637 FAX 03-3966-6579

URL <http://www.jc.shukutoku.ac.jp/>

～Well-being の追求～

関西福祉科学大学

「臨床」教育を通じて「よりよく生きる」ことを
支援する専門家を養成します



関西女子短期大学

真のプロフェッショナルを創り育て
卒業後の豊かな人生を約束します



高い就職率

夢が現実になる

を誇ります

【めざす分野】

社会福祉学部		健康福祉学部	
社会福祉学科	臨床心理学科	健康科学科	福祉栄養学科
社会福祉士 精神保健福祉士	臨床心理士 [※] 心理支援専門家	養護教諭(1種) 産業カウンセラー	管理栄養士 食品衛生管理者

【めざす分野】

歯科衛生 学科	保健科		保育科		
	養護・保健 コース	医療秘書 コース	幼児教育 コース	保育福祉 コース	臨床保育 コース
歯科衛生士	養護教諭 (2種)	医療秘書	幼稚園教諭・保育士		

※財団法人日本臨床心理士資格認定協会指定大学院修士課程修了が必要(本学大学院心理臨床学専攻修士課程は第1種指定大学院です。)

【問い合わせ先】入試広報部 〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘 3-11-1
 (TEL)大学:0729-78-0676 短大:0729-78-0640(FAX 共通)0729-78-0377
 (HP) 大学:<http://www.fuksi-kagk-u.ac.jp> 短大:<http://www.kwc.ac.jp>
 (アクセス方法) ●近鉄大阪線「河内国分」駅(急行停車駅)又は、「大阪教育大前」駅下車徒歩 12 分
 ●JR 大和路線「高井田」駅下車、徒歩 25 分(スクールバス運行あり)

テレメール。

「入試要項・願書」がすぐ手に入る！
24 時間コンピュータ応答受付(送料無料)
TEL 050-2011-0102

資料番号 大学 150665 短大 174820

本学女子駅伝部は全日本大学女子駅伝大会で6位！！出場3
年目にして来年度のシード権を獲得しました！福祉総合学
部の学生も多く在籍し元気に走っています！



学校法人 城西大学

城西国際大学

福祉総合学部

千葉県東金市求名 1 番地

大学代表電話 0475-55-8800

徳と知

Virtus et Scientia KYOTO NOTRE DAME UNIVERSITY



www.notredame.ac.jp

個人教育に徹底教育で充実の学び
国際理解を重要視し国際社会に貢献出来る人材育成



京都ノートルダム女子大学

〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町 1番地
入試テレホンサービス: 075-706-3748 TEL: 075-706-3747 (入試課) FAX: 075-706-1355

充実した資格・技能取得

取得可能資格

教育職員免許状(中学校一種家庭ノ高等学校一
種家庭・福祉) 学校図書館司書教諭資格 図書館
司書資格 社会福祉士受験資格 社会福祉主
事任用資格 二級建築士受験資格 レクリエー
ション・インストラクター資格 福祉レクリエー
ション・ワーカー資格 日本赤十字社救急法救急
員資格 健康管理士一般指導員受験資格 フー
ドスペシャリスト受験資格



生活福祉文化学科

人間文化学部

英語英文学科 英語圏文学・文化領域 英語学領域
コミュニケーション領域 英語スペシャリスト領域
人間文化学科 交際文化学領域 情報文化学領域 芸術学領域
生活福祉文化学科 生活文化領域 生活福祉領域

心理学部

心理学科 発達心理専攻 学校心理専攻 臨床心理専攻



関西福祉大学

KANSAI UNIVERSITY of SOCIAL WELFARE

入試センター 0791-46-2500 (直)

URL <http://www.kusw.ac.jp>

〒678-0255 兵庫県赤穂市新田 380-3

E-mail kusw-info@kusw.ac.jp



地域社会に貢献できる人間性を養い、
未来を見据える視野を育む。

学部学科: 社会福祉学部社会福祉学科

専門性を高める「コース制」でダブル資格取得にチャレンジ!!

■総合福祉コース ■精神保健・医療福祉コース
■心理福祉コース ■児童福祉コース

本学で取得できる資格

国家試験受験資格

■社会福祉士 ■精神保健福祉士

卒業と同時に取得できる資格

■高等学校教諭一種免許状「福祉」 ■保育士
■認定心理士

任用資格

■社会福祉主事 ■児童福祉司 ■児童指導員 ■家庭相談員

就職率 2004年3月卒業生 98.5%

「保健・医療・福祉」を担う広い視野を持った人間味あふれる人材を育成します。



九州保健福祉大学

- 社会福祉学部
東洋介護福祉学科
スポーツ健康福祉学科
福祉環境マネジメント学科
臨床福祉学科
- 保健科学部
作業療法学科
言語聴覚療法学科
視機能療法学科
- 薬学部
薬学科
- 通信教育部
社会福祉学部
臨床福祉学科
- 大学院
社会福祉学研究科 修士課程
- 大学院(通信制)
社会福祉学研究科 修士課程／博士(後期)課程
保健科学研究科 修士課程／博士(後期)課程

【お問い合わせ先】九州保健福祉大学 入試広報室 Tel 0982-23-5544(直通)
〒882-8508 宮崎県延岡市吉野町1714-1

<http://www.phoenix.ac.jp>

Love your neighbor as you love yourself



保健・医療・福祉の
諸分野で働く人材を世界に。

看護、リハビリテーション、福祉という3つの分野のスペシャリストを育成する聖隷クリストファー大学。
それぞれの学部では高度な専門知識と技術を探究しますが、同時に、この3分野には共通のベースがあります。
それは、「人を支える」ということ。看護は、健康を守ること、病氣やけがからの回復を、
リハビリテーションは、再び自分らしく生きるための道のりを、
そして福祉は、さまざまな困難を抱える人の暮らしを、それぞれ「支える」ための活動です。
その中心に在るのは、常に「人」。
私たちは、隣人愛の心を基本理念として「人を支える人」を世界に送り出してゆく大学です。



保健・医療・福祉の研究

聖隷クリストファー大学

看護学部 / リハビリテーション学部 / 社会福祉学部
大学院 看護学研究科 / 社会福祉学研究科

〒433-8558 静岡県浜松市三方町3463

<http://www.seirei.ac.jp>

【入試・広報センター】Tel.053-439-1401

面倒見のよい大学。入って伸びる大学。

設置学部・学科

政治経済学部/政治経済学科・コミュニティ政策学科

人文学部/欧米文化学科・日本文化学科

人間福祉学部/児童学科・人間福祉学科



Love God and Serve His People

聖学院大学

アドミッションセンター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL:048-725-6191 (ダイヤルイン)

<http://www.seigakuin-univ.ac.jp>